

佐賀大学経済学部経済学科

設置の趣旨等を記載した書類（資料）

資料目次

資料 1	佐賀大学のこれから ―ビジョン 2030―	P. 2
資料 2	2040 年の就業構造推計（改訂版）について	P. 5
資料 3	2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）	P. 9
資料 4	我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～（答申）	P. 12
資料 5	2040 年を見据えた教育改革～個の主体性を活かし持続可能な未来を築く～	P. 17
資料 6	佐賀県施策方針 2023	P. 20
資料 7	実践智で未来を拓く ―佐大ビジョン 2040―	P. 22
資料 8	経済学部における養成する人材像及び 3 つのポリシーの各項目との相関図	P. 30
資料 9	経済学部におけるカリキュラムポリシーと教育課程の関連性	P. 31
資料 10	佐賀大学 学士力	P. 36
資料 11	佐賀大学経済学部カリキュラムマップ	P. 37
資料 12	令和 8 年度（2026）大学コンソーシアム佐賀 共通教育科目一覧	P. 42
資料 13	佐賀大学における多様なメディアを高度に利用して行う授業に関する要項	P. 44
資料 14	2027 年度（令和 9 年度）佐賀大学入学者選抜要項	P. 46
資料 15	佐賀大学教授会規則及び佐賀大学経済学部教授会規程	P. 109
資料 16	国立大学法人佐賀大学教員会議規程	P. 113
資料 17	佐賀大学教育委員会運営内規	P. 115
資料 18	佐賀大学学士課程における教育の質保証に関する方針	P. 117
資料 19	佐賀大学学士課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン	P. 119

佐賀大学のこれから － ビジョン 2030 －

NEXT

2020 年 4 月 1 日
国立大学法人佐賀大学

平成18年3月15日 制定

佐賀大学憲章

佐賀大学は、これまでに培った文、教、経、理、医、工、農等の諸分野にわたる教育研究を礎にし、豊かな自然溢れる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、**地域と共に未来に向けて発展し続ける大学**を目指して、ここに佐賀大学憲章を宣言します

魅力ある大学

目的をもって生き活きと学び行動する学生中心の大学づくりを進めます

創造と継承

自然と共生するための人類の「知」の創造と継承に努めます

教育先導大学

高等教育の未来を展望し、社会の発展に尽くします

研究の推進

学術研究の水準を向上させ、佐賀地域独自の研究を世界に発信します

社会貢献

教育と研究の両面から、地域や社会の諸問題の解決に取り組みます

国際貢献

アジアの知的拠点を目指し、国際社会に貢献します

検証と改善

不断の検証と改善に努め、佐賀の大学としての責務を果たします

教 育

ビジョン

しなやかな知性と未知なる領域に踏み出す行動力を基盤に、多様な人々との協働を通して持続可能な社会を構築できる人材を育成する。

○背景

佐賀大学は地域に根差した国立の高等教育機関として、社会（地域）の発展に寄与するとともに、持続可能な社会を構築できる人材を育成しなければならない。

予測困難な時代を生き抜くためには、弾力性を持ったしなやかな知性に加え、未知なる領域に踏み出す行動力が求められる。持続可能な社会の構築には、固定観念にとらわれない創造的な発想が必要である。本学は、しなやかな知性と未知なる領域に踏み出す行動力が修得できる教育活動を展開するとともに、多様な価値観や背景を持つ人々との協働によって新しいアイデアや価値を生み出す学修経験を重視した教育を目指す。

アクション

1-1. 時代のニーズに対応した分野横断型の学位プログラムの構築

（ビジョンとの関係と到達イメージ）

持続可能な社会を構築するためには、複雑かつ急激に変化する社会の課題を自ら発見し、その課題を解決しなければならない。そのためには、専門的な知識だけでなく、特定の分野に留まらない幅広い知識と多様な視点とともに、課題解決に導くためのスキルや能力を修得した人材の養成が必要である。これを実現するために、多様な分野を持つ総合大学の強みを活かした分野横断型の実践的な学位プログラムを構築する。

到達イメージとしては、既存の教育分野の枠組みを超えた教育プログラムを新たに構築する。それに向けて同プログラムの効果を最大化するための教員配置を行う。また、「何を教えるか」から「何ができるようになるか」に教育目標を転換することにより、学修成果を可視的、構造的に捉えられる仕組みを構築する。なお、学位プログラムの領域は様々なものが想定されるが、既存の専門分野に限定する必要性は必ずしもない。社会で活躍するために基盤的な能力やスキルとして求められる柔軟な思考技術やコンピテンシーの修得を教育目標とし、多様な学修経験を積むことができる学位プログラムを構築することも1つの在り方である。

【関連する取組・プロジェクト】

- ・ 学部等連係課程の導入
- ・ 新たな教育分野の創出 など

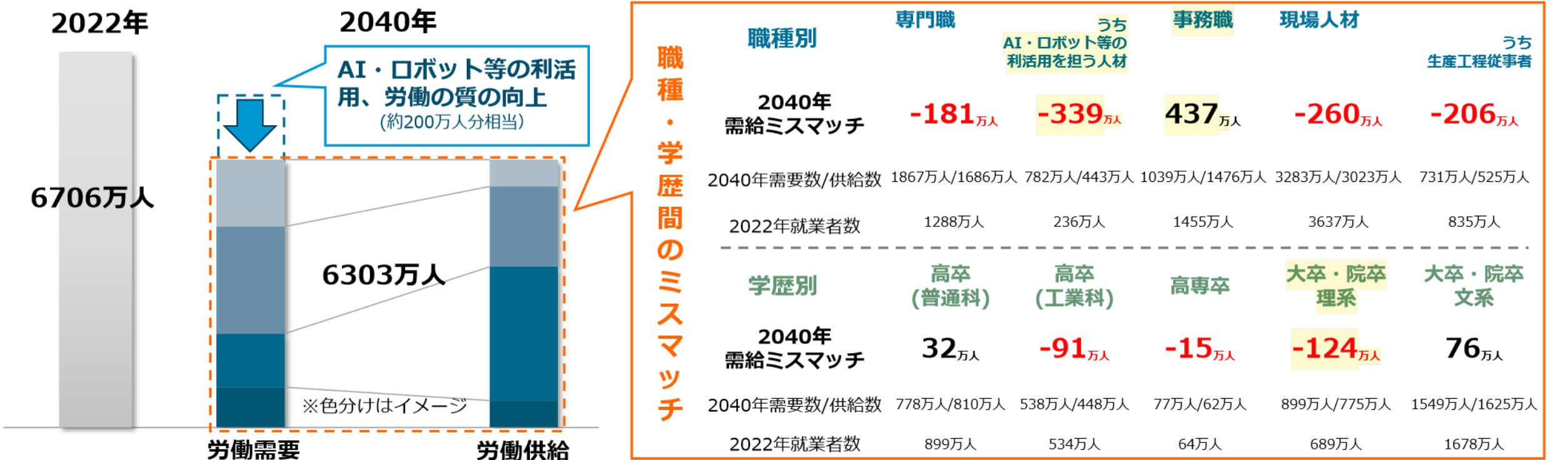
2040年の就業構造推計（改訂版）について

2026年 3 月

経済産業省 経済産業政策局

2040年の就業構造推計（改訂版）の概要

- 2040年に十分な国内投資や産業構造転換が実現する場合^(注)、人口減少により就業者数は約6700万人^(2022年)から約6300万人となるが、AI・ロボット等の利活用やリスキング等により労働需要が効率化され、全体で大きな不足は生じない。
- 一方で、職種・学歴・地域間では需給ミスマッチが生じるリスクがあり、事務職^(約440万人)や文系人材^(約80万人)が余剰、AI・ロボット等利活用人材^(約340万人)を含む専門職や現場人材^(約260万人)、理系人材^(約120万人)が不足する可能性。



(注) 2025年6月経済産業省産業構造審議会経済産業政策新機軸部会「第4次中間整理」における2040年の産業構造推計（新機軸ケース）を前提としている。また、2022年就業者数は、総務省「就業構造基本調査」（令和4年度）、文部科学省「学校基本調査」（令和4年度）の調査票情報を基に経済産業省が独自に作成・加工して利用しており、提供主体（総務省、文部科学省）が作成・公表している統計等とは異なる。

(注) 職種分類は令和4年就業構造基本調査で用いた職業分類（総務省）による。「専門職」は、専門的・技術的職業従事者を指す。うち「AI・ロボット等の利活用を担う人材」は、機械技術者やその他の情報処理通信技術者等の職種を集計。「現場人材」は、生産工程従事者、建設・採掘従事者、サービス職業従事者等の職種を集計。学歴は学校基本調査上の学部学科コードを元に高卒（資料）を6博士卒を含む。なお、右表には主要な項目のみ掲載しているため、ミスマッチ数の合計はゼロにならない。

全国版就業構造推計（改訂版）・職種間ミスマッチ

- AI・ロボット等利活用による省力化に伴い、事務職は約440万人の余剰が生じる可能性。
- 多くの産業において、AI・ロボット等利活用人材(約340万人)や現場人材(約260万人)が不足。

		専門職		事務職	現場人材		
				うち AI・ロボット等の 利活用を担う人材			うち 生産工程従事者 その他現場人材
全産業	2040年 需給ミスマッチ	-181万人	-339万人	437万人	-260万人	-206万人	-54万人
	2040年需要数/供給数	1867万人/1686万人	782万人/443万人	1039万人/1476万人	3283万人/3023万人	731万人/525万人	2552万人/2498万人
	2022年就業者数	1288万人	236万人	1455万人	3637万人	835万人	2803万人
主な産業の2040年の需給ミスマッチの内訳	農林水産業	-9	-7	-1	-110	-3	-107
	製造業	-149	-125	-40	-256	-198	-58
	情報通信業	116	102	50	13	2	11
	卸売業、小売業	-81	-77	26	-20	-4	-16
	建設業	-33	-26	20	-31	-2	-30
	宿泊業、飲食サービス業	-21	-21	2	12	0	12
	運輸業、郵便業	-25	-26	27	26	0	25

(注) 2022年就業者数は、総務省「就業構造基本調査」(令和4年度)、文部科学省「学校基本調査」(令和4年度)の調査票情報を基に経済産業省が独自に作成・加工して利用しており、提供主体が作成・公表している統計等とは異なる。
(注) 産業分類は令和4年就業構造基本調査で用いた産業分類(総務省)による。職業分類は令和4年就業構造基本調査で用いた職業分類(総務省)による。「専門職」は専門的・技術的職業従事者を指す。また、うち「AI・ロボット等利活用人材」は、機械技術者やその他の情報処理通信技術者等の職種を集計。「現場人材」は、生産工程従事者、建設・採掘従事者、サービス職業従事者等の職種を集計。なお、表中には主要な項目のみ掲載しており、ミスマッチ数の合計はゼロにならない。

都道府県×職種（2040年のミスマッチ数②）

都道府県	合計	専門職	うちAI・ロボット等の 利活用を担う人材	事務職	現場人材	うち生産工程従事者
福井県	-1.3	-1.3	-2.4	2.3	-1.9	-1.7
滋賀県	-2.2	-4.9	-6.4	4.4	-1.4	-3.6
京都府	-9.8	-0.8	-8.0	8.3	-18.2	-6.2
大阪府	16.8	-12.8	-22.3	31.3	-5.8	-17.8
兵庫県	8.4	-5.5	-13.4	16.4	-2.9	-7.5
奈良県	0.0	-2.4	-3.3	3.6	-1.3	-2.0
和歌山県	-4.6	-2.5	-3.2	2.1	-4.2	-1.5
鳥取県	-0.3	-0.8	-1.5	1.8	-1.3	-0.6
島根県	0.5	-0.8	-2.1	2.1	-0.6	-1.3
岡山県	-0.5	-1.8	-5.5	5.6	-4.2	-2.5
広島県	3.9	-3.2	-8.2	9.4	-2.2	-4.1
山口県	-0.2	-2.3	-3.3	3.7	-1.4	-1.9
徳島県	-1.6	-1.9	-2.3	1.9	-1.5	-1.2
香川県	-1.3	-2.1	-2.6	3.3	-2.4	-1.5
愛媛県	-2.6	-2.4	-3.8	3.4	-4.2	-2.3
高知県	-0.8	-1.1	-1.7	1.9	-1.6	-0.8
福岡県	7.9	-6.6	-14.4	19.8	-5.9	-9.0
佐賀県	-1.4	-1.5	-2.7	2.4	-2.5	-2.1
長崎県	-2.5	-2.8	-3.9	3.2	-3.5	-1.8
熊本県	-4.5	-3.9	-6.3	4.8	-5.2	-2.8
大分県	-5.0	-3.1	-4.0	2.9	-4.7	-2.1
宮崎県	-2.1	-2.1	-2.9	3.5	-3.7	-1.6
鹿児島県	-4.9	-3.2	-5.3	3.2	-4.6	-2.5
沖縄県	-18.3	-2.6	-5.6	5.4	-21.0	-1.0

（単位：万人）

（注）職業分類は令和4年就業構造基本調査で用いた職業分類（総務省）による。「専門職」は専門的・技術的職業従事者を指す。うち「AI・ロボット等の利活用を担う人材」は、機械技術者やその他の情報処理通信技術者等の職種を集計。「現場人材」は、生産工程従事者、建設・採掘従事者、サービス職業従事者等の職種を集計。なお、表中には主要な項目のみを掲載しており、合計の列の値と各項目を合計した値は一致しない。

2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン (答申)

平 成 3 0 年 1 1 月 2 6 日
中 央 教 育 審 議 会

(※)「各専攻分野を通じて培う学士力～学士課程共通の学習成果に関する参考指針
～」

(平成 20 年 12 月 24 日 中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」)

(1) 知識・理解、(2) 汎用的技能、(3) 態度・志向性、(4) 統合的な学習経験と
創造的思考力

こうした能力は、いわゆる一般教育・共通教育と専門教育の双方を通じて、また、学生の
自主的活動等も含む教育活動全体を通して育成されていくものである。

なお、今後の情報を基盤とした社会においては、基礎的で普遍的な知識・理解等に加えて、
数理・データサイエンス等の基礎的な素養を持ち、正しく大量のデータを扱い、新たな価値
を創造する能力が必要となってくる。基礎及び応用科学はもとより、特にその成果を開発に
結び付ける学問分野においては、数理・データサイエンス等を基盤的リテラシーと捉え、文
理を越えて共通に身に付けていくことが重要である。

予測不可能な時代の到来を見据えた場合、専攻分野についての専門性を有するだけではなく、
思考力、判断力、俯瞰力、表現力の基盤の上に、幅広い教養を身に付け、高い公共性・
倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社
会を改善していく資質を有する人材、すなわち「21 世紀型市民」（「我が国の高等教育の将来
像（平成 17 年 1 月 28 日 中央教育審議会答申）」以下「将来像答申」という。）が多く誕生
し、変化を受容し、ジレンマを克服しつつ、更に新しい価値を創造しながら、様々な分野で
多様性を持って活躍していることが必要である⁵。文理横断的にこうした知識、スキル、能力
を身に付けることこそが、社会における課題の発見とそれを解決するための学問の成果の社
会実装を推進する基盤となる。

特に、人工知能（AI）などの技術革新が進んでいく中においては、新しい技術を使ってい
く側として、読解力や数学的思考力を含む基礎的で普遍的な知識・理解と汎用的な技能を持
ち、その知識や技能を活用でき、技術革新と価値創造の源となる飛躍知の発見・創造など新

⁵ 「これからの時代に求められるのは、個々の能力・適性に合った専門的な知識とともに、幅広い分野や考え方を俯瞰し
て、自らの判断をまとめ表現する力を備えた人材である。また、求められる人材は様ではなく、むしろそれぞれが異
なる強みや個性を持った多様な人材によって成り立つ社会を構築することが、社会全体としての各種変化に対する柔軟
な強靱さにつながるものである。」（「高等教育における国立大学の将来像（最終まとめ）」平成 30 年 1 月 26 日 一般社
団法人国立大学協会）

「大学が育成すべき能力は、第一に、人間としてのあり方を常に問う主体的で洞察力に富んだ思考力であり、第二に、
AI による代替が不可能な分野で新たな職能を深めることのできる柔軟性であり、第三に過去と現在、変わるものと変わ
らぬものを知った上で、今日と未来の変化を理解し適切かつ主体的に判断する能力である。そして第四に、さらなる流
動化に備えて、地域（世界における日本、日本における各地域）を熟知し、日本及び地域が持っている資源を活用し、
その独自性を表現する能力である。」（「未来を先導する私立大学の将来像」平成 30 年 4 月 日本私立大学連盟）

たな社会を牽引する能力が求められる⁶。一言で言えば、AI には果たせない真に人が果たすべき役割を十分に考え、実行できる人材が必要となるのである。

（我が国の世界における位置付けと高等教育への期待）

2040 年を迎えるとき、我が国が世界の中で、どのような役割を果たすことができるのか、という観点は、我が国の高等教育の将来像を考える上で重要である。これまで我が国は、教育の力で人材と知的な財産を生み出し、世界の中で活躍の機会を得てきた。現在、我が国は、課題先進国として、少子高齢化や環境問題、経済状況の停滞等、世界の国々が今後直面する課題にいち早く対応していく必要に迫られている。成熟社会を迎える中で、直面する課題を解決することができるのは「知識」とそれを集約し、組み合わせて生み出す新たな価値となる「新しい知」である。その基盤となるのが教育であり、特に高等教育は、我が国の社会や経済を支えることのみならず、世界が直面する課題の解決に貢献するという使命を持っている。

世界の高等教育においては、国内の教育機会の提供の段階から、近隣諸国を含めた域内の教育機会の提供の段階を経て、高等教育がまだ充実していない地域での教育機会の提供の段階、そして、MOOC（Massive Open Online Course:大規模公開オンライン講座）をはじめとするオンラインでの教育機会の提供の段階へと在り方の多様化が進み、広がりを見せている。この変化を踏まえれば、高等教育システムは、国、地域を越えて展開される「オープン」な時代を迎えていると言える。

国境を越えた大学間競争は、世界大学ランキング等の影響もあり激化しており、国家を巻き込んだ競争に発展している。他方、情報通信技術の進歩等とも相まって、かつては相互に独立的に、あるいは孤立的、対立的に発展してきたそれぞれの社会セクターにおいても、他の社会セクター等との間の相互の参加や連携が不可欠となり、これらの動きにより、今日の社会にふさわしい形での自らの存立基盤や独自性の強化につながるということも増えてきている。大学も例外ではなく、大学間の国際的な連携・協力や、高等教育システムの調和を基礎として、高等教育の国際協力も進展している。既に人類が抱える課題は国境を越えたものとなっており、人類の普遍の価値を常に生み出し、提供し続ける高等教育を維持・発展させ

⁶ 「Society5.0を牽引するための鍵は、技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材と、それらの成果と社会課題をつなげ、プラットフォームをはじめとした新たなビジネスを創造する人材であると考えられる。」

「Society5.0において我々が経験する変化は、これまでの延長線上にない劇的な変化であろうが、その中で人間らしく豊かに生きていくために必要な力は、これまで誰も見たことがない特殊な能力では決していない。むしろ、どのような時代の変化を迎えるとしても、知識・技能、思考力・判断力・表現力をベースとして、言葉や文化、時間や場所を超えながらも自己の主体性を軸にした学びに向かう一人一人の能力や人間性が問われることになる。」

特に、共通で求められる力として、①文章や情報を正確に読み解き、対話する力、②科学的に思考・吟味し活用する力、③価値を見つけ出す感性と力、好奇心・探究力が必要であると整理した。」（「Society5.0に向けた人材育成」平成30年6月5日 Society5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会）

我が国の「知の総和」向上の未来像
～高等教育システムの再構築～
(答申)

令和7年2月21日
中央教育審議会

1. 今後の高等教育の目指すべき姿

(1) 直面する課題とこれまでの高等教育政策

世界では、気候変動などの環境問題、食料・水・資源・エネルギー等の不足、人口の爆発的な増加、緊張化する国際情勢、世界経済の不安定化、AIの進展による効率化とリスクなどの課題に直面している。このような世界情勢に加え、我が国において、最も重要な課題の一つは少子化である。18歳人口が昭和41（1966）年をピークに減少を続けており、令和6（2024）年現在約63万人いる大学進学者数は、2040年には約17万人減の約46万人となり、現在の定員規模の約73%へと大幅に減少すると予測される⁶。少子化と同時に高齢化も進むことから、生産年齢人口の減少による様々な分野での労働供給の不足が予測され、超高齢社会を支える成長ができるのかも課題となる。また、産業界ではデジタルトランスフォーメーション（DX）等に対応できる人材を求めているが、我が国はデジタル競争力で後れを取っており、社会的ニーズに対応した人材育成が進まなければ一層の人材不足が懸念される。さらに、地方創生の取組が本格的に始まってから10年が経過し、成果も見られる一方で、地方が厳しい状況にあることを重く受け止める必要がある。このような社会的変化に対して、解決策を講じていくことが急務となっている⁷。

社会の変化に伴い、高等教育を取り巻く状況も変化している⁸。初等中等教育段階の学びも大きく変化しており、それを受けて進学してくる学生に対して、どのような高等教育を提供していくかが問われることになる。また、学生の学修時間が依然として短いことが指摘されているが、各大学での学びの質と量を確保するための仕掛けである教学マネジメントの取組は道半ばであり、学修者本位の教育を実現すべく、教学マネジメントの確立、学生への教育支援体制の整備等、不断の取組が不可欠である。さらに、国際的な学生等の流動性が拡大し、留学生獲得競争が激化していることや、リカレント教育・リスキリングの必要性の高まり、障害のある学生への支援の充実の必要性、デジタル化への対応の必要性等も指摘されている。また、教育面のみならず、我が国の相対的な研究力の低下も深刻な問題となっており、研究力向上に向けた取組を進めることは必須である。加えて、高等教育機関と地方公共団体との連携に関しても各地域で差が見られる。

これまでの高等教育政策は、設置認可や補助金を通じた「量」に関する政策、制度改正を通じた「質」に関する政策、経済的支援に関する政策、大学運営に関する政策等が展開されてきたところである⁹が、上記のような社会や高等教育を取り巻く状況も踏まえながら必要な手立てを講じていくことが求められる。

⁶ 今後の進学動向等の変化によって、当該推計に変動があることに留意が必要である。

⁷ 補論1参照。

⁸ 補論2参照。

⁹ 補論3参照。

（２）目指す未来像

このように、急速な人口減少をはじめとする社会変化や高等教育を取り巻く状況の変化を踏まえ、我々が目指す未来像とは、一人一人の多様な幸せ¹⁰と社会全体の豊かさ（well-being）の実現を核とした、持続可能な活力ある社会であり、このような社会を、未来を担う次世代の全ての若者に引き継いでいく必要がある。

持続可能な社会となるためには、世界が直面する地球環境問題や食料・水資源・エネルギー等不足の解決、国際社会の平和と安定は欠かせない。

我が国においても、全体としての持続的な成長や、地方がそれぞれの特性に応じて発展していくことが重要である。そのためには、女性や高齢者、障害者、我が国以外の国籍を持つ者を含む多様な人材の労働参加、一人一人の生産性の向上、イノベーションや先端研究の成果がもたらす技術革新のいずれもが必要である。また、責任ある国際社会の一員として、我が国が国際的な規範の形成を主導していく上で、我が国の発言力や国際プレゼンスを向上させることも求められる。そして、多様な人々が理解し、尊重し合える社会を構築していくことも極めて重要である。

（３）育成する人材像

このような未来像を実現するために必要な資質・能力とは、生成 AI 等の技術革新が進む社会¹¹において AI に代替されるのではなく、AI をはじめとしたデジタル等の最先端の技術も使いこなし、持続可能な社会の担い手や創り手として真に人が果たすべきことを果たせる力といえる。これは、「主体性」、「リーダーシップ」、「創造力」、「課題設定・解決能力」、「論理的思考力」、「表現力」、「集中力・粘り強さ」、「コミュニケーション能力」等の資質・能力と言い換えることもでき、一人一人がそれぞれの個性に応じて身に付け、伸ばすことで、その能力を発揮していくことが期待される¹²。また、これらの基盤として、社会の発展に貢献する志や、人間力¹³も求められる。

その上で、このような資質・能力を一人一人が身に付けながら、社会・生活基盤を支える人材、地域の成長・発展をけん引する人材、世界最先端の分野やグローバルな競争環境で活躍する人材などの厚みのある多様な人材を育成していくことが求められる。そして、このような人材が社会に輩出されていく中で、多様な文化的背景に基づく価値観を持った人々が協働し、各々が持つ資質・能力を最大限生かしながら、身近なものから地球規模のものまで様々な課題を発見し、解決していくことが期待される。

また、社会が変革するスピードが今後より一層早まっていく中において、誰もが生涯にわたり意欲をもって学び続けていくことも求められる。

¹⁰ この幸せとは、経済的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさや健康も含まれる。

¹¹ なお、生成 AI の台頭が産業界において中間管理職の存在に大きな変化をもたらし、会社の方向性を決めるトップマネジメントの下、一義的に事務を手掛けるフロントラインの占める割合が飛躍的に高まることが予想されるとの指摘もある。

¹² 生成 AI 時代の DX 推進に必要な人材・スキル（リテラシーレベル）として、①マインド・スタンス（変化をいとわず学び続ける）やデジタルリテラシー（倫理、知識の体系的理解等）、②言語を使って対話する以上は必要となる指示（プロンプト）の習熟、言語化の能力、対話力（日本語力含む）、③経験を通じて培われる、「問いを立てる力」・「仮説を立てる力・検証する力」が重要との整理もある。（デジタル時代の人材政策に関する検討会「生成 AI 時代の DX 推進に必要な人材・スキルの考え方 2024～変革のための生成 AI への向き合い方～」（令和 6（2024）年 6 月））

¹³ 例えば、人間力戦略研究会「人間力戦略研究会報告書」（平成 15（2003）年 4 月）も参照。

（６）重視すべき観点

今後の高等教育の目指す姿を実現するに当たっては、特に以下に示す教育研究の観点、学生への支援の観点、高等教育機関の運営の観点、社会の中における高等教育機関の観点が重要である。

①教育研究の観点

ア．未来社会を担う人材に必要な資質・能力の育成

教育基本法¹⁶及び学校教育法¹⁷の規定や、中央教育審議会答申、政府及び関係機関における様々な提言・分析¹⁸においてこれまで示されてきた、「ユニバーサル段階」における高等教育機関が育成するこれからの時代を担う人材に必要なとされる資質・能力は、「21世紀型市民¹⁹」や「各専攻分野を通じて培う学士力²⁰」、「2040年に必要とされる人材²¹」のように、基礎的で普遍的な知識・理解、汎用的な技能等が中核とされている。これは、（３）で示した今後育成する人材像とも重なる。

特に、我が国の学士課程教育は、特定の学問分野に基づき学部・学科等が組織され、所属する学生に対して初年次から専門教育を実施する形が多くみられるが、現代は、専門を生かすための前提となる基礎的・汎用的な能力や分野を超えた専門知を組み合わせ、「総合知²²」の創出・活用が必要とされる時代である。情報基盤社会の基盤的リテラシーを身につけた上で、専門知そのものの深掘り・広がりとともに、専門知を持ち寄って多様な他者と対話し、交流・融合・連携を進めることにより、知の活力を生み出すことのできる人材が求められる。

このような観点から、リベラル・アーツ教育²³を中核に据えた学位プログラムや文理横

¹⁶ 平成 18 年法律第 120 号

¹⁷ 昭和 22 年法律第 26 号

¹⁸ 教育未来創造会議「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」（令和 4（2022）年 5 月）、未来人材会議「未来人材ビジョン」（令和 4（2022）年 5 月）、厚生労働省「令和 4 年版労働経済の分析－労働者の主体的なキャリア形成への支援を通じた労働移動の促進に向けた課題－」（令和 4（2022）年 9 月）、科学技術・学術政策研究所「第 11 回科学技術予測調査 S&T Foresight 2019 総合報告書」（令和元（2019）年 11 月）、令和国民会議「「人口減少危機を直視せよ」－人が成長し、産業がかけ合わり、地域がつながる－」（令和 5（2023）年 6 月）、一般社団法人日本経済団体連合会「提言「新しい時代に対応した大学教育改革の推進－主体的な学修を通じた多様な人材の育成に向けて－」（令和 4（2022）年 1 月）等を参照。

¹⁹ 専攻分野について専門性を有するだけではなく、思考力、判断力、俯瞰力、表現力の上に、幅広い教養を身に付け、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材（中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像（答申）」（平成 17（2005）年 1 月）

²⁰ (1) 知識・理解、(2) 汎用的技能、(3) 態度・志向性、(4) 総合的な学習経験と創造的思考力（中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて（答申）」（平成 20（2008）年 12 月）（以下「学士課程答申」という。）

²¹ 情報基盤社会において、基礎的で普遍的な知識・理解等に加えて、数理・データサイエンス等の基礎的な素養を持ち、正しい大量のデータを扱い、新たな価値を創造する能力。人工知能（AI）等の技術革新が進む中においては、AI に果たせない真に人が果たすべき役割を十分に考え、実行できる人材（グランドデザイン答申）

²² 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局「「総合知」の基本的考え方及び戦略的に推進する方策 中間とりまとめ」（令和 4（2022）年 3 月）によれば、「多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むこと」であり、「多様な「知」が集うとは、属する組織の「矩」を超え、専門領域の枠にとらわれない多様な「知」が集うこと」、「新たな価値を創出するとは、安全・安心の確保と Well-being の最大化に向けた未来像を描くだけでなく、社会実装に向けた具体的な手段も見出し、社会の変革をもたらすこと」、「これらによって「知の活力」を生むことこそが「総合知」であり、「総合知」を推し進めることが、科学技術・イノベーションの力を高めることにつながる。」とされている。

²³ リベラル・アーツの起源は、古代ローマにおける自由（liberal）市民に必要な学芸（arts）としての言語と数学系の諸科にあり、生産階級である奴隷（servile）の技芸（arts）に対していった。それは、中世ヨーロッパの大学におい

断・文理融合教育²⁴を通じた課題解決力等の涵養^{かん}に重点を置いた学位プログラム等に取り組むことが重要である。

その際、現代社会のあらゆる分野におけるデジタル化等の進展を踏まえれば、数理・データサイエンス・AI に関する基礎的な理解やリテラシーに加え、情報や AI を適切に利活用する能力等は市民的素養として培うことがますます重要になっていることにも留意が必要である²⁵。

また、専門知の深さと併せて、俯瞰^{ふかん}的・横断的な視野、異なる複数の学問分野のアプローチを用いて思考することのできる、いわば「文理複眼」的な思考力等を涵養^{かん}することも求められる。

あわせて、グローバル化の進展により一国では解決できない課題に世界が直面する中、外国人留学生との交流や留学等による国際経験を通じて多様性や異文化を尊重する姿勢を養い、国際社会の一員として国際的な視野を持ち地域社会の活性化や日本の成長を支える人材の育成が急務である。

イ. 成長分野を創出・けん引する人材等の育成

デジタル化の加速度的な進展と脱炭素の世界的な潮流は、これまでの産業構造を抜本的に変革するだけではなく、労働需要の在り方にも変化をもたらすことが予想される。そのような状況において、我が国の持続的な成長・発展を実現するためには、成長が見込まれる分野や複雑化する地域課題の解決をリードする高度専門人材が不可欠であり、その育成の中核を担うのは大学、専門職大学、高等専門学校等の高等教育機関である。

高等教育機関において、デジタル・半導体、グリーン²⁶等の人類の新たな課題に挑戦していく成長分野への転換や、農業、観光等の地域を支える分野の振興、前述の文理横断・

て、文法・修辞・論理の言語系3学(trivium)と算術・幾何・天文・音楽の数学系4学(quadrivium)の7自由学芸として哲学(学芸)部に定着し、特定の職業からの拘束を受ける神・法・医の専門職学部(諸学芸)に対して自由な学芸とされ、また一方でそれらの教育のための基礎学芸と位置づけられた。近代のそれはアメリカの大学で確立した概念で、自由人に相応しい、特定の職業のためではない、一般的な知力を開発する学芸を意味し、言語・数学系の諸科と人文科学、社会科学、自然科学の諸学芸を指す。これらの諸科は学芸(文芸)科学学部(faculty of arts (letter) and sciences)等を構成し、古典的な神・法・医及び近代的な工、農、経営、教育等の専門職学部(professional schools)における職業系諸科に対する。一部に、近代科学とその生み出す技術(science and technology)の知を別種のものとして、それらを除いた諸科をリベラル・アーツとみる向きもある。なお、リベラル・アーツは教養と訳されるが、教養の英訳がカルチャーつまり文化一般であるのに対して、リベラル・アーツはディシプリン(方法)を持った諸科目であり、リベラルアーツ・カレッジにおいても、一般教育に加えリベラル・アーツ分野の専攻の学習が課されるのが通常である。(学士課程答申)

²⁴ 「文理横断」と「文理融合」については区別をせず、人文・社会科学、自然科学などの様々な学問分野を横断的に学び、学修の幅を広げるような教育を総称して「文理横断・文理融合教育」としている。学生が様々な学問分野を学ぶことを「文理横断」、人文・社会科学系の学問と自然科学系の知見を組み合わせた文理融合的な学問、例えば環境学等を「文理融合」と捉えることもできる。

²⁵ デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AIに関する、大学、高等専門学校の正規課程の教育プログラムのうち、一定の要件を満たした優れた教育プログラムを文部科学大臣が認定・選定することによって大学等の教育実践を後押しする「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」が令和3(2021)年度より実施されている。

²⁶ カーボンニュートラル目標を表明する国・地域が増加し世界的に脱炭素の機運が高まる中、我が国においても2030年度の温室効果ガス46%削減、2050年カーボンニュートラルの実現という国際公約を掲げ、気候変動問題に対して国家を挙げて対応する強い決意を表明している。〔GX 実現に向けた基本方針～今後10年を見据えたロードマップ～(令和5(2023)年2月10日閣議決定)〕

2040 年を見据えた教育改革

～個の主体性を活かし持続可能な未来を築く～

2025 年 2 月 18 日

一般社団法人 日本経済団体連合会

1. はじめに

わが国は、急激な人口減少・少子高齢化により労働力が不足する中で、持続的な成長を実現するためには、われわれ一人ひとりの価値創造力の強化、労働生産性向上が不可欠である。また、同時並行で進行している地方の衰退を反転させる地域の担い手が必要とされている。さらに、デジタル技術の進歩やグローバル化の進展を通じて、身に付けるべき資質・能力が変容するとともに、より効果的な教育方法が模索されている。具体的には、AI およびデジタル技術の急速な進歩により、単純な知識の蓄積だけでなく、情報活用能力や創造性、論理的思考力、課題発見・解決能力等も求められるようになってきている。一方、グローバル競争力の低下を食い止め、回復させるためには、多様なバックグラウンドを持つ人たちと協働しながら新しい価値を生み出せるグローバル人材の育成も重要となっている。こうした環境変化から、教育のあり方を再定義する時期に来ている。

加えて、教育格差も喫緊の課題である。現状、本人に意欲や適性があっても、特に受験競争の過熱した状況下においては、保護者の経済力および家庭の文化資本によって子どもの教育機会が左右される。今後、子どもたちが学びと成長に夢を抱ける社会を目指すべきであり、この観点から、公教育への投資の重要性を改めて認識するとともに、教育格差を是正する必要がある。

将来推計によると、2035 年～2040 年にかけて 18 歳人口が急激に減少し、大学の学部入学者数は 2 割超減少する見通しである¹。18 歳人口の減少を踏まえ、将来を見据えた高等教育機関の改革を直ちに断行すべきである。同時に、出生数の減少に伴う生産年齢人口の減少を見据え、初等中等教育から高等教育、リスキリングを含むリカレント教育に至るまで、生涯にわたり一人ひとりが自らのキャリアを主体的に築き、磨き続けることのできる教育体系を築くことが求められている。こうした取り組みは、人口減のなかで人材を最大限に生かして社会基盤を支え、同時に個々人のウェルビーイングを高める道筋にもなる。

経団連では 2040 年に目指すべき国家像と求められる取り組みをまとめた「FUTURE DESIGN 2040」を 2024 年 12 月に公表し、教育を施策の柱の 1 つに位置付けている。本提言において、さらに議論を深め、経済界が必要と考える 2040 年を見据えて必要な教育改革を提言し、政府をはじめ関係各方面に対し、速やかに改革に着手するよう求める。必要な改革メニューや予算等については、2025

¹ 出所：文部科学省「急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方に関する検討状況について」（教育・大学改革推進委員会 2024 年度第 1 回（2024 年 8 月 30 日）配付資料）

（２）目指す姿

これからは、仮説を立てて検証し、情報の統合を通じて、ビジネスモデルの変革など新たな価値を創出する力が求められる。

そうした力を持つ人材を育成するためには、初等中等教育において、教科学習等で得られた知識を社会の様々な場面で活用できるよう、教育の方法や価値観を再構築することが肝要である。今後、一人ひとりの多様な個性と好奇心、探究心を伸ばす教育改革の実現により、人材の裾野の広がりトップ層を含む全体の能力強化を実現することを目指すべきである。

また、ＡＩ・デジタル化の進展により、ＩＴ企業に限らず、あらゆる産業・企業においてＡＩ・デジタルを最大限に使いこなせることが必要不可欠となっている。このため、製造、金融、物流、医療など各産業の特性を踏まえつつ、ＡＩ・デジタルを駆使する能力・スキルの重要性が高まっていくと見られる。例えば、製造業では、デジタル技術の活用による生産性や品質の向上が求められているものの、製造現場でデジタル技術を導入・活用できる人材の不足が制約要因の１つとなっている。このため、モノづくり分野においてデジタル技術を活用できる「モノづくり×デジタル」人材の育成・活躍は待ったなしの課題と言える。また、前述の通り、多くの職種において、ＡＩによる雇用の代替・補完が進む一方、新たな労働需要も生まれることから、個々人は、状況変化に対応した能力開発・スキルアップが求められる。社会全体で、様々な産業の特性を踏まえつつ、ＡＩ・デジタルを使いこなせる人材を育成するとともに、ＡＩやデジタルを人々の成長と活躍のために活用していく必要がある⁶。

さらに、新興国・途上国が台頭する国際社会において、わが国が発言力・影響力を持つためには、社会課題の解決を通じて、国内外の持続的な経済および社会の発展に貢献し、世界中からヒト・モノ・カネを惹きつける「貿易・投資立国」の実現を目指すべきである。その実現にあたっては、世界各国で、多様なバックグラウンドを持つ人たちと協働しながら、内外の様々な社会課題の解決に取り組み、新たな経済価値を生み出すとともに、国際連携をリードするグローバル人材の育成が不可欠である。

そこで以下の観点から、社会変革に向け一貫通貫で教育改革を実施し、わが国の国際競争力を高めるべく、「最先端技術立国」「無形資産立国」「貿易・投資立国」の実現とともに「全世代型教育システム」の構築を目指すべきである。

⁶ 初等中等教育において、社会全体でＳＮＳによる誹謗中傷やいじめへの対策を強化するとともに、情報教育を通じて情報活用能力を身につけさせることで、正しく安全にＡＩ・デジタルを活用できる人材を育成することが重要である。

佐賀県施策方針2023

令和5年8月 佐賀県



志を胸に 骨太な人材の育成

施策分野	施策	主な取組
(一) 教育	①志と誇りを高める教育の推進	・唯一無二の誇り高き学校づくり ・キャリア教育の充実 ・ふるさと佐賀への誇りや深い愛着を持った人材の育成
	②自分らしく学べる「さがん学び」の推進	・「さがん学びプロジェクト」 ・中高生の海外での挑戦や外国人児童生徒に対する支援
	③健やかな佐賀のこどもを育む教育の推進	・児童生徒の体力・運動能力等の向上 ・健康に対する意識の醸成 ・SAGA部活の推進 ・道徳教育、人権・同和教育等の心の教育の充実
	④誰もが安心して学べる「さがすたいるスクール」の推進	・インクルーシブ教育の体制づくり ・県立夜間中学（「彩志(さいし)学舎中学校」）の開校 ・不登校・いじめの相談体制の充実
	⑤教育DXの推進と学びを支える環境づくり	・デジタル技術を活用し課題解決に向かう力の育成 ・豊かな人間性や実践的な指導力を備えた教職員の確保・育成
	⑥特色ある私立学校づくり	・創意工夫による特色ある学校づくりと魅力の発信 ・県外流出防止と県内職業人材の確保 ・専修学校支援
	⑦高等教育機関の充実	・「TSUNAGIプロジェクト」 ・産学官連携による県内大学生等の県内定着促進 ・県立大学の調査・検討
学生(二) 生涯 学習	①ライフステージに応じたまなびの環境づくり	・多様な学びの機会の充実（はじめてのまなび応援、弘道館2 など） ・誰もが本に親しむ環境づくりの充実（県内司書のレベルアップ、県立図書館における新刊児童書全点購入 など）

実践知で 未来を拓く

— 佐大ビジョン2040 —

Wisdom in Action for a Shared Future

SADAI VISION 2040

「実践智で 未来を拓く」

Wisdom in Action
for a Shared Future



我が国は、18歳人口の構造的減少、Society 5.0への不可逆的移行、そして地域社会の持続可能性という複合的な課題に直面しています。こうした非連続的変化の時代において、地方国立大学に求められる役割は、従来の「地域貢献」にとどまるものではありません。地域の未来像を主体的に構想し、その実現を社会とともに先導する「共創の中核」へと進化することが求められています。

佐賀大学は、「実践智で未来を拓く」を本ビジョンの中心理念として掲げます。

実践智とは、学術的知見、倫理観、状況判断力、経験、そして行動力を統合し、変化する社会の中で、ウェルビーイング(Well-being)の実現に向けて他者と協働しながら最善の判断と行動を選び取る知の在り方です。

実践智を創出し、共有し、社会的価値へと転換すること。

利害の異なる人々や組織が協働し、相互に価値を高め合う関係を築く「共利」の精神のもと、世界のウェルビーイングに貢献すること。

それが本学の未来社会に対する使命です。

さらに本学は、地域を「学び」と「社会実装」の場として位置づけ、産官学民との協働を通じて新たな社会的価値を創出し、「地域未来共創大学」へと進化します。地域に根差し、世界に開かれた大学として、佐賀から日本へ、そして世界へと社会変革を広げていきます。

本学の経営理念の中核は人的資本経営です。教職員と学生は、未来社会を共創する最も重要な資本であり、その能力を最大限に発揮できる環境を整え、挑戦を後押しし、全ての構成員の持続的成長を促進します。

本ビジョンを、佐賀、日本、そして世界の未来のために、教職員と学生が一体となり(教職学協働)、確かな行動として実現していきます。

2026(令和8)年4月
佐賀大学長 野出孝一

佐賀大学憲章

佐賀大学は、これまでに培った文、教、経、理、医、工、農等の諸分野にわたる教育研究を礎にし、豊かな自然溢れる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指して、ここに佐賀大学憲章を宣言します

創造と継承

自然と共生するための
人類の「知」の創造と
継承に努めます

研究の推進

学術研究の水準を向上させ、
佐賀地域独自の研究を
世界に発信します

教育先導大学

高等教育の未来を展望し、
社会の発展に尽くします

魅力ある大学

目的をもって生き活きと
学び行動する学生中心の
大学づくりを進めます

社会貢献

教育と研究の両面から、
地域や社会の諸問題の
解決に取り組みます

国際貢献

アジアの知的拠点を目指し、
国際社会に貢献します

検証と改善

不断の検証と改善に努め、
佐賀の大学としての
責務を果たします



佐賀大学
公式マスコットキャラクター
「カッチーくん」



教 育

教学相長¹と伸育による 未来共創人材の育成

- 教職員と学生が互いに学び、高め合う「教学相長（きょうがくあいちょうず）」を根幹に据え、学術的探究と実践的経験を往還する学修を通じて、知識を社会の中で活かす力を育みます。
- 正課教育、課外活動、地域連携を有機的に結び、学生が自ら課題を発見し、協働しながら解決する学びを推進します。
- 可能性を最大限に引き出す「伸育（しんいく）」により、多様な主体と共に未来社会を構想し、新たな価値を創造する人材（Co-creator）を育成します。

Value

学び合い／社会で生きる力／伸育／Co-creator育成

研 究

智の統合による 学術フロンティアの創出



- 本学の強みを基盤に、異分野融合によって智を統合し、新たな学術領域を創出します。
- 「共利」の精神のもと、基礎研究と社会実装を志向する実証研究を相乗的に展開し、地域課題解決を起点とした成果を世界へ発信します。
- 新たな社会的価値と学術フロンティアを切り拓き、未来社会のウェルビーイングに貢献します。

Value

異分野融合／基礎・実証研究の相乗展開／地域から世界へ



社会貢献

智の連携による持続可能な
未来社会への変革

- 「共利」を原動力とした自律分散型社会の核となる共創プラットフォーム²を構築します。
- 知的資本と物的資本を社会に開放し、産官学民の連携によって地域課題を解決するとともに、新たな産業を創出します。
- 地域や現場を学修の場とする実践教育を通じ、挑戦するCo-creatorを社会へ輩出します。

Value

共創プラットフォーム／資本の開放／産官学民連携

国際貢献

智の循環による世界人の
輩出と国際互惠



- 世界から学生と研究者が集い、多様な文化や価値観が響き合うキャンパスを実現します。
- 開かれた環境のもと、互いを尊重し支え合う「国際互惠」の精神を体現し、未来社会を構想し自ら行動するリーダー「世界人」を育成します。
- 教育と研究の成果を国際社会へ還元し、国境を越えた智の循環（国際頭脳循環）を生み出すことで、世界の課題解決に貢献します。

Value

ボーダレス・キャンパス³／国際互惠／国際頭脳循環



法人経営

人的資本価値を
最大化⁴する法人経営

- 人的資本を経営理念の中核に据え、持続的成長と社会的価値を創出します。
- 心理的安全性⁵の高い組織を構築し、DEI&B⁶を推進するとともに、挑戦を正当に評価する組織文化を醸成します。
- ブランドガバナンス⁷と統合アセットマネジメント⁸を確立し、DX⁹を活用した機動的かつ戦略的な法人経営を実現します。

Value

価値最大化／心理的安全性／DEI&B

1. 教学相長（きょうがくあいちょうず）：教えることと学ぶことが相互に作用し、共に成長するという考え方。中国古典『礼記』に由来。
2. 共創プラットフォーム：大学がハブとなり、自治体・産業界・市民が対等な立場で参画し、地域課題の解決策を企画・立案・実行する仕組み。従来の地域構想推進プラットフォームを発展させた、実装志向型の共創基盤を指す。
3. ボーダレス・キャンパス：物理的キャンパス、組織、国境、時間の壁を越え、大学機能を開放・拡張することで、知と人材の共創を促進する戦略的概念。
4. 人的資本価値の最大化：教職員・学生・ステークホルダーを資本と捉え、能力・知識・経験を最大限に引き出し、大学の成果と持続的成長につなげること。
5. 心理的安全性：多様な人材が相互に尊重され、安心して意見を述べ、能力を最大限に発揮できる組織的基盤を指す。
6. DEI&B：多様性（Diversity）、公平性（Equity）、包摂性（Inclusion）、帰属意識（Belonging）を通じ、心理的安全性の高い組織を実現する考え方。
7. ブランドガバナンス：佐賀大学の価値・信頼・評価を中長期的に最大化するための統制・管理の枠組み。
8. 統合アセットマネジメント：ヒト・モノ・カネ・スペース等の全経営資源を横断的に管理・配分し、全体価値を最大化する仕組み。
9. DX（デジタルトランスフォーメーション）：AIやデータ活用などのデジタル技術を通じて、教育・研究など、大学の在り方を変革し、学修成果や社会的価値の向上を図ること。

佐大ビジョン 2040

SADAI VISION 2040

世界や社会が大きく変化する時代において、
未来は待つものではなく、共に創り出すものへと変わりました。
佐賀大学は「実践智」を軸に、人と社会の未来に向き合いながら、
新たな価値を未来へ社会へと広げ続けていきます。

Mission

佐賀大学の使命・価値観・
行動指針を示す基本理念
(ミッションステートメント)であり、
時代を超えて継承される
本学の指針です。

Vision

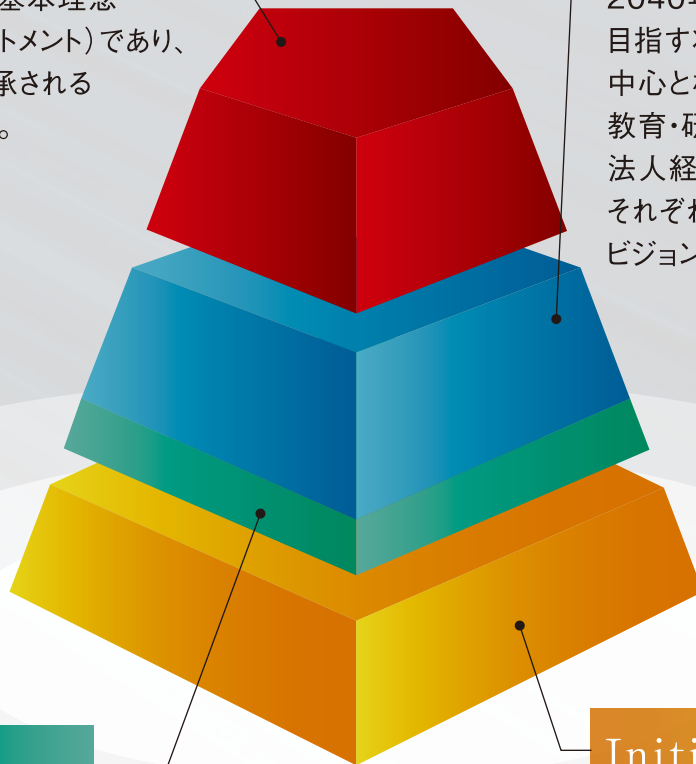
Missionを実現するため、
2040年に向けて本学が
目指す将来像を示すものです。
中心となる将来ビジョンのもと、
教育・研究・社会貢献・国際貢献・
法人経営の5つの領域において、
それぞれ具体的な
ビジョンを定めます。

Value (価値観)

各領域のビジョンを实践するうえで重視する
価値観、行動規範、目指す姿、及び
それを支える制度的基盤を示すものです。

Initiative (取組)

各領域のビジョンを実現する
ための個々の具体的な取組、
プロジェクトを指します。
一部は中期目標・中期計画に
位置付けられます。



そのサガ、サガ大。



令和8年4月策定

問合せ先:佐賀大学総務部企画評価課(中期計画主担当)

Tel:0952-28-8813(内線:8813・8394)

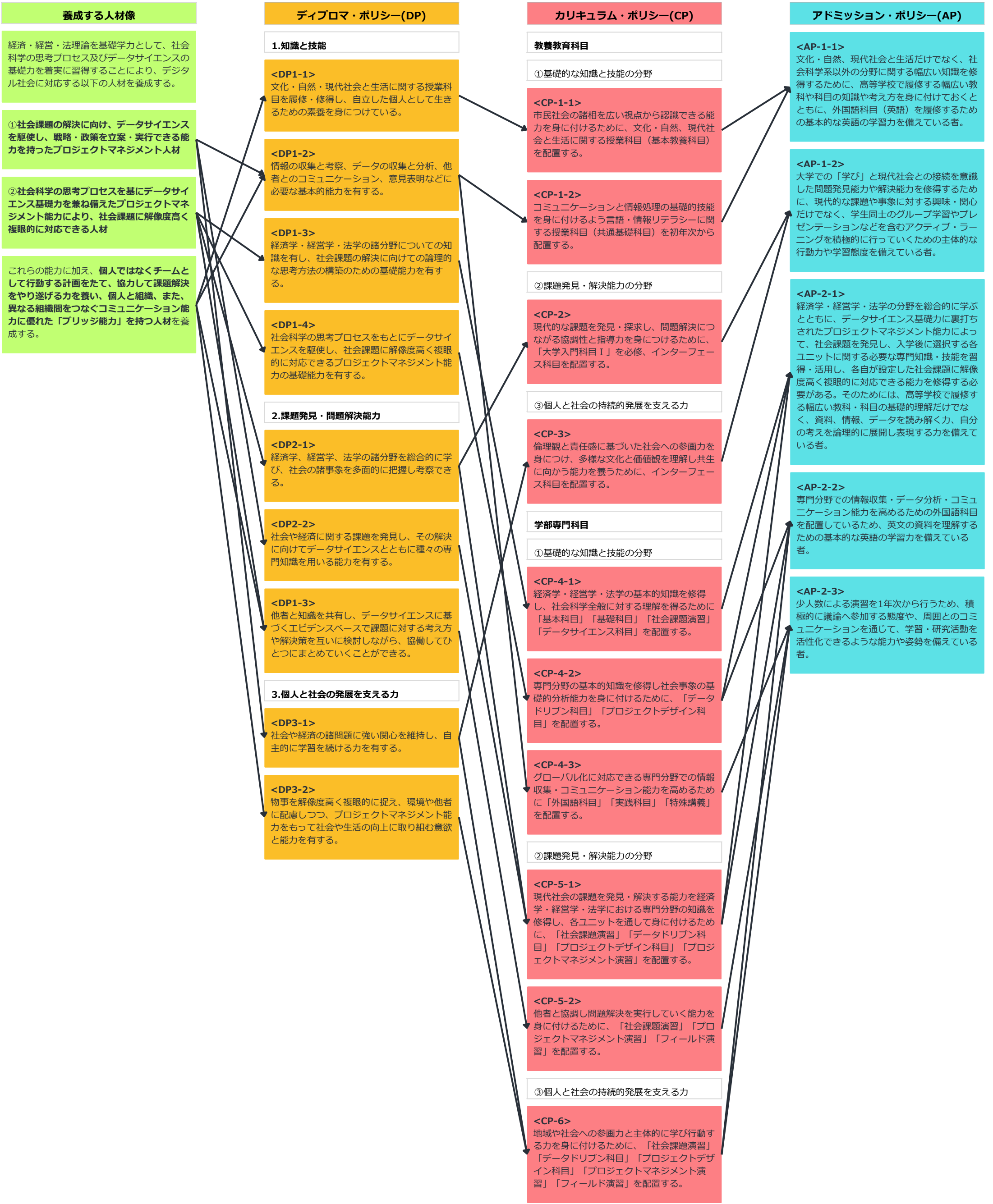
E-mail:kihyo@mail.admin.saga-u.ac.jp

<https://www.saga-u.ac.jp>

佐賀大

検索





カリキュラム・ポリシーと教育課程の対応関係

デジタルマネジメントユニット授業科目（学年配当）

教養科目			専門科目						
1年前期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【基本科目】 ・基本ミクロ経済学 ・基本マクロ経済学	<CP-4-1>					
	【教養教育科目】 ・英語A ・情報基礎概論	<CP教養-1-2>	・基本統計学 ・基本簿記会計 ・基本経営学 ・基本法学						
	【教養教育科目】 ・大学入門科目Ⅰ	<CP教養-2>							
1年後期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【基本科目】 ・基本経済数学	<CP-4-1>	【データサイエンス科目】 ・データサイエンス入門	<CP-4-1>	<CP-4-1>	【演習科目】 ・社会課題演習	<CP-4-1>
	【教養教育科目】 ・英語B	<CP教養-1-2>	【基礎科目】 ・ミクロ経済学 ・マクロ経済学 ・プロジェクトマネジメント ・マーケティング戦略	<CP-4-1>	・社会調査論 ・経済データ分析実践	<CP-5-1>			<CP-5-1>
									<CP-5-2>
2年前期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データサイエンス科目】 ・計量経済学(UD)	<CP-4-1>	【データサイエンス科目】 ・都市経済学(UD,U工) ・開発経済学(UD,U工) ・経営情報論(UD,U政) ・経営組織論(UD,U工) ・知的財産法(UD,Uマ)	<CP-4-2>	<CP-4-3>	【演習科目】 ・PM演習2年	<CP-5-1>
	【教養教育科目】 ・英語C/英語D	<CP教養-1-2>	・会計学(UD) ・経済・統計数学	<CP-5-1>					<CP-5-2>
	【教養教育科目】 ・インターフェース科目	<CP教養-2> <CP教養-3>	【データドリブン科目】 ・行動経済学(UD,Uマ) ・労働経済学(UD,U政) ・ファイナンス論(UD,U会)	<CP-4-2> <CP-5-1> <CP-6>		<CP-6>			
2年後期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データサイエンス科目】 ・統計学演習(UD)	<CP-4-1>	【データサイエンス科目】 ・公共経済学(UD,U政) ・日本経済史(UD,U会) ・刑法総論(UD)	<CP-4-2>	<CP-4-3>	【演習科目】 ・PM演習2年	<CP-5-1>
	【教養教育科目】 ・英語C/英語D	<CP教養-1-2>	・数理統計学	<CP-5-1>					<CP-5-2>
	【教養教育科目】 ・インターフェース科目	<CP教養-2> <CP教養-3>	【データドリブン科目】 ・経営財務論(UD,U会) ・ハレ・レ・ジョ・ス・リサーチ(UD,Uマ) ・自治体行政分析(UD,U政)	<CP-4-2> <CP-5-1> <CP-6>		<CP-6>			
3年前期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データドリブン科目】 ・国際貿易論(U政)	<CP-4-2>	【データサイエンス科目】 ・農政経済論(U工) ・アジア経済史 ・経営労務論(U工,U会) ・ブランド戦略論(Uマ) ・物権法(U工,U会)	<CP-4-2>	<CP-4-2>	【演習科目】 ・PM演習3年	<CP-5-1>
	【教養教育科目】 ・インターフェース科目	<CP教養-2> <CP教養-3>	・地域経済分析(U工) ・デジタルマーケティング(Uマ) ・管理会計論(Uマ,U会)	<CP-5-1> <CP-6>					<CP-5-2>
3年後期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データドリブン科目】 ・マーケティングリサーチ(U工,Uマ)	<CP-4-2>	【データサイエンス科目】 ・社会保険法Ⅰ(U政) ・Asian Economics ・企業論(U政,U会) ・経営戦略論(Uマ,U会) ・経営管理論(Uマ,U会)	<CP-4-2>	<CP-4-2>	【演習科目】 ・PM演習3年	<CP-5-1>
	【教養教育科目】 ・インターフェース科目	<CP教養-2> <CP教養-3>	・原価計算論(U会) ・財務会計論(U工,U会) ・空間情報システム(U工,Uマ) ・政策シミュレーション(U政,U会) ・公益事業論(U政,U工) ・政策評価分析(U政,U工)	<CP-5-1> <CP-6>					<CP-5-2>
4年前期								【演習科目】 ・PM演習4年	<CP-5-1> <CP-5-2> <CP-6>
								【演習科目】 ・フィールド演習	<CP-5-2> <CP-6>
4年後期								【演習科目】 ・PM演習4年	<CP-5-1> <CP-5-2> <CP-6>

○カリキュラム・ポリシー(CP)

教養教育科目

①基礎的な知識と技能の分野

<CP-1-1>	市民社会の諸相を広い視点から認識できる能力を身に付けるために、文化・自然、現代社会と生活に関する授業科目（基本教養科目）を配置する。
<CP-1-2>	コミュニケーションと情報処理の基礎的技能を身に付けるよう言語・情報リテラシーに関する授業科目（共通基礎科目）を初年次から配置する。

②課題発見・解決能力の分野

<CP-2>	現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけるために、「大学入門科目Ⅰ」を必修、インターフェース科目を配置する。
--------	---

③個人と社会の持続的発展を支える力

<CP-3>	倫理観と責任感に基づいた社会への参画力を身につけ、多様な文化と価値観を理解し共生に向かう能力を養うために、インターフェース科目を配置する。
--------	---

学部専門科目

①基礎的な知識と技能の分野

<CP-4-1>	経済学・経営学・法学の基本的知識を修得し、社会科学全般に対する理解を得るために「基本科目」「基礎科目」「社会課題演習」「データサイエンス科目」を配置する。
<CP-4-2>	専門分野の基本的知識を修得し社会事象の基礎的分析能力を身に付けるために、「データドリブン科目」「プロジェクトデザイン科目」を配置する。
<CP-4-3>	グローバル化に対応できる専門分野での情報収集・コミュニケーション能力を高めるために「外国語科目」「実践科目」「特殊講義」を配置する。

②課題発見・解決能力の分野

<CP-5-1>	現代社会の課題を発見・解決する能力を経済学・経営学・法学における専門分野の知識を修得し、各ユニットを通して身に付けるために、「社会課題演習」「データドリブン科目」「プロジェクトデザイン科目」「プロジェクトマネジメント演習」を配置する。
<CP-5-2>	他者と協調し問題解決を実行していく能力を身に付けるために、「社会課題演習」「プロジェクトマネジメント演習」「フィールド演習」を配置する。

③個人と社会の持続的発展を支える力

<CP-6>	地域や社会への参画力と主体的に学び行動する力を身に付けるために、「社会課題演習」「データドリブン科目」「プロジェクトデザイン科目」「プロジェクトマネジメント演習」「フィールド演習」を配置する。
--------	--

太字：必修科目

赤字：ユニット指定科目

ユニット

UD:デジタルマネジメント、 U政:政策マネジメント
U工:エリアマネジメント、 Uマ:マーケティングマネジメント
U会:会計・ファイナンスマネジメント

カリキュラム・ポリシーと教育課程の対応関係

政策マネジメントユニット授業科目（学年配当）

教養科目			専門科目							
1年前期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【基本科目】 ・基本ミクロ経済学 ・基本マクロ経済学	<CP-4-1>						
	【教養教育科目】 ・英語A ・情報基礎概論	<CP教養-1-2>	・基本統計学 ・基本簿記会計 ・基本経営学 ・基本法学							
	【教養教育科目】 ・大学入門科目Ⅰ	<CP教養-2>								
	1年後期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【基本科目】 ・基本経済数学	<CP-4-1>	【データサイエンス科目】 ・データサイエンス入門	<CP-4-1>	【基礎科目】 ・日本経済論 ・経済学史 ・社会情報論 ・民法総則	<CP-4-1>	【演習科目】 ・社会課題演習
	【教養教育科目】 ・英語B	<CP教養-1-2>	【基礎科目】 ・ミクロ経済学 ・マクロ経済学 ・プロジェクトマネジメント ・マーケティング戦略	<CP-4-1>	・社会調査論 ・経済データ分析実践	<CP-5-1>				<CP-5-1>
										<CP-5-2>
										<CP-6>
2年前期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データサイエンス科目】 ・計量経済学(UD)	<CP-4-1>	【プロジェクト科目】 ・金融論(U政,U会) ・財政学(U政,U会) ・経営情報論(UD,U政) ・行政法総論(U政,U工) ・産業組織論(U工,Uマ) ・都市経済学(UD,U工) ・開発経済学(UD,U工) ・農政経済論(U工)	<CP-4-2>	<CP-4-3>	【特殊講義】 ・現代の経営 ・実践会計 ・証券市場分析 ・ビジネス基礎英語 ・ビジネス・コミュニケーション英語 ・国際交流実習	【演習科目】 ・PM演習2年	<CP-5-1>
	【教養教育科目】 ・英語C/英語D	<CP教養-1-2>	・会计学(UD) ・経済・統計数学	<CP-5-1>						<CP-5-2>
	【教養教育科目】 ・インターフェース科目	<CP教養-2>	【データドリブン科目】 ・労働経済学(UD,U政) ・国際貿易論(U政)	<CP-4-2>	<CP-6>					<CP-6>
		<CP教養-3>		<CP-5-1>						
				<CP-6>						
2年後期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データサイエンス科目】 ・統計学演習(UD)	<CP-4-1>	【プロジェクト科目】 ・公共経済学(UD,U政) ・環境経済学(U政,Uマ) ・日本農業論(U政,Uマ) ・企業論(U政,U会) ・社会保障法Ⅰ(U政) ・憲法(U政)	<CP-4-2>	<CP-4-3>	【特殊講義】 ・現代の労働 ・PRデザイン ・市民と法	【演習科目】 ・PM演習2年	<CP-5-1>
	【教養教育科目】 ・英語C/英語D	<CP教養-1-2>	・数理統計学	<CP-5-1>						<CP-5-2>
	【教養教育科目】 ・インターフェース科目	<CP教養-2>	【データドリブン科目】 ・公益事業論(U政,U工) ・政策ミレナリオ(U政,U会) ・政策評価分析(U政,U工) ・自治体行財政分析(UD,U政)	<CP-4-2>	<CP-6>					<CP-6>
		<CP教養-3>		<CP-5-1>						
				<CP-6>						
3年前期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データドリブン科目】 ・行動経済学(UD,Uマ)	<CP-4-2>	【プロジェクト科目】 ・アジア経済史 ・経営組織論(UD,U工) ・経営労務論(U工,U会) ・ブランド戦略論(Uマ) ・知的財産法(UD,Uマ)	<CP-4-2>	<CP-4-2>	【プロジェクト科目】 ・物権法(U工,U会) ・刑法各論(U会) ・労働法Ⅱ ・社会保障法Ⅱ(Uマ) ・政治学	【演習科目】 ・PM演習3年	<CP-5-1>
	【教養教育科目】 ・インターフェース科目	<CP教養-2>	・地域経済分析(U工) ・ファイナンス論(UD,U会) ・ビジネスイノベーション(Uマ)	<CP-5-1>		<CP-6>				<CP-6>
		<CP教養-3>	・管理会計論(Uマ,U会)	<CP-6>			<CP-6>			
									【演習科目】 ・フィールド演習	<CP-5-2>
										<CP-6>
3年後期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データドリブン科目】 ・原価計算論(U会)	<CP-4-2>	【プロジェクト科目】 ・Asian Economics ・日本経済史(UD,U会) ・経営戦略論(Uマ,U会) ・経営管理論(Uマ,U会) ・マーケティング・コミュニケーション(Uマ)	<CP-4-2>	<CP-4-2>	【プロジェクト科目】 ・債権法(U工,U会) ・刑法総論(UD) ・労働法Ⅰ(U工,Uマ) ・行政救済法 ・会社法	【演習科目】 ・PM演習3年	<CP-5-1>
	【教養教育科目】 ・インターフェース科目	<CP教養-2>	・財務会計論(U工,U会) ・空間情報システム(U工,Uマ) ・マーケティングリサーチ(U工,Uマ) ・経営財務論(U会)	<CP-5-1>		<CP-6>	<CP-6>			<CP-5-2>
		<CP教養-3>	・マーケティングリサーチ(UD,Uマ)	<CP-6>						<CP-6>
									【演習科目】 ・フィールド演習	<CP-5-2>
										<CP-6>
4年前期									【演習科目】 ・PM演習4年	<CP-5-1>
										<CP-5-2>
										<CP-6>
									【演習科目】 ・フィールド演習	<CP-5-2>
										<CP-6>
4年後期									【演習科目】 ・PM演習4年	<CP-5-1>
										<CP-5-2>
										<CP-6>

○カリキュラム・ポリシー(CP)

教養教育科目

①基礎的な知識と技能の分野

<CP-1-1>	市民社会の諸相を広い視点から認識できる能力を身に付けるために、文化・自然、現代社会と生活に関する授業科目（基本教養科目）を配置する。
<CP-1-2>	コミュニケーションと情報処理の基礎的技能を身に付けるよう言語・情報リテラシーに関する授業科目（共通基礎科目）を初年次から配置する。

②課題発見・解決能力の分野

<CP-2>	現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけるために、「大学入門科目Ⅰ」を必修、インターフェース科目を配置する。
--------	---

③個人と社会の持続的発展を支える力

<CP-3>	倫理観と責任感に基づいた社会への参画力を身につけ、多様な文化と価値観を理解し共生に向かう能力を養うために、インターフェース科目を配置する。
--------	---

学部専門科目

①基礎的な知識と技能の分野

<CP-4-1>	経済学・経営学・法学の基本的知識を修得し、社会科学全般に対する理解を得るために「基本科目」「基礎科目」「社会課題演習」「データサイエンス科目」を配置する。
<CP-4-2>	専門分野の基本的知識を修得し社会事象の基礎的分析能力を身に付けるために、「データドリブン科目」「プロジェクトデザイン科目」を配置する。
<CP-4-3>	グローバル化に対応できる専門分野での情報収集・コミュニケーション能力を高めるために「外国語科目」「実践科目」「特殊講義」を配置する。

②課題発見・解決能力の分野

<CP-5-1>	現代社会の課題を発見・解決する能力を経済学・経営学・法学における専門分野の知識を修得し、各ユニットを通して身に付けるために、「社会課題演習」「データドリブ科目」「プロジェクトデザイン科目」「プロジェクトマネジメント演習」を配置する。
<CP-5-2>	他者と協調し問題解決を実行していく能力を身に付けるために、「社会課題演習」「プロジェクトマネジメント演習」「フィールド演習」を配置する。

③個人と社会の持続的発展を支える力

<CP-6>	地域や社会への参画力と主体的に学び行動する力を身に付けるために、「社会課題演習」「データリテラシー科目」「プロジェクトデザイン科目」「プロジェクトマネジメント演習」「フィールド演習」を配置する。
--------	---

太字：必修科目

赤字：ユニット指定科目

ユニット UD:デジタルマネジメント、 U政:政策マネジメント
UE:エリアマネジメント、 UM:マーケティングマネジメント
U会:会計・ファイナンスマネジメント

カリキュラム・ポリシーと教育課程の対応関係

エリアマネジメント授業科目（学年配当）

教養科目			専門科目							
1年前期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【基本科目】 ・基本ミクロ経済学 ・基本マクロ経済学	<CP-4-1>						
	【教養教育科目】 ・英語A ・情報基礎概論	<CP教養-1-2>	・基本統計学 ・基本簿記会計 ・基本経営学 ・基本法学							
	【教養教育科目】 ・大学入門科目Ⅰ	<CP教養-2>								
1年後期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【基本科目】 ・基本経済数学	<CP-4-1>	【データサイエンス科目】 ・データサイエンス入門	<CP-4-1>	【基礎科目】 ・日本経済論 ・経済学史 ・社会情報論 ・民法総則	<CP-4-1>	【演習科目】 ・社会課題演習	<CP-4-1>
	【教養教育科目】 ・英語B	<CP教養-1-2>	【基礎科目】 ・ミクロ経済学 ・マクロ経済学 ・プロジェクトマネジメント ・マーケティング戦略	<CP-4-1>	・社会調査論 ・経済データ分析実践	<CP-5-1>				<CP-5-1>
										<CP-5-2>
										<CP-6>
2年前期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データサイエンス科目】 ・計量経済学(UD)	<CP-4-1>	【データサイエンス科目】 ・産業組織論(Uエ, Uマ) ・都市経済学(UD, Uエ) ・開発経済学(UD, Uエ) ・農政経済論(Uエ) ・経営組織論(UD, Uエ) ・経営労務論(Uエ, U会) ・物権法(Uエ, U会) ・行政法総論(U政, Uエ)	<CP-4-2>	【特殊講義】 ・現代の経営 ・実践会計 ・証券市場分析 ・ビジネス基礎英語 ・ビジネス・コミュニケーション英語 ・国際交流実習	<CP-4-3>	【演習科目】 ・PM演習2年	<CP-5-1>
	【教養教育科目】 ・英語C/英語D	<CP教養-1-2>	・会計学(UD) ・経済・統計数学	<CP-5-1>						<CP-5-2>
	【教養教育科目】 ・インターフェース科目	<CP教養-2>	【データドリブン科目】 ・地域経済分析(Uエ)	<CP-4-2>	<CP-6>					<CP-6>
		<CP教養-3>		<CP-5-1>						
				<CP-6>						
2年後期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データサイエンス科目】 ・統計学演習(UD)	<CP-4-1>	【データサイエンス科目】 ・債権法(Uエ, U会) ・労働法Ⅰ(Uエ, Uマ) ・公共経済学(UD, U政) ・環境経済学(U政, Uマ) ・日本農業論(U政, Uマ) ・Asian Economics	<CP-4-2>	【特殊講義】 ・現代の労働 ・PRデザイン ・市民と法	<CP-4-3>	【演習科目】 ・PM演習2年	<CP-5-1>
	【教養教育科目】 ・英語C/英語D	<CP教養-1-2>	・数理統計学	<CP-5-1>						<CP-5-2>
	【教養教育科目】 ・インターフェース科目	<CP教養-2>	【データドリブン科目】 ・空間情報システム(Uエ, Uマ) ・マーケティングリサーチ(Uエ, Uマ) ・財務会計論(Uエ, U会) ・公益事業論(U政, Uエ) ・政策評価分析(U政, Uエ)	<CP-4-2>	<CP-6>					<CP-6>
		<CP教養-3>		<CP-5-1>						
				<CP-6>						
3年前期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データドリブン科目】 ・行動経済学(UD, Uマ)	<CP-4-2>	【データサイエンス科目】 ・アジア経済史 ・経営情報論(UD, U政) ・ブランド戦略論(Uマ) ・知的財産法(UD, Uマ) ・刑法各論(U会)	<CP-4-2>	【データサイエンス科目】 ・社会保障法Ⅱ(Uマ) ・金融論(U政, U会) ・財政学(U政, U会) ・労働法Ⅱ ・政治学	<CP-4-2>	【演習科目】 ・PM演習3年	<CP-5-1>
	【教養教育科目】 ・インターフェース科目	<CP教養-2>	・労働経済学(UD, U政) ・国際貿易論(U政) ・ファイナンス論(UD, U会) ・ビジネス法概論(Uマ)	<CP-5-1>		<CP-6>				
		<CP教養-3>	・管理会計論(Uマ, U会)	<CP-6>						
	3年後期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データドリブン科目】 ・原価計算論(U会)	<CP-4-2>	【データサイエンス科目】 ・日本経済史(UD, U会) ・企業論(U政, U会) ・経営戦略論(Uマ, U会) ・経営管理論(Uマ, U会) ・マーケティング・コミュニケーション(Uマ)				<CP-4-2>
【教養教育科目】 ・インターフェース科目		<CP教養-2>	・政策シミュレーション(U政, U会) ・経営財務論(UD, U会) ・オペレーションリサーチ(UD, Uマ) ・自治体行政財政分析(UD, U政)	<CP-5-1>	<CP-6>			<CP-6>		
		<CP教養-3>		<CP-6>						
4年前期										【演習科目】 ・PM演習4年
										<CP-5-2>
										<CP-6>
									【演習科目】 ・フィールド演習	<CP-5-2>
4年後期										<CP-5-1>
										<CP-5-2>
										<CP-6>
									【演習科目】 ・PM演習4年	<CP-6>

○カリキュラム・ポリシー(CP)

教養教育科目

①基礎的な知識と技能の分野

<CP-1-1>	市民社会の諸相を広い視点から認識できる能力を身に付けるために、文化・自然、現代社会と生活に関する授業科目（基本教養科目）を配置する。
<CP-1-2>	コミュニケーションと情報処理の基礎的技能を身に付けるよう言語・情報リテラシーに関する授業科目（共通基礎科目）を初年次から配置する。

②課題発見・解決能力の分野

<CP-2>	現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけるために、「大学入門科目Ⅰ」を必修、インターフェース科目を配置する。
--------	---

③個人と社会の持続的発展を支える力

<CP-3>	倫理観と責任感に基づいた社会への参画力を身につけ、多様な文化と価値観を理解し共生に向かう能力を養うために、インターフェース科目を配置する。
--------	---

学部専門科目

①基礎的な知識と技能の分野

<CP-4-1>	経済学・経営学・法学の基本的知識を修得し、社会科学全般に対する理解を得るために「基本科目」「基礎科目」「社会課題演習」「データサイエンス科目」を配置する。
<CP-4-2>	専門分野の基本的知識を修得し社会事象の基礎的分析能力を身に付けるために、「データドリブン科目」「プロジェクトデザイン科目」を配置する。
<CP-4-3>	グローバル化に対応できる専門分野での情報収集・コミュニケーション能力を高めるために「外国語科目」「実践科目」「特殊講義」を配置する。

②課題発見・解決能力の分野

<CP-5-1>	現代社会の課題を発見・解決する能力を経済学・経営学・法学における専門分野の知識を修得し、各ユニットを通して身に付けるために、「社会課題演習」「データドリブン科目」「プロジェクトデザイン科目」「プロジェクトマネジメント演習」を配置する。
<CP-5-2>	他者と協調し問題解決を実行していく能力を身に付けるために、「社会課題演習」「プロジェクトマネジメント演習」「フィールド演習」を配置する。

③個人と社会の持続的発展を支える力

<CP-6>	地域や社会への参画力と主体的に学び行動する力を身に付けるために、「社会課題演習」「データドリブン科目」「プロジェクトデザイン科目」「プロジェクトマネジメント演習」「フィールド演習」を配置する。
--------	--

太字：必修科目

赤字：ユニット指定科目

ユニット
UD:デジタルマネジメント、 U政:政策マネジメント
UE:エリアマネジメント、 UM:マーケティングマネジメント
U会:会計・ファイナンスマネジメント

カリキュラム・ポリシーと教育課程の対応関係

マーケティングマネジメント授業科目（学年配当）

教養科目			専門科目							
1年前期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【基本科目】 ・基本ミクロ経済学 ・基本マクロ経済学	<CP-4-1>						
	【教養教育科目】 ・英語 A ・情報基礎概論	<CP教養-1-2>	・基本統計学 ・基本簿記会計 ・基本経営学 ・基本法学							
	【教養教育科目】 ・大学入門科目Ⅰ	<CP教養-2>								
1年後期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【基本科目】 ・基本経済数学	<CP-4-1>	【データサイエンス科目】 ・データサイエンス入門	<CP-4-1>	【基礎科目】 ・日本経済論 ・経済学史 ・社会情報論 ・民法総則	<CP-4-1>	【演習科目】 ・社会課題演習	<CP-4-1>
	【教養教育科目】 ・英語 B	<CP教養-1-2>	【基礎科目】 ・ミクロ経済学 ・マクロ経済学 ・プロジェクトマネジメント ・マーケティング戦略	<CP-4-1>	・社会調査論 ・経済データ分析実践	<CP-5-1>	<CP-5-1>			
							<CP-5-2>			
										<CP-6>
2年前期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データサイエンス科目】 ・会計学(UD)	<CP-4-1>	【データサイエンス科目】 ・産業組織論(U工,Uマ) ・ブランド戦略論(Uマ) ・知的財産法(U工,Uマ) ・社会保障法Ⅱ(Uマ)	<CP-4-2>	<CP-4-3>	【演習科目】 ・PM演習2年	<CP-5-1>	
	【教養教育科目】 ・英語 C /英語 D	<CP教養-1-2>	・計量経済学(UD) ・経済・統計数学	<CP-5-1>	・金融論(U政,U会) ・財政学(U政,U会) ・都市経済学(UD,U工) ・開発経済学(UD,U工)	<CP-6>			<CP-5-2>	
	【教養教育科目】 ・インターフェース科目	<CP教養-2>	【データドリブン科目】 ・行動経済学(UD,Uマ) ・ロジスティクス・マネジメント(Uマ) ・管理会計論(Uマ,U会)	<CP-4-2>					<CP-6>	<CP-6>
		<CP教養-3>		<CP-5-1>						
				<CP-6>						
2年後期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データサイエンス科目】 ・統計学演習(UD)	<CP-4-1>	【データサイエンス科目】 ・環境経済学(U工,Uマ) ・日本農業論(U工,Uマ) ・経営戦略論(Uマ,U会) ・経営管理論(Uマ,U会) ・マーケティング・コミュニケーション(Uマ) ・労働法Ⅰ(U工,Uマ)	<CP-4-2>	<CP-4-3>	【演習科目】 ・PM演習2年	<CP-5-1>	
	【教養教育科目】 ・英語 C /英語 D	<CP教養-1-2>	・数理統計学	<CP-5-1>	・環境経済学(U工,Uマ) ・日本農業論(U工,Uマ) ・経営戦略論(Uマ,U会) ・経営管理論(Uマ,U会) ・マーケティング・コミュニケーション(Uマ) ・労働法Ⅰ(U工,Uマ)	<CP-6>	<CP-5-2>			
	【教養教育科目】 ・インターフェース科目	<CP教養-2>	【データドリブン科目】 ・空間情報システム(U工,Uマ) ・マーケティング・リサーチ(U工,Uマ) ・オペレーション・リサーチ(UD,Uマ)	<CP-4-2>			<CP-6>		<CP-5-2>	
		<CP教養-3>		<CP-5-1>					<CP-6>	
				<CP-6>						
3年前期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データドリブン科目】 ・労働経済学(UD,U工)	<CP-4-2>	【データサイエンス科目】 ・農政経済論(U工)	<CP-4-2>	<CP-4-2>	【演習科目】 ・PM演習3年	<CP-5-1>	
	【教養教育科目】 ・インターフェース科目	<CP教養-2>	・国際貿易論(U工)	<CP-5-1>	・アジア経済史 ・経営情報論(UD,U工) ・経営組織論(UD,U工) ・経営労務論(U工,U会)	<CP-6>	<CP-6>		<CP-5-2>	
		<CP教養-3>	・ファイナンス論(UD,U会)	<CP-6>			<CP-6>		<CP-6>	
									【演習科目】 ・フィールド演習	<CP-5-2>
										<CP-6>
3年後期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データドリブン科目】 ・原価計算論(U会)	<CP-4-2>	【データサイエンス科目】 ・公共経済学(UD,U工)	<CP-4-2>	<CP-4-2>	【演習科目】 ・PM演習3年	<CP-5-1>	
	【教養教育科目】 ・インターフェース科目	<CP教養-2>	・財務会計論(U工,U会) ・公益事業論(U工,U工) ・政策ミレニウム(U工,U会) ・政策評価分析(U工,U工) ・経営財務論(UD,U会) ・自治体行財政分析(UD,U工)	<CP-5-1>	・Asian Economics ・日本経済史(UD,U会) ・企業論(U工,U会) ・債権法(U工,U会)	<CP-6>	<CP-6>		<CP-5-2>	
		<CP教養-3>		<CP-6>			<CP-6>		<CP-6>	
									【演習科目】 ・フィールド演習	<CP-5-2>
										<CP-6>
4年前期								【演習科目】 ・PM演習4年	<CP-5-1>	
									<CP-5-2>	
									<CP-6>	
4年後期								【演習科目】 ・PM演習4年	<CP-5-1>	
									<CP-5-2>	
									<CP-6>	

○カリキュラム・ポリシー(CP)

教養教育科目

①基礎的な知識と技能の分野

<CP-1-1>	市民社会の諸相を広い視点から認識できる能力を身に付けるために、文化・自然、現代社会と生活に関する授業科目（基本教養科目）を配置する。
<CP-1-2>	コミュニケーションと情報処理の基礎的技能を身に付けるよう言語・情報リテラシーに関する授業科目（共通基礎科目）を初年次から配置する。

②課題発見・解決能力の分野

<CP-2>	現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身に付けるために、「大学入門科目Ⅰ」を必修、インターフェース科目を配置する。
--------	---

③個人と社会の持続的発展を支える力

<CP-3>	倫理観と責任感に基づいた社会への参画力を身につけ、多様な文化と価値観を理解し共生に向かう能力を養うために、インターフェース科目を配置する。
--------	---

学部専門科目

①基礎的な知識と技能の分野

<CP-4-1>	経済学・経営学・法学の基本的知識を修得し、社会科学全般に対する理解を得るために「基本科目」「基礎科目」「社会課題演習」「データサイエンス科目」を配置する。
<CP-4-2>	専門分野の基本的知識を修得し社会事象の基礎的分析能力を身に付けるために、「データドリブン科目」「プロジェクトデザイン科目」を配置する。
<CP-4-3>	グローバル化に対応できる専門分野での情報収集・コミュニケーション能力を高めるために「外国語科目」「実践科目」「特殊講義」を配置する。

②課題発見・解決能力の分野

<CP-5-1>	現代社会の課題を発見・解決する能力を経済学・経営学・法学における専門分野の知識を修得し、各ユニットを通して身に付けるために、「社会課題演習」「データドリブン科目」「プロジェクトデザイン科目」「プロジェクトマネジメント演習」を配置する。
<CP-5-2>	他者と協調し問題解決を実行していく能力を身に付けるために、「社会課題演習」「プロジェクトマネジメント演習」「フィールド演習」を配置する。

③個人と社会の持続的発展を支える力

<CP-6>	地域や社会への参画力と主体的に学び行動する力を身に付けるために、「社会課題演習」「データドリブン科目」「プロジェクトデザイン科目」「プロジェクトマネジメント演習」「フィールド演習」を配置する。
--------	--

太字：必修科目

赤字：ユニット指定科目

ユニット
UD:デジタルマネジメント、 U政:政策マネジメント
UE:エリアマネジメント、 UM:マーケティングマネジメント
U会:会計・ファイナンスマネジメント

カリキュラム・ポリシーと教育課程の対応関係

会計・ファイナンスマネジメントユニット授業科目（学年配当）

教養科目			専門科目						
1年前期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【基本科目】 ・基本ミクロ経済学 ・基本マクロ経済学	<CP-4-1>					
	【教養教育科目】 ・英語A ・情報基礎概論	<CP教養-1-2>	・基本統計学 ・基本簿記会計 ・基本経営学 ・基本法学						
	【教養教育科目】 ・大学入門科目Ⅰ	<CP教養-2>							
1年後期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【基本科目】 ・基本経済数学	<CP-4-1>	<CP-4-1>	【基礎科目】 ・日本経済論 ・経済学史 ・社会情報論 ・民法総則	<CP-4-1>	【演習科目】 ・社会課題演習	<CP-4-1>
	【教養教育科目】 ・英語B	<CP教養-1-2>	【基礎科目】 ・ミクロ経済学 ・マクロ経済学 ・プロジェクトマネジメント ・マーケティング戦略	<CP-4-1>	<CP-5-1>				<CP-5-1>
									<CP-5-2>
2年前期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データサイエンス科目】 ・会計学(UD) ・計量経済学(UD) ・経済・統計数学	<CP-4-1>	<CP-4-2>	【特殊講義】 ・現代の経営 ・実践会計 ・証券市場分析 ・ビジネス基礎英語 ・ビジネス・コミュニケーション英語 ・国際交流実習	<CP-4-3>	【演習科目】 ・PM演習2年	<CP-5-1>
	【教養教育科目】 ・英語C/英語D	<CP教養-1-2>		<CP-5-1>					<CP-5-2>
	【教養教育科目】 ・インターフェース科目	<CP教養-2> <CP教養-3>	【データドリブン科目】 ・ファイナンス論(UD,U会) ・管理会計論(Uマ,U会)	<CP-4-2> <CP-5-1>	<CP-6>				<CP-6>
				<CP-6>					
2年後期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データサイエンス科目】 ・統計学演習(UD) ・数理統計学	<CP-4-1>	<CP-4-2>	【特殊講義】 ・現代の労働 ・PRデザイン ・市民と法	<CP-4-3>	【演習科目】 ・PM演習2年	<CP-5-1>
	【教養教育科目】 ・英語C/英語D	<CP教養-1-2>		<CP-5-1>					<CP-5-2>
	【教養教育科目】 ・インターフェース科目	<CP教養-2> <CP教養-3>	【データドリブン科目】 ・原価計算論(U会) ・財務会計論(U工,U会) ・政策シミュレーション(U政,U会) ・経営財務論(UD,U会)	<CP-4-2> <CP-5-1>	<CP-6>				<CP-6>
				<CP-6>					
3年前期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データドリブン科目】 ・行動経済学(UD,Uマ) ・労働経済学(UD,U政) ・国際貿易論(U政) ・地域経済分析(U工) ・ビジネスマネジメント(Uマ)	<CP-4-2>	<CP-4-2>	【データサイエンス科目】 ・農政経済論(U工) ・アジア経済史 ・経営情報論(UD,U政) ・経営組織論(UD,U工) ・ブランド戦略論(Uマ)	<CP-4-2>	【演習科目】 ・PM演習3年	<CP-5-1>
	【教養教育科目】 ・インターフェース科目	<CP教養-2> <CP教養-3>		<CP-5-1>	<CP-6>				<CP-5-2>
				<CP-6>					<CP-6>
3年後期	【教養教育科目】 ・基本教養科目	<CP教養-1-1>	【データドリブン科目】 ・空間情報システム(U工,Uマ) ・マーケティングリサーチ(U工,Uマ) ・公益事業論(U政,U工) ・政策評価分析(U政,U工) ・オペレーションリサーチ(UD,Uマ) ・自治体行財政分析(UD,U政)	<CP-4-2>	<CP-4-2>	【データサイエンス科目】 ・環境経済学(U政,Uマ) ・日本農業論(U政,Uマ) ・Asian Economics ・マーケティングコミュニケーション(Uマ) ・刑法総論(UD)	<CP-4-2>	【演習科目】 ・PM演習3年	<CP-5-1>
	【教養教育科目】 ・インターフェース科目	<CP教養-2> <CP教養-3>		<CP-5-1>	<CP-6>				<CP-5-2>
				<CP-6>					<CP-6>
4年前期								【演習科目】 ・フィールド演習	<CP-5-2> <CP-6>
								【演習科目】 ・PM演習4年	<CP-5-1> <CP-5-2> <CP-6>
								【演習科目】 ・フィールド演習	<CP-5-2> <CP-6>
4年後期								【演習科目】 ・PM演習4年	<CP-5-1> <CP-5-2> <CP-6>

○カリキュラム・ポリシー(CP)

教養教育科目

①基礎的な知識と技能の分野

<CP-1-1>	市民社会の諸相を広い視点から認識できる能力を身に付けるために、文化・自然、現代社会と生活に関する授業科目（基本教養科目）を配置する。
<CP-1-2>	コミュニケーションと情報処理の基礎的技能を身に付けるよう言語・情報リテラシーに関する授業科目（共通基礎科目）を初年次から配置する。

②課題発見・解決能力の分野

<CP-2>	現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけるために、「大学入門科目Ⅰ」を必修、インターフェース科目を配置する。
--------	---

③個人と社会の持続的発展を支える力

<CP-3>	倫理観と責任感に基づいた社会への参画力を身につけ、多様な文化と価値観を理解し共生に向かう能力を養うために、インターフェース科目を配置する。
--------	---

学部専門科目

①基礎的な知識と技能の分野

<CP-4-1>	経済学・経営学・法学の基本的知識を修得し、社会科学全般に対する理解を得るために「基本科目」「基礎科目」「社会課題演習」「データサイエンス科目」を配置する。
<CP-4-2>	専門分野の基本的知識を修得し社会事象の基礎的分析能力を身に付けるために、「データドリブン科目」「プロジェクトデザイン科目」を配置する。
<CP-4-3>	グローバル化に対応できる専門分野での情報収集・コミュニケーション能力を高めるために「外国語科目」「実践科目」「特殊講義」を配置する。

②課題発見・解決能力の分野

<CP-5-1>	現代社会の課題を発見・解決する能力を経済学・経営学・法学における専門分野の知識を修得し、各ユニットを通して身に付けるために、「社会課題演習」「データドリブン科目」「プロジェクトデザイン科目」「プロジェクトマネジメント演習」を配置する。
<CP-5-2>	他者と協調し問題解決を実行していく能力を身に付けるために、「社会課題演習」「プロジェクトマネジメント演習」「フィールド演習」を配置する。

③個人と社会の持続的発展を支える力

<CP-6>	地域や社会への参画力と主体的に学び行動する力を身に付けるために、「社会課題演習」「データドリブン科目」「プロジェクトデザイン科目」「プロジェクトマネジメント演習」「フィールド演習」を配置する。
--------	--

太字：必修科目

赤字：ユニット指定科目

ユニット

UD:デジタルマネジメント、 U政:政策マネジメント
U工:エリアマネジメント、 Uマ:マーケティングマネジメント
U会:会計・ファイナンスマネジメント

佐賀大学 学士力

佐賀大学では、基礎的及び専門的な知識と技能に基づいて課題を発見し解決する能力を培い、個人として生涯にわたって成長し、社会の持続的発展を支える人材を養成する。そのために、佐賀大学の学士力を次のとおり位置づける。

1. 基礎的な知識と技能

(1) 市民社会の一員として共通に求められる基礎的な知識と技能

様々な学問分野（自然、文化、社会）における基本概念や思考方法を理解し、現代社会の諸問題を自らの力で合理的かつ論理的に推論し判断することができる。

(2) 市民社会の一員として思考し活動するための技能

- ① 日本語による文書と会話で他者の意思を的確に理解し、自らの意思を表現し、他者の理解を得ることができる。
- ② 英語を用いて知識を修得し、グローバル社会に向けて自らの考えを発信することができる。
- ③ 情報を収集し、その適正を判断し、適切に活用・管理することができる。

(3) 専門分野に必要とされる基礎的な知識・技能

専門分野について、基本概念や原理を理解して説明することができ、一般的に用いられている重要な技法に習熟している。

2. 課題発見・解決能力

(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力

現代社会における諸問題を多面的に考察し、その解決に役立つ情報を収集し分析することができる。

(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力

専門分野の課題を発見し、その解決に向けて専門分野の知識と技法を応用することができる。

(3) 課題解決につながる協調性と指導力

課題解決のために、他者と協調・協働して行動でき、また、他者に方向性を示すことができる。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力

歴史や文化・伝統などの違いを踏まえて、平和な社会の実現のために、自己と同時に他者の立場に立って物事を考えることができ、また自然環境や社会的弱者に配慮することができる。

(2) 地域や社会への参画力と主体的に学び行動する力

地域や社会の様々な問題に関心を持ち、地域や社会における自らの役割を主体的に選択・決定し、課題に向けて、主体的に学び行動することができる。

(3) 高い倫理観と社会的責任感

高い倫理観によって社会生活で守るべき規範を遵守することができ、社会の健全な維持・発展に主体的に寄与する姿勢を身に付けている。

科目区分		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		合計	
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
教養教育科目		大学入門科目Ⅰ * 英語A-B-C-D 基本教養科目 情報基礎概論		インターフェース科目※						※「課題を発見し解決に取り組む姿勢を養い、学士課程教育で得た知識・技能を社会において活かし、将来にわたり個人と社会との持続的発展を支える力を培う」ための科目として、教養教育科目の一部として、設定している科目	30
専 門 教 育 科 目	基本科目	基本ミクロ経済学 基本マクロ経済学 基本統計学 基本簿記会計 基本経営学 基本法学	基本経済数学 ミクロ経済学 マクロ経済学 プロジェクトマネジメント マーケティング戦略	}				凡 例 必修科目 選択科目 ユニット指定科目 * 1単位科目		必修14	
	基礎科目	日本経済論 経済学史 社会情報論 民法総則	選択必修 4単位							必修8 + 選必4	
	データサイエンス科目	データサイエンス入門 社会調査論 経済データ分析実践		計量経済学 会計学 経済・統計数学	統計学演習 数理統計学	}		選択必修 4単位	必修6 + 選必4		
	データドリブン科目		ユニット選択必修 12単位	行動経済学 労働経済学 ファイナンス論	経営財務論 オペレーションズリサーチ 自治体行財政分析	}		マーケティングリサーチ 原価計算論 財務会計論 空間情報システム 政策シミュレーション 公益事業論 政策評価分析	データドリブン科目・プロジェクトデザイン科目は、2 年次より履修可能とし、ユニット単位で履修を進める。 履修順序に関する制限は設けず、学生の自律的な学習計画に基づいて進めることが可能。	ユニット指定科目より 選必12	
	プロジェクトデザイン科目		ユニット選択必修 8単位	都市経済学 開発経済学 経営情報論 経営組織論 知的財産法	公共経済学 日本経済史 刑法総論						農政経済論 アジア経済史 経営労務論 ブランド戦略論 物権法 刑法各論 労働法Ⅱ 社会保障法Ⅱ 行政法総論 政治学
	演習科目		社会課題演習	プロジェクトマネジメント演習Ⅰ *フィールド演習Ⅰ	プロジェクトマネジメント演習Ⅱ *フィールド演習Ⅱ	プロジェクトマネジメント演習Ⅲ *フィールド演習Ⅲ	プロジェクトマネジメント演習Ⅳ *フィールド演習Ⅳ	プロジェクトマネジメント演習Ⅴ *フィールド演習Ⅴ	プロジェクトマネジメント演習Ⅵ *フィールド演習Ⅵ	必修14	
	実践科目 特殊講義			現代の経営 実践会計 証券市場分析	現代の労働 PRデザイン 市民と法	ビジネス基礎英語 ビジネス・コミュニケーション英語 国際交流実習					
	合計単位数		21	25	19	19	18	18	2	2	124

カリキュラムマップ（政策マネジメントユニット）

科目区分		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		合計
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
教養教育科目		大学入門科目I * 英語A-B-C-D 基本教養科目 情報基礎概論		インターフェース科目※		選択必修14単位		※「課題を発見し解決に取り組む姿勢を養い、学士課程教育で得た知識・技能を社会において活かし、将来にわたり個人と社会との持続的発展を支える力を培う」ための科目として、教養教育科目の一部として、設定している科目		30
専 門 教 育 科 目	基本科目	基本ミクロ経済学 基本マクロ経済学 基本統計学 基本簿記会計 基本経営学 基本法学	基本経済数学 ミクロ経済学 マクロ経済学 プロジェクトマネジメント マーケティング戦略	選択必修 4単位				凡 例 必修科目 選択科目 ユニット指定科目 * 1単位科目		必修14
	基礎科目		日本経済論 経済学史 社会情報論 民法総則							必修8 + 選必4
	データサイエンス科目		データサイエンス入門 社会調査論 経済データ分析実践	計量経済学 会計学 経済・統計数学	統計学演習 数理統計学	選択必修 4単位				必修6 + 選必4
	データドリブン科目		ユニット選択必修 8単位	労働経済学 国際貿易論	公益事業論 政策シミュレーション 政策評価分析 自治体財政分析	行動経済学 地域経済分析 ファイナンス論 ロジスティクスマネジメント 管理会計論	原価計算論 財務会計論 空間情報システム マーケティングリサーチ 経営財務論 オペレーションズリサーチ	データドリブン科目・プロジェクトデザイン科目は、2 年次より履修可能とし、ユニット単位で履修を進める。 履修順序に関する制限は設けず、学生の自律的な学習計画に基づいて進めることが可能。		ユニット指定科目より 選必8
	プロジェクトデザイン科目		ユニット選択必修 12単位	金融論 財政学 経営情報論 行政法総論	公共経済学 環境経済学 日本農業論 企業論 社会保障法Ⅰ 憲法	アジア経済史 経営組織論 経営労務論 ブランド戦略論 知的財産法 物権法 刑法各論 労働法Ⅱ 社会保障法Ⅱ 政治学	Asian Economics 日本経済史 経営戦略論 経営管理論 マーケティングコミュニケーション 債権法 刑法総論 労働法Ⅰ 行政救済法 会社法			ユニット指定科目より 選必12
	演習科目		社会課題演習	プロジェクトマネジメント演習Ⅰ *フィールド演習Ⅰ	プロジェクトマネジメント演習Ⅱ *フィールド演習Ⅱ	プロジェクトマネジメント演習Ⅲ *フィールド演習Ⅲ	プロジェクトマネジメント演習Ⅳ *フィールド演習Ⅳ	プロジェクトマネジメント演習Ⅴ	プロジェクトマネジメント演習Ⅵ	必修14
実践科目 特殊講義				現代の経営 実践会計 証券市場分析	現代の労働 PRデザイン 市民と法	ビジネス基礎英語 ビジネス・コミュニケーション英語 国際交流実習				
合計単位数		21	25	19	19	18	18	2	2	124

カリキュラムマップ（エリアマネジメントユニット）

科目区分		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		合計
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
教養教育科目		大学入門科目I * 英語A-B-C-D 基本教養科目 情報基礎概論		インターフェース科目※		選択必修14単位		※「課題を発見し解決に取り組む姿勢を養い、学士課程教育で得た知識・技能を社会において活かし、将来にわたり個人と社会との持続的発展を支える力を培う」ための科目として、教養教育科目の一部として、設定している科目		30
専 門 教 育 科 目	基本科目	基本ミクロ経済学 基本マクロ経済学 基本統計学 基本簿記会計 基本経営学 基本法学	基本経済数学 ミクロ経済学 マクロ経済学 プロジェクトマネジメント マーケティング戦略	選択必修 4単位				凡 例 必修科目 選択科目 ユニット指定科目 * 1単位科目		必修14
	基礎科目		日本経済論 経済学史 社会情報論 民法総則							必修8 + 選必4
	データサイエンス科目	データサイエンス入門 社会調査論 経済データ分析実践		計量経済学 会計学 経済・統計数学	統計学演習 数理統計学	選択必修 4単位				必修6 + 選必4
	データドリブン科目		ユニット選択必修 8単位	地域経済分析	空間情報システム マーケティングリサーチ 財務会計論 公益事業論 政策評価分析	行動経済学 労働経済学 国際貿易論 ファイナンス ロジスティクスマネジメント 管理会計論	原価計算論 政策シミュレーション 経営財務論 オペレーションリサーチ 自治体行財政分析	データドリブン科目・プロジェクトデザイン科目は、2 年次より履修可能とし、ユニット単位で履修を進める。 履修順序に関する制限は設けず、学生の自律的な学習計画に基づいて進めることが可能。		ユニット指定科目より 選必8
	プロジェクトデザイン科目		ユニット選択必修 12単位	産業組織論 都市経済学 開発経済学 農政経済論 経営組織論 経営労務論 物権法 行政法総論	債権法 労働法 I 公共経済学 環境経済学 日本農業論 Asian Economics	アジア経済史 経営情報論 ブランド戦略論 知的財産法 刑法各論 社会保険法II 金融論 財政学 労働法II 政治学	日本経済史 企業論 経営戦略論 経営管理論 マーケティングコミュニケーション 刑法総論 社会保険法I 憲法 行政救済法 会社法			ユニット指定科目より 選必12
	演習科目	社会課題演習		プロジェクトマネジメント演習Ⅰ *フィールド演習Ⅰ	プロジェクトマネジメント演習Ⅱ *フィールド演習Ⅱ	プロジェクトマネジメント演習Ⅲ *フィールド演習Ⅲ	プロジェクトマネジメント演習Ⅳ *フィールド演習Ⅳ	プロジェクトマネジメント演習Ⅴ プロジェクトマネジメント演習Ⅵ		必修14
実践科目 特殊講義				現代の経営 実践会計 証券市場分析	現代の労働 PRデザイン 市民と法	ビジネス基礎英語 ビジネス・コミュニケーション英語 国際交流実習				
合計単位数		21	25	19	19	18	18	2	2	124

カリキュラムマップ（マーケティングマネジメント ユニット）

科目区分		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		合計
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
教養教育科目		大学入門科目I * 英語A-B-C-D 基本教養科目 情報基礎概論		インターフェース科目※		選択必修14単位		※「課題を発見し解決に取り組む姿勢を養い、学士課程教育で得た知識・技能を社会において活かし、将来にわたり個人と社会との持続的発展を支える力を培う」ための科目として、教養教育科目の一部として、設定している科目		30
専門 教育 科目	基本科目	基本ミクロ経済学 基本マクロ経済学 基本統計学 基本簿記会計 基本経営学 基本法学	基本経済数学 ミクロ経済学 マクロ経済学 プロジェクトマネジメント マーケティング戦略	選択必修 4単位				凡 例 必修科目 選択科目 ユニット指定科目 * 1単位科目		必修14
	基礎科目		日本経済論 経済学史 社会情報論 民法総則							必修8 + 選必4
	データ サイエンス 科 目	データサイエンス入門 社会調査論 経済データ分析実践		計量経済学 会計学 経済・統計数学	統計学演習 数理統計学	選択必修 4単位				必修6 + 選必4
	データドリブン 科 目		ユニット選択必修 8単位	行動経済学 ロジスティクスマネジメント 管理会計論	空間情報システム マーケティングリサーチ オペレーションズリサーチ	原価計算論 財務会計論 公益事業論 政策シミュレーション 政策評価分析 経営財務論 自治体行財政分析		データドリブン科目・プロジェクトデザイン科目は、2 年次より履修可能とし、ユニット単位で履修を進める。 履修順序に関する制限は設けず、学生の自律的な学習計画に基づいて進めることが可能。		ユニット指定 科目より 選必8
	プロジェクト デザイン 科 目		ユニット選択必修 12単位	産業組織論 ブランド戦略論 知的財産法 社会保障法Ⅱ	環境経済学 日本農業論 経営戦略論 経営管理論 マーケティングコミュニケーション 労働法Ⅰ					ユニット指定 科目より 選必12
	演習科目	社会課題演習		プロジェクトマネジメント演習Ⅰ *フィールド演習Ⅰ	プロジェクトマネジメント演習Ⅱ *フィールド演習Ⅱ	プロジェクトマネジメント演習Ⅲ *フィールド演習Ⅲ	プロジェクトマネジメント演習Ⅳ *フィールド演習Ⅳ	プロジェクトマネジメント演習Ⅴ	プロジェクトマネジメント演習Ⅵ	必修14
実践科目 特殊講義				現代の経営 実践会計 証券市場分析	現代の労働 PRデザイン 市民と法	ビジネス基礎英語 ビジネス・コミュニケーション英語 国際交流実習				
合計単位数		21	25	19	19	18	18	2	2	124

カリキュラムマップ（会計・ファイナンスマネジメント ユニット）

科目区分		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		合計
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
教養教育科目		大学入門科目I * 英語A-B-C-D 基本教養科目 情報基礎概論		インターフェース科目※		選択必修14単位		※「課題を発見し解決に取り組む姿勢を養い、学士課程教育で得た知識・技能を社会において活かし、将来にわたり個人と社会との持続的発展を支える力を培う」ための科目として、教養教育科目の一部として、設定している科目		30
専 門 教 育 科 目	基本科目	基本ミクロ経済学 基本マクロ経済学 基本統計学 基本簿記会計 基本経営学 基本法学	基本経済数学 ミクロ経済学 マクロ経済学 プロジェクトマネジメント マーケティング戦略	}				凡 例 必修科目 選択科目 ユニット指定科目 * 1単位科目		必修14
	基礎科目		日本経済論 経済学史 社会情報論 民法総則							必修8 + 選必4
	データサイエンス科目	データサイエンス入門 社会調査論 経済データ分析実践		計量経済学 会計学 経済・統計数学	統計学演習 数理統計学	}		選択必修 4単位		必修6 + 選必4
	データドリブン科目		ユニット選択必修 8単位	ファイナンス論 管理会計論	原価計算論 財務会計論 政策シミュレーション 経営財務論	}		データドリブン科目・プロジェクトデザイン科目は、2 年次より履修可能とし、ユニット単位で履修を進める。 履修順序に関する制限は設けず、学生の自律的な学習計画に基づいて進めることが可能。		ユニット指定 科目より 選必8
	プロジェクトデザイン科目		ユニット選択必修 12単位	金融論 財政学 経営労務論 物権法 刑法各論	日本経済史 企業論 経営戦略論 経営管理論 債権法					ユニット指定 科目より 選必12
	演習科目		社会課題演習	プロジェクトマネジメント演習Ⅰ *フィールド演習Ⅰ	プロジェクトマネジメント演習Ⅱ *フィールド演習Ⅱ	プロジェクトマネジメント演習Ⅲ *フィールド演習Ⅲ	プロジェクトマネジメント演習Ⅳ *フィールド演習Ⅳ	プロジェクトマネジメント演習Ⅴ	プロジェクトマネジメント演習Ⅵ	必修14
実践科目 特殊講義				現代の経営 実践会計 証券市場分析	現代の労働 PRデザイン 市民と法	ビジネス基礎英語 ビジネス・コミュニケーション英語 国際交流実習				
合計単位数		21	25	19	19	18	18	2	2	124

令和8年度(2026)大学コンソーシアム佐賀 共通教育科目一覧

No	開講大学	科目名	開講時期	曜日 校時	授業形式	カテゴリ	受入 定員	授業概要等	他大学生による履修上の注意
1	佐賀大学 (本庄)	農学の世界A	前学期	木2	対面のみ	教養科目	5人	本授業では、農業従事者が生活する農村における生活環境及び自然環境と人々の活動との関連について学びます。 人々の生活や農業に欠かすことのできない水(質・量)や大気に関する佐賀県内での事例を中心について講義します。	
2	佐賀大学 (本庄)	ドイツの言語と文化 I	前学期	水2	対面及び e-Learning	教養科目	5人	本講義はドイツ語の初級文法の習得が目的です。教科書を用いて初級文法の解説と表現の演習をします。文法事項は佐賀大学のe-learningシステムを通じて課題を提出する形で学習を進め、教室では発音練習に重点を置く対面授業を実施します。教室での対面授業は第2回目から始まりま す。第1回目は各自でe-learningシステムにログインして課題を提出してく ださい。毎回の文法説明は指定した辞書と教科書を運動させた形で進め ます。	教科書は佐賀大学生協で購入できます。
3	佐賀大学 (本庄)	ドイツの言語と文化 I	前学期	水3	対面及び e-Learning	教養科目	5人	本講義はドイツ語の初級文法の習得が目的です。教科書を用いて初級文法の解説と表現の演習をします。文法事項は佐賀大学のe-learningシステムを通じて課題を提出する形で学習を進め、教室では発音練習に重点を置く対面授業を実施します。教室での対面授業は第2回目から始まりま す。第1回目は各自でe-learningシステムにログインして課題を提出してく ださい。毎回の文法説明は指定した辞書と教科書を運動させた形で進め ます。	教科書は佐賀大学生協で購入できます。
4	佐賀大学 (本庄)	ドイツの言語と文化 I	前学期	木1	対面及び e-Learning	教養科目	5人	本講義はドイツ語の初級文法の習得が目的です。教科書を用いて初級文法の解説と表現の演習をします。文法事項は佐賀大学のe-learningシステムを通じて課題を提出する形で学習を進め、教室では発音練習に重点を置く対面授業を実施します。教室での対面授業は第2回目から始まりま す。第1回目は各自でe-learningシステムにログインして課題を提出してく ださい。毎回の文法説明は指定した辞書と教科書を運動させた形で進め ます。	教科書は佐賀大学生協で購入できます。
5	佐賀大学 (本庄)	ドイツ文学A	前学期	集中	対面のみ	教養科目	5人	読書を通じて異文化への興味を高めることを目指す授業です。ドイツ語圏の代表的な文学から2作品を取り上げ、作品が成立した背景や作者について学び、内容や表現の分析を通じて様々な角度から作品を味わいま す。 今回取り上げるのは次の2作品です。 ●ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ『若きウェルテルの悩み』 ●ベルンハルト・シュリンク『朗読者』	
6	佐賀大学 (本庄)	コミュニケーション論	前学期	常時 受講可	e-Learning (オンライ ン)	教養科目	30人	本科目は、総合的なコミュニケーション能力の向上につながる基本的な知識や技能を修得するための講義を行う。基礎理論、言語、非言語コミュニケーション、対人的コミュニケーションから異文化コミュニケーションまでを包括的に取り扱う。講義は複数名の教員で担当するオムニバス形式の授業である。	佐賀大学のe-Learningシステムにアクセスして受講。
7	佐賀大学 (本庄)	西洋史	前学期	水2	対面及びオン デマンド	教養科目	5人	近現代ヨーロッパ(フランス)の歴史をさまざまなトピックに分けて学んで い。現代社会には教育、家族、宗教、移民、言語、政治などの分野にお いて、さまざまな社会問題が存在し、これらの社会問題の起源・本質を知る ために19世紀のヨーロッパの歴史を考察する。また、同時代の日本の歴史 を比較検討することで、近現代の歴史についてグローバルに学んでい く。	担当者の業務の都合により、全15回の授業のうち、おおよ5回分の授業が動画配信型のオン デマンド授業となります。ご了承ください。
8	佐賀大学 (本庄)	サッカーの歴史と技法	前学期	水3	対面のみ	教養科目	5人	サッカーを取り巻くあらゆる諸相を取り上げ、様々な観点からサッカー競技の課題研究・分析する科目である。主にグループワークが中心となる が、それぞれが関心のあるテーマでプレゼンテーションを行いながら、サッカー競技全般の見識を理解する。	
9	佐賀大学 (本庄)	ドイツ文学B	後学期	集中	対面のみ	教養科目	5人	読書を通じて異文化への興味を高めることを目指す授業です。ドイツ語圏の代表的な文学から2作品を取り上げ、作品が成立した背景や作者について学び、内容や表現の分析を通じて様々な角度から作品を味わいま す。 今回取り上げるのは次の2作品です。 ●ヨハンナ・シュビリ『ハイジ』 ●ミヒャエル・エンデ『モモ』	
10	佐賀大学 (本庄)	コミュニケーション論	後学期	常時 受講可	e-Learning (オンライ ン)	教養科目	30人	本科目は、総合的なコミュニケーション能力の向上につながる基本的な知識や技能を修得するための講義を行う。基礎理論、言語、非言語コミュニケーション、対人的コミュニケーションから異文化コミュニケーションまでを包括的に取り扱う。講義は複数名の教員で担当するオムニバス形式の授業である。	佐賀大学のe-Learningシステムにアクセスして受講。
11	佐賀大学 (本庄)	原子の発見	後学期	水2	対面のみ	教養科目	5人	この世界にあるすべての物質は、原子という小さな粒子が多数集まって できています。これは、現代では常識です。しかし、我々は普段の生活 の中で原子の存在を意識することはありません。原子はとても小さいので、 その一つ一つを直接目で見る事ができないからです。理科の時間に使っ た光学顕微鏡を使っても見えません。原子を見るには電子顕微鏡が必要 です。 原子は今から100年ほど昔の20世紀初頭に、その存在が確立されまし た。その時代には、電子顕微鏡はありませんでした。電子顕微鏡は、原子 の存在が確かめられ、原子がさらに小さな原子核と電子からできているこ とがわかった後に開発されたからです。虫眼鏡や光学顕微鏡しかない時代 に、どのようにして原子の存在を確かめたのでしょうか？ この授業では、人類がどのようにして原子の存在を確かめたのかを、 じっくりと講義します。人類の原子をめぐる冒険は古代ギリシャ時代から始 まります。アリストテレス、ガリレイ、ニュートン、アインシュタインなどの哲 学者・科学者がこの冒険の登場人物です。歴史に名を残すような偉大な 学者も、たくさんの失敗や間違いをしました。先人達の試行錯誤を知ること で、科学的に考えるとはどういうことなのかについても話します。 講義は板書、スライド、動画などを使って行います。理解を助けるために 実験や解析の疑似体験も行います。	
12	佐賀大学 (本庄)	近代サッカーの成立と進歩	後学期	水3	対面のみ	教養科目	5人	この授業科目は、単にサッカーをする授業ではない。近代サッカーの理論を講義から理解すると共に、その理論を基とした技術・戦術の理解と体得を目指す科目である。	
13	佐賀大学 (本庄)	柔道の歴史と技法	後学期	水3	対面のみ	教養科目	5人	本講義は、柔道未経験者を対象にして柔道の歴史背景や文化、理論、哲学等と合わせて初歩的な技術を学ぶ科目です。試合は原則しませんが、争うことが苦手な人でも問題ない内容になっています。	柔道着は各自で用意してください。
14	佐賀大学 (本庄)	西洋史	後学期	水3	対面及び オンデマンド	教養科目	5人	近現代ヨーロッパ(フランス)の歴史をさまざまなトピックに分けて学んで い。現代社会には教育、家族、宗教、移民、言語、政治などの分野にお いて、さまざまな社会問題が存在し、これらの社会問題の起源・本質を知る ために19世紀のヨーロッパの歴史を考察する。また、同時代の日本の歴史 を比較検討することで、近現代の歴史についてグローバルに学んでい く。	担当者の業務の都合により、全15回の授業のうち、おおよ3回分の授業が動画配信型のオン デマンド授業となります。ご了承ください。
15	佐賀大学 (本庄)	インタラクティブコンテンツ入門	後学期	集中	対面のみ	教養科目	5人	集中講義として実施。 原則として対面授業。 この授業は、まず(1)Unityを使用することで仮想3次元空間について理解し、(2)その空間に物体を置いて色や大きさや照明などの効果を理解し、(3)それらをインタラクティブに操作する方法を理解する、あわせて(4)VRやMRなどの先端的社会状況について論ずる。 この授業では3DCGのモデリングやプログラミングなどの詳細には触れない。 毎回の授業において、グループディスカッションなどを取り入れる。 Unityがインストール可能な性能(Intel Core i7 & Memory 8GB以上)のPC持参が必須。 インターネット接続環境は、学内無線LANもしくは、個人のモバイルルータなどを利用。	Unityが動く性能のノートパソコン必携 コロナ禍の状況に鑑み、オンライン会議システムを使う場合がある。
16	佐賀大学 (本庄)	データサイエンスBasic I	後学期	受講期間 を指定	遠隔授業 (オンライ ン)	教養科目	5人	本講義では、数理・データサイエンス・AIを日常生活や仕事などの場で活用できる基礎的素養を身に付け、これらを問題解決や他者との円滑なコミュニケーション等に正しく活用できる人材を育成することを目的として、授業計画に記した内容について学ぶ。	佐賀大学のe-Learningシステムにアクセスして受講。

令和8年度(2026)大学コンソーシアム佐賀 共通教育科目一覧

No	開講大学	科目名	開講時期	曜日校時	授業形式	カテゴリ	受入定員	授業概要等	他大学生による履修上の注意
17	佐賀大学 (本庄)	データサイエンスBasicⅡ	後学期	受講期間を指定	遠隔授業 (オンライン)	教養科目	5人	データを読み解くために必要な基本的な統計知識と、データを活用するために必要な基本的な統計手法について解説し、演習課題を通してスキルの定着を図る。	佐賀大学のe-Learningシステムにアクセスして受講。
18	佐賀大学 (本庄)	STEAM学習基礎	後学期	水1	対面	教養科目	5人	講義前半では、STEAM教育の基本概念や歴史、デザイン思考、社会事例から見るSTEAMの意義、チームワークとコラボレーションのスキル等について理解する。講義後半では、アメリカ等でのSTEAM教育の実践例を参考に、チームごとに身の回りの不便を解決するプロダクトについて議論し、CADによるプロダクト設計や3Dプリンタを用いたプロダクト製作を体験する。講義最後には、学びの総括として、製作したプロダクトの実演も含めたピッチコンテストを行い、順位を競う。講義後は、学習内容をどう生かすのかについて振り返りレポートを提出する。	Fusion,Creatlity Print,Bambu Studioといったソフトを個人のパソコンにダウンロードして実践を行いますので、ノートパソコンを持参してください。
19	西九州大学	現代社会と倫理	前学期		対面のみ	教養科目	10人	科学技術の進歩は、伝統的な倫理観に対立する事象を多く生み出している。医療の分野における技術革新は脳死問題、生体臓器移植等々を生み出し、伝統的な生命観を超えた問題を提起している。環境問題についても課題は山積である。現代において倫理的問題を語ることの難しさを実感することが狙いである。SDGsとの関連についても理解を深める。	
20	西九州大学	多文化社会学	前学期		対面のみ	教養科目	10人	本講義では、近年の急激なIT化、少子高齢化、グローバル化など、国際的環境状況の変化によって、現代社会がどのように変化したのかについて社会学的にアプローチする。これらの多様化・多文化・個性化現象の変化に伴う課題とその解決策について議論しながら、何よりも学生自身が主体的、自主的に考えられるように指導する。	
21	西九州大学	人間論と現代思想	後学期		対面のみ	教養科目	10人	「人間とはなにか」という根本的な問題を西洋近現代の思想を通して探る。人間の尊厳や自立といった論点を理解するには根本的な人間理解が必要である。まずデカルトの「心身二元論」の理解及びその限界を明らかにする。最後に統一的な人間像を把握へと進む。SDGsの関連についても理解を深める。	
22	西九州大学	地球環境科学	後学期		遠隔授業 (リアルタイム)	教養科目	10人	環境の変化を科学的な視点から捉え、様々な地球環境問題について学習する。 環境負荷の軽減について考える。	
23	佐賀女子短期大学	多文化共生の理解	前学期		対面のみ	専門科目	5人	様々な文化・宗教・社会的背景を有する人々の存在を知り、認め、共に生きる、それが「多文化共生社会」。6名の教員がそれぞれの専門分野の視点から多文化共生に関する講義を行ない、一巡することにディスカッションを行います。	
24	佐賀女子短期大学	発達障害の理解	前学期		対面のみ	専門科目	5人	耳にしたことがあるかもしれない発達障害や自閉症について、その特徴や関わり方のヒントについて学びます	
25	佐賀女子短期大学	子育て支援の理論と実際Ⅰ	前学期		対面のみ	専門科目	5人	子育て支援はなぜ必要なのか、どんな支援が求められているのか、実践者の話を交えながら、考え学びましょう。	
26	佐賀女子短期大学	世界の神話	後学期		対面のみ	専門科目	5人	神話とは、さまざまなもの／ごとの起源を、超人間的な存在に託して語る物語。現代においてもさまざまな局面で再生産され続けています。人類に最も強く影響を与え続けてきた旧約聖書とギリシャ神話に記された、世界と人間の始まりを語る神話を読むことを通して、「神話」を必要とする私たち自身について考えてみましょう。	
27	九州龍谷短期大学	心理学概論A	前学期		対面のみ	教養科目	制限なし	本講義は心理学に対する興味・関心を高めるための入門編にあたります。認知心理学・発達心理学・教育心理学・臨床心理学・社会心理学・学習心理学を中心に、行動に現れる人の心に関する研究を幅広く紹介し、実際に体験しながら、人間の心のしくみについて理解を深めます。	原則対面授業ですが、状況に応じて遠隔授業(zoom・ビデオオンデマンド等)にて実施する可能性があります。
28	西九州大学 短期大学部	異文化理解	前学期	水3	遠隔授業 (リアルタイム)	教養科目	制限なし	多文化社会へと進む時代を生きていくためには、グローバルな考え方をもち、適切に対応していく必要がある。授業では、異文化への理解、異文化コミュニケーションについて学ぶことで、多文化共生社会のグローバルな視点、身近な他者への理解と物事を捉える力を身に付ける。	
29	西九州大学 短期大学部	心理学入門	後学期	常時 受講可	遠隔授業 (オンデマンド)	教養科目	制限なし	日常的なテーマについて心理学の知識を基に生物としてのヒトの生活、自己と他者の違いなどを理解して、良識ある社会人として、主体的・自立的に行動できる力の向上をめざす。さらに、地域社会への貢献に努め、すすんで社会に奉仕できる有能な職業人としての基礎力を養うことをねらいとする。	
	放送大学	【科目数約400科目】 次の「授業科目案内」に掲載。 https://www.oui.ac.jp/booklet/2026/26-1_gakubu_kamoku.pdf	【通年開講】 第1学期と第2学期の両方で開講	インターネット等で場所、時間を問わずに受講可能	放送授業 オンライン授業	基盤科目 導入科目 専門科目 総合科目	制限なし	科目の授業概要は「授業科目案内」や「シラバス検索」で確認ください。 【シラバス検索】 https://www.oui.ac.jp/kamoku/kyouyou/C/	【受講方法】 インターネット等(PC、スマートフォン、タブレット等)、BS放送(テレビ・ラジオ)、インターネットラジオ(radiko.jp)、佐賀学習センター等 ・1学期は6ヶ月間で完結します。 ・印刷教材(テキスト等)は授業料に含まれます。 ・オンライン授業教材はインターネットで提供です。

【オンラインシラバス検索】

佐賀大学 https://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_21/init
西九州大学・西九州短期大学部 <http://er.nisikyu-u.ac.jp/ABU0300>
佐賀女子短期大学 https://a3web.ap-cloud.com/web_asahigakuen/syllabus/se0010.aspx?me=EJ&opi=mt0010
九州龍谷短期大学 <https://www.k-ryukoku.ac.jp/students/>

授業時間割 注	1校時	2校時	3校時	4校時	5校時
佐賀大学	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
西九州大学					
九州龍谷短期大学			12:45～14:15	14:25～15:55	16:05～17:35
佐賀女子短期大学			13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
西九州大学短期大学部					

注)授業時間割は開講大学の都合により変更になる場合があります。

佐賀大学における多様なメディアを高度に利用して行う授業に関する要項

(令和4年1月31日制定)

目 次

(趣旨)

第1条 この要項は、佐賀大学学則（平成16年4月1日制定。以下「学則」という。）第18条第2項に規定する、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる授業の実施について必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この要項において、「遠隔授業」とは、インターネット及び学習管理システム等を利用して、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱うもので、次に掲げるいずれかの要件を満たし、対面授業に相当する教育効果を有すると認められるものをいう。

- (1) 同時かつ双方向に行われるものであって、かつ、当該授業を行う教室等以外の教室、研究室又はこれらに準ずる場所（以下「教室等以外の場所」という。）において履修させるもの（同時双方向型）
- (2) 毎回の授業の実施に当たって、指導補助者が教室等以外の場所において学生等に対面することにより、又は当該授業を行う教員若しくは指導補助者が当該授業の終了後すみやかにインターネットその他の適切な方法を利用することにより、設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を併せ行うものであって、かつ、当該授業に関する学生等の意見の交換の機会が確保されているもの（オンデマンド型）

2 この要項において、「遠隔授業科目」とは、前項に規定する遠隔授業が全開講回数の半数以上となる授業科目をいう。

(遠隔授業実施における遵守事項)

第3条 遠隔授業の実施においては、次に掲げる事項について遵守することとする。

- (1) 学生の本人確認を行い、その履修状態を把握すること。
- (2) 成績評価において、学修の成果を適正に把握すること。
- (3) 授業コンテンツの作成にあたり他人の著作物を利用する場合は、著作権者から許諾を得る等、著作権法に基づき適切に対応すること。
- (4) 授業形態、各回の授業計画、担当教員との交流方法等の詳細について、当該授業科目のシラバスに明記する等、学生に事前に周知すること。

2 前項に規定するもののほか、前条第1項第1号に規定する遠隔授業の実施については、次の事項を遵守するものとする。

- (1) 同時かつ双方向で行うこと。
- (2) 教員と学生が、互いに映像・音声等によりやりとりを行い、また、学生が教員に質問をする機会を確保するなど、対面授業に近い環境で行うこと。

3 第1項に規定するもののほか、前条第1項第2号に規定する遠隔授業の実施については、次の事項を遵守するものとする。

- (1) 設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を、毎回の授業の実施に併せ行うこと。
- (2) 学習管理システム等に掲示板を設け、学生がこれに書き込めるようにするなど、当該授業に関する学生の意見交換や教員に対する質問の機会を確保すること。

(遠隔授業科目開講部局等の手続き)

第4条 本学の学士課程において遠隔授業科目を開講する場合は、授業科目担当教員から事前に当該授業科目を開講する部局の長に別紙様式により申請し、承認を得るものとする。

- 2 各学部、学環及び教養教育センターは、前項により承認する遠隔授業科目の単位数の合計が、学則第35条第3項に定める単位数を超えないよう管理するものとする。
- 3 前項の規定に関わらず、感染症や災害の発生等の非常時においては、当該感染症や災害等の状況に応じて、本来授業計画において対面授業の実施を予定していた授業科目に係る授業の全部又は一部を対面授業により予定通り実施することが困難な場合において、遠隔授業を行うことができるものとし、それらは遠隔授業科目の単位数の合計に含めず、申請も不要とする。

(雑則)

第5条 この要項に定めるもののほか、多様なメディアを高度に利用して行う授業に関して必要な事項は、佐賀大学教育委員会の議を経て、委員長が定める。

附 則

この要項は、令和4年1月31日から実施し、令和4年度開講科目より適用する。

附 則（令和7年3月27日改正）

この要項は、令和7年4月1日から実施する。

附 則（令和7年4月9日改正）

この要項は、令和7年4月9日から実施し、令和7年4月1日から適用する。

附 則（令和8年3月25日改正）

この要項は、令和8年4月1日から実施する。

別紙様式（第4条関係）

別紙様式（第4条関係）(PDF)

2027年度
(令和9年度)

佐 賀 大 学 入 学 者 選 拔 要 項

佐 賀 大 学

目 次

I	2027（令和9）年度佐賀大学入学者選抜方法等の主な変更点	2
II	入 試 日 程	3
III	入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	4
IV	募 集 人 員	25
V	出 願 資 格	26
VI	選 抜 方 法	27
	一般選抜	
1	2027年度一般選抜実施教科・科目	30
2	英語外部検定試験の一般選抜での利用について	32
3	特色加点制度について	34
4	2027年度個別テスト等の出題範囲及び試験方法について	34
5	芸術地域デザイン学部芸術表現コース実技検査の選択方法について	35
6	2027年度大学入学共通テストの科目選択及び得点の取扱い等について	35
	特別選抜	
1	2027年度学校推薦型選抜Ⅰ出願資格・選抜方法	38
2	2027年度学校推薦型選抜Ⅱ出願資格・選抜方法	44
3	2027年度佐賀県推薦入学特別選抜出願資格・選抜方法	44
4	2027年度総合型選抜Ⅰ出願資格・選抜方法	46
5	2027年度総合型選抜Ⅱ出願資格・選抜方法	50
6	2027年度帰国生徒選抜，社会人選抜出願資格・選抜方法	54
7	2027年度学校推薦型選抜Ⅰ，総合型選抜Ⅰの配点について	56
VII	私費外国人留学生入試	57
VIII	合格者を対象とした入学前教育の実施について	59
IX	障がい等のある志願者との事前相談について	59
X	インターネット出願について	60

経済学部改組予定について

佐賀大学は令和9年4月に以下のとおり経済学部の改組を予定しております。計画は、文部科学省へ設置報告書を提出し、その届出が受理されて確定するものであり、変更があり得ます。

1. 改組計画

経済学部 改組前		⇒	経済学部 改組後	
経済学科	100名		経済学科	230名
経営学科	70名			
経済法学科	60名			
計	230名			

2. 概要

経済学部では、経済・経営・法理論を基礎に社会科学の思考法とデータサイエンス力を習得し、デジタル社会に対応した人材育成を実現するため、これまでの「経済学科」「経営学科」「経済法学科」の3学科を統合し、経済学科1学科とします。

1年次には、経済・経営・法の3分野の基礎、並びに、データサイエンスとコミュニケーションのスキルを必修科目として幅広く学び、社会を多面的に捉える視点とスキルを養います。

2年次以降は、5つの専門ユニット（デジタル、政策、エリア、マーケティング、会計・ファイナンス）を選択し、興味や将来の進路に応じて学びを深化させます。ユニット制を通じ、経済学と経営学と法学を組み合わせるなど、従来の学科の枠組みを超えた専門性の形成が可能となります。

また、行政や企業と連携した「社会課題演習」「プロジェクトマネジメント演習」「フィールド演習」を重視し、理論と実践を繰り返すことで、社会の課題を「解像度」高く複眼的に捉え、解決へと導く「プロジェクトマネジメント人材（ブリッジ人材）」を育成します。

I 2027(令和9)年度佐賀大学入学者選抜方法等の主な変更点

1 教育組織の見直し及びそれに伴う入学定員・募集人員の変更（変更箇所下線）

変更事項	2026年度	2027年度	該当ページ
教育学部（前期日程）、農学部（前期日程、後期日程）、コスメティックサイエンス学環（後期日程）における数学の出題範囲について	数学Ⅰ、数学Ⅱは全範囲 数学Aは「図形の性質」「場合の数と確率」 数学Bは「数列」 数学Cは「ベクトル」	数学Ⅰ、数学Ⅱは全範囲 数学Aは「図形の性質」「場合の数と確率」及び「数学と人間の活動（整数の性質に関する部分）」 数学Bは「数列」 数学Cは「ベクトル」	P.34
医学部医学科（前期日程、帰国生徒選抜、私費外国人留学生入試）、理工学部（前期日程、後期日程）における数学の出題範囲について	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲは全範囲 数学Aは「図形の性質」「場合の数と確率」 数学Bは「数列」 数学Cは「ベクトル」「平面上の曲線と複素数平面」	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲは全範囲 数学Aは「図形の性質」「場合の数と確率」及び「数学と人間の活動（整数の性質に関する部分）」 数学Bは「数列」 数学Cは「ベクトル」「平面上の曲線と複素数平面」	P.34
教育学部共同教員養成課程小中連携教育コース英語分野（総合型選抜Ⅰ）の英語外部検定試験について	実用英語技能検定（2級以上）（2050～）、TEAP（220～）、GTEC（4技能）（900～）、TOEFL iBT（45～）取得者はリーディングを満点扱いとする。有効となる検定試験は、 <u>2024年4月1日</u> 以降に受験した検定試験に限る。 ※2026年度のみの取扱いとなります。	実用英語技能検定（2級以上）（2050～）、TEAP（220～）、GTEC（4技能）（900～）、TOEFL iBT（45～）のいずれかの取得を <u>出願要件とする</u> 。有効となる検定試験は、 <u>2025年4月1日</u> 以降に受験した検定試験に限る。	P.46, 47
芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科芸術表現コース（前期日程「3科目型」及び後期日程）実技検査（描写表現）の変更について	1）木炭による石膏デッサン 2）鉛筆による石膏デッサン 3）水彩による静物着色	1）木炭による <u>素描</u> 2）鉛筆による <u>素描</u> 3）水彩による静物着色	P.35
経済学部の学科変更及び募集人員の変更について	【<u>経済学科</u>】 （入学定員）：<u>100</u> （募集人員）：前期日程：<u>65</u> 後期日程：<u>15</u> ：学校推薦型選抜Ⅰ（普通系）：<u>10</u> ：学校推薦型選抜Ⅰ（商業系）：<u>10</u> 【<u>経営学科</u>】 （入学定員）：<u>70</u> （募集人員）：前期日程：<u>25</u> 後期日程：<u>15</u> ：学校推薦型選抜Ⅰ（普通系）：<u>10</u> ：学校推薦型選抜Ⅰ（商業系）：<u>20</u> 【<u>経済法学科</u>】 （入学定員）：<u>60</u> （募集人員）：前期日程：<u>30</u> 後期日程：<u>20</u> ：学校推薦型選抜Ⅰ（普通系）：<u>10</u> ：学校推薦型選抜Ⅰ（商業系）：<u>0</u>	【<u>経済学科</u>】 （入学定員）：<u>230</u> （募集人員）：前期日程：<u>110</u> 後期日程：<u>25</u> ：学校推薦型選抜Ⅰ（普通系）：<u>35</u> ：学校推薦型選抜Ⅰ（商業系）：<u>35</u> ：総合型選抜Ⅱ：<u>25</u>	P.25, 30, 38, 50
経済学部（前期日程）科目及び配点の変更について	大学入学共通テスト 外国語（ <u>200点</u> ） 国語（ <u>200点</u> ） 数学（ <u>200点</u> ） 地理歴史、公民（ <u>100点</u> ） 【 <u>新規追加</u> 】 情報（ <u>30点</u> ） 計（ <u>730点</u> ） 個別試験 外国語（ <u>100点</u> ） 合計（ <u>830点</u> ）	大学入学共通テスト 外国語（ <u>100点</u> ） 国語（ <u>100点</u> ） 数学（ <u>100点</u> ） 地理歴史、公民（ <u>50点</u> ） 理科（ <u>25点</u> ） 情報（ <u>25点</u> ） 計（ <u>400点</u> ） 個別試験 外国語（ <u>200点</u> ） 合計（ <u>600点</u> ）	P.30
経済学部（総合型選抜Ⅱ）科目及び配点について	新規追加	大学入学共通テスト 外国語（ <u>200点</u> ） 国語（ <u>200点</u> ） 数学（ <u>200点</u> ） 地理歴史、公民、理科、情報から1科目（ <u>100点</u> ）（高得点採用） 書類審査（ <u>30点</u> ） 計（ <u>730点</u> ）	P.50, 51
理工学部理工学科（総合型選抜Ⅱ）の大学入学共通テストにおける理科指定科目の変更について	【 <u>化学分野</u> 】 「理科」4科目（物理、化学、生物、地学） から2科目選択	【 <u>化学分野</u> 】 「理科」4科目（物理、化学、生物、地学） から2科目選択（ <u>ただし化学は必須</u> ）	P.53

Ⅱ 入試日程

選抜種別	学 部 ・ 学 環	募集要項 公表時期	インターネット 事前登録開始日※ 1	出 願 書 類 提 出 期 間	試 験 日	合格者発表日	入 学 手 続 期 間
一般選抜	前期日程 教育学部 芸術地域デザイン学部 経済学部 理工学部 農学部 コスメティックサイエンス学環	12月上旬	2027年 1 月18日(月)	2027年 1 月25日(月) ～ 2027年 2 月 3 日(水)	2027年 2 月25日(木)	2027年 3 月 6 日(土)	2027年 3 月 7 日(日) ～ 2027年 3 月15日(月)
	医学部				2027年 2 月25日(木) 2027年 2 月26日(金)		
後期日程	教育学部 芸術地域デザイン学部 経済学部 医学部看護学科 理工学部 農学部 コスメティックサイエンス学環				2027年 3 月12日(金)	2027年 3 月20日(土)	2027年 3 月21日(日) ～ 2027年 3 月27日(土)
特別選抜	学校推薦型選抜Ⅰ 経済学部 理工学部 農学部	9 月中旬 ※ 2	2026年10月25日(日)	2026年11月 1 日(日) ～ 2026年11月 6 日(金)	2026年11月27日(金)	2026年 12月 7 日(月)	2027年 1 月18日(月) ～ 2027年 1 月21日(木)
	教育学部 芸術地域デザイン学部 医学部看護学科				2026年11月28日(土)		
	学校推薦型選抜Ⅱ 医学部医学科 (一般枠・佐賀県枠)	9 月中旬 ※ 2	2026年10月25日(日)	2026年11月 1 日(日) ～ 2026年11月 6 日(金)	2026年11月28日(土)	2027年 2 月 9 日(火)	2027年 2 月11日(木) ～ 2027年 2 月17日(水)
	医学部医学科 (右記出願期間はあらかじめ行われる佐賀県の選抜を経た上での出願期間です。)						
	佐賀県推薦入学		2026年11月 4 日(水)	2026年11月11日(水) ～ 2026年11月16日(月)			
	総合型選抜Ⅰ 教育学部 芸術地域デザイン学部	8 月上旬	2026年 9 月 3 日(木)	2026年 9 月10日(木) ～ 2026年 9 月17日(木)	2026年10月 9 日(金) 2026年10月10日(土)	2026年 11月 2 日(月)	2026年11月13日(金) ～ 2026年11月17日(火)
	理工学部	9 月中旬	2026年10月25日(日)	2026年11月 1 日(日) ～ 2026年11月 6 日(金)	2026年11月28日(土)	2026年 12月 7 日(月)	2027年 1 月18日(月) ～ 2027年 1 月21日(木)
	総合型選抜Ⅱ 教育学部 経済学部 理工学部 農学部 コスメティックサイエンス学環	9 月中旬	2027年 1 月12日(火)	2027年 1 月18日(月) ～ 2027年 1 月28日(木)	—	2027年 2 月 9 日(火)	2027年 2 月11日(木) ～ 2027年 2 月17日(水)
	帰国生徒 理工学部 農学部	9 月中旬	2026年10月25日(日)	2026年11月 1 日(日) ～ 2026年11月 6 日(金)	2026年11月27日(金)	2026年 12月 7 日(月)	2027年 1 月18日(月) ～ 2027年 1 月21日(木)
	医学部医学科				2027年 2 月25日(木) 2027年 2 月26日(金)	2027年 3 月 8 日(月)	2027年 3 月10日(水) ～ 2027年 3 月15日(月)
社会人	医学部看護学科				2026年11月28日(土)	2026年 12月 7 日(月)	2027年 1 月18日(月) ～ 2027年 1 月21日(木)
私費外国人入試	教育学部 芸術地域デザイン学部 経済学部 理工学部 農学部	9 月中旬	2026年11月 4 日(水)	2026年11月11日(水) ～ 2026年11月18日(水)	2027年 2 月26日(金)	2027年 3 月 8 日(月)	2027年 3 月10日(水) ～ 2027年 3 月15日(月)
	医学部医学科				2027年 2 月25日(木) 2027年 2 月26日(金)		

※ 1 出願情報の登録は「インターネット事前登録開始日」からできますが、出願書類提出期間内に、出願書類を提出する必要がありますので、それに間に合うように出願登録・検定料の支払いを行ってください。

※ 2 佐賀県推薦入学特別選抜（佐賀県による第一次選考）の学生募集要項は、佐賀大学及び佐賀県健康福祉部医務課医療人材政策室において配布します。

お問い合わせ先 佐賀県健康福祉部医務課医療人材政策室

〒840-8570 佐賀市城内 1 - 1 - 59 TEL 0952-25-7358 <https://www.pref.saga.lg.jp/>

Ⅲ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は、学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として、人格形成、専門知識・技術の修得、そして基礎から実用開発にいたるまで、能力を最大限に伸ばすことを目標に人材育成と研究活動を展開します。

佐賀大学の教育目標は、高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること、地域文化を理解し地域に根ざした活動を行うための素養を持たせること、国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。

佐賀大学は、チャレンジ精神を持ち、問題を自発的に探求・解明し、社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めています。

教育学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

教育学部は、幼児・児童・生徒の心身の発達を長期的・連続的かつ多面的・多角的な視点で見据えながら、広い視野と深い教養及び基礎的・専門的な知識・技術を修得することで、現代社会の変化に伴う様々な教育課題や幅広い地域教育課題に応えることができる、人間性豊かで高度な実践力をもった教員の養成を目的としています。そのため、以下に示すような人を広く求めます。

- (1)現代社会の幅広い分野の諸問題に興味・関心をもつとともに教員を目指す強い意志と情熱をもち、子どもの教育と社会的活動に関わる問題解決に意欲的に取り組む人。
- (2)高等学校までの教科等の学習に基づく幅広い基礎的学力や技能を備え、専門職としての教員に必要な知識・技能の修得に積極的に取り組む人。
- (3)主体的な行動力や他者との基本的なコミュニケーション能力をもち、多様な人々と協働して学ぼうとする人。

また、本学部のカリキュラムに適応するのに必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	自然科学と技術の分野、文化の分野及び現代社会の分野に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門教育科目	●グローバル人材を育成する教員に必要な英語コミュニケーションに関する科目を学ぶため、英語に関する基本的な能力と学習力が必要です。 ●教育実習のように、実際の教育現場における学習活動を行うため、主体的な行動力や他者との基本的なコミュニケーション能力が必要です。 ●教育学の基礎的な知識・理論、各教科の教育内容やその学習指導方法、障害のある幼児・児童・生徒に対する教育、並びに幼児教育・小学校教育・中学校教育の各教育段階のあいだの円滑な接続や連携に関わる科目を学ぶために、高等学校までに学ぶ幅広い教科・科目の知識と技能が必要です。 ●教育のプロフェッショナルとして課題を発見し、それらを解決する能力を身につけるため、高等学校までに修得した知識・技能を活用して問題解決に繋げることができる思考力・判断力・表現力が必要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

小中連携教育コース

文系、理系に偏らず、高等学校で履修する全ての教科・科目について、基礎的な知識を幅広く学習し、自分の考えを分かり易く文章や口頭で表現できることが必要です。なお、技能が重要視される教科については、基礎的な技量をあわせて修得しておくことが求められます。将来、小学校や中学校などの教師として活躍するためには、初等教育や中等教育をめぐる諸問題に対して幅広い視野と強い関心を持ち、読書などを通して自分自身で考えておくことが必要です。大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、教育に関わる何らかの実践を経験できる機会があれば、積極的に挑戦することを期待します。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本コースの教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

教育支援探究コース

高等学校で履修する全ての教科・科目について、基礎的な知識を幅広く学習し、自分の考えを分かり易く文章や口頭で表現できることが必要です。将来、教師として活躍するためには、教職についての意欲と関心を培い、幼児教育や初等教育、特別支援教育をめぐる諸問題に対して強い関心を持つことが必要です。大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、将来教師になるにあたって糧となるような何らかの実践を経験できる機会があれば、積極的に挑戦することを期待します。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本コースの教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

教育学部では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、高等学校までの学習に基づく基礎的な学力や技能に加え、子どもの教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力、コミュニケーション能力を重視しています。

上記のような学生を選抜するための基本方針として、入学志願者の基本的人権を尊重し、公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして、本学部では、以下の各選抜方法によって、大学入学後の学修に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し、合格者を決定します。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「学校推薦型選抜」「総合型選抜」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■小中連携教育コース

- ① 高等学校で修得すべき幅広い知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 専門分野の内容を深く理解するために必要な数学あるいは国語に関する知識・技能と、これらを踏まえた思考力・判断力・表現力
- ④ 専門分野に関する文献や資料等の読解力と理解力及び自らの考えを論理的にまとめる表現力
- ⑤ 英語、理数、音楽、保健体育、家庭、技術のいずれかの分野に関する高い意欲・関心と、その分野に関する特に優れた知識と技能
- ⑥ 教師を目指そうとする意思
- ⑦ 将来、小・中学校教員としての活躍を期待できる十分な意欲と姿勢
- ⑧ 将来、佐賀県下の小学校教員としての活躍を期待できる十分な意欲と姿勢
- ⑨ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
学力3要素との対応		「知識・技能」		「思考力等」		3要素全て	「主体性等」			
選抜方法	前期日程	共通テスト	70	○	○	○				
		個別テスト等	○	15	15					
		特色加点								☆
	後期日程	共通テスト	70	○	○	○				
		個別テスト等	○	15	15					
		特色加点								☆
	学校推薦型選抜Ⅰ（佐賀県枠）	基礎学力試験	○	40						
		小論文	○			20				
		面接							30	
		推薦書								
		志望理由書							10	
		調査書	◎							
	総合型選抜Ⅰ	適性検査	○				36			
		活動実績報告書								
		小論文	○			18				
		面接					28			
		志願理由書								
		調査書	○				18			
	総合型選抜Ⅱ（小学校教育主免専攻）	共通テスト	91	○	○	○	○	(9)		
		志望理由書						(9)		
		活動実績報告書					(9)			(9)
		調査書	○				○			
	総合型選抜Ⅱ（中学校教育主免専攻）	共通テスト	93	○	○	○	○	(7)		
		志望理由書					(7)	(7)		
		活動実績報告書					(7)			(7)
		調査書	○				○			

- i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよそ各配点のウエイト[%]）
 ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（合否、ABCなど）
 iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの
 iv. ☆は、加点評価

■教育支援探究コース

- ① 高等学校で修得すべき幅広い知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 専門分野の内容を深く理解するために必要な数学あるいは国語に関する知識・技能と、これらを踏まえた思考力・判断力・表現力
- ④ 専門分野に関する文献や資料等の読解力と理解力及び自らの考えを論理的にまとめる表現力
- ⑤ 特別支援教育の分野に関する学習意欲
- ⑥ 教師を目指そうとする意思
- ⑦ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」		
選抜方法	前期日程	共通テスト	70	○	○	○			
		個別テスト等	○	15	15				
		特色加点							☆
	後期日程	共通テスト	70	○	○	○			
		個別テスト等	○	15		15			
		特色加点							☆
	学校推薦型選抜Ⅰ	基礎学力試験	○	25					
		小論文	○			25			
		面接					25		
		推薦書					25		
		調査書	◎						

- i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）
 ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（可否、ABC など）
 iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの
 iv. ☆は、加点評価

芸術地域デザイン学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

芸術地域デザイン学部は、創造性や高い技能をもち、新しい芸術表現を実現できる人材、また、地域が有する問題や状況に芸術を手段として柔軟に対応し、芸術を社会に紹介したり、芸術で社会を活性化したりできる人材の養成を目的とします。各コースの教育目的、カリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等、そして入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

芸術表現コース

現代の様々な問題に主体的かつ積極的に取り組み、芸術を自ら創造・表現し、美術・工芸や有田セラムの専門的知識を修得するとともに、芸術を多面的・総合的に学ぶことで社会の中で自らの活動をマネジメントできる能力を身につけることにより、地域創生に貢献する人材を養成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部共通科目	芸術表現、地域デザインの両分野で共通的に身に付けるべき知識や技能、考え方などを授業や演習、フィールドワークを通じて修得するために、高等学校までに修得すべき幅広い教科・科目の知識と技能とともに、主体的な行動力と他者との基本的なコミュニケーション能力は不可欠です。なお、芸術表現の技能や巧拙は、共通科目を履修する上で前提とはなりませんが、芸術表現や地域デザインの両分野に対する興味・関心を有していることは必要です。

専門科目	独自の芸術表現とそれを支える技術、芸術の歴史や素材・技法に関する知識、経営的な視点を持ち、芸術を多面的・総合的に捉える能力を修得するために、高等学校で習得すべき基礎的学力とともに芸術についての知識、また、自らの手による描写力、発想力など芸術表現に関わる基本的な技能が不可欠です。
卒業研究	学生各自が設定した課題を最終学年の1年間をかけて掘り下げることで、論文あるいは作品として仕上げることを求めるため、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。また、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論や活動へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、制作活動等を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

芸術表現コースで学ぶにあたって大きく3つの事を意識してください。1つ目は「活力」です。芸術が果たしてきた役割を学びつつ、これからの社会とどのようにつながることが出来るかを想像してください。主体的な自己が生まれ、同時に活力を生み出す事が出来ます。2つ目は「理知」です。身の回りの現実にかかる出来事に興味を持ち、気になる事に少し立ち止まりながら知識を深めてください。様々な分野の事が複雑に関係している世界の様々な兆候を見逃さない感性が育まれ、理知へと発展します。3つ目は「発信」です。自分の好きなものや気になることを誰かに積極的に伝えてください。それは活力と理知を伴って社会への発信へ変わります。これらの事を入学前から意識することで、より有意義な大学生活が送れるはずです。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

地域デザインコース

地域資源をデザインの手法を使ってコンテンツ化し、地域創生に貢献できる人材、キュレーター(学芸員)やアートコーディネーターとして国内・海外の文化芸術振興に寄与できる人材、また、まちづくり、地域創生等のコーディネーターやリーダーとして地域社会に貢献できる人材を養成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部共通科目	芸術表現、地域デザインの両分野で共通的に身に付けるべき知識や技能、考え方などを授業や演習、フィールドワークを通じて修得するために、高等学校までに修得すべき幅広い教科・科目の知識と技能とともに、主体的な行動力と他者との基本的なコミュニケーション能力は不可欠です。なお、芸術表現の技能や巧拙は、共通科目を履修する上で前提とはなりませんが、芸術表現や地域デザインの両分野に対する興味・関心を有していることは必要です。
専門科目	地域デザインの理論と実践力、芸術の歴史や素材・技法に関する知識、経営的な視点から芸術を多面的・総合的に捉える能力について、授業や演習、フィールドワークを通じて修得するために、高等学校で習得すべき幅広い教科・科目の基礎的学力とともに、地域社会が抱える問題についての基礎的な知識、様々な資料や情報を読み解くための基礎的な読解力、論理的思考力、分析力、考察力に加え、自分の考えを発信する表現力、企画力、発想力等が必要です。
卒業研究	学生各自が設定した課題を最終学年の1年間をかけて掘り下げることで、論文あるいは作品として仕上げることを求めるため、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。また、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論や活動へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、制作活動等を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

地域デザインコースで問われるのは、芸術表現の技能・巧拙ではありません。地域デザインコースにおける4年間の教育課程を確実に修得するためには、高等学校で履修する教科・科目を広く学んでおくことが重要です。特に、国語、英語の基礎的な学力を有していることが求められます。これらの幅広い基礎的な学力をもとに、自分の考えを分かり易く、文章や絵、図表などを多角的に組み合わせることで口頭で表現できる企画力、発想力、表現力が必要です。将来、国内・海外の文化芸術振興、あるいはまちづくり、地域創生等に貢献できる人材となるためには、地域社会にとどまらない幅広い視野と強い関心を持つことも重要です。読書などを通して知識教養を深めるとともに、大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、地域や社会全般に関わる何らかの実践を経験できる機会があれば、積極的に挑戦することを期待します。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し、公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして、以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し、合格者を決定します。

本学部で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■芸術表現コース

- ① 高等学校で修得すべき基礎的な教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 芸術に関する知識及び自らの手による描写力、発想力など芸術表現に関わる基本的な技能
- ③ 芸術表現を学ぶために必要な分析力、考察力、表現力及び企画力を含む発想力
- ④ 芸術表現に取り組む主体性と行動力
- ⑤ 芸術表現に関する継続的な学習や自主的な芸術表現活動に向けた意欲や姿勢
- ⑥ 芸術表現の分野における優れた経験や実績

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」			「主体性等」		
選抜方法	前期日程	共通テスト	50					
		個別テスト等		50	○		○	
	後期日程	共通テスト	60					
		個別テスト等		40	○		○	
	学校推薦型選抜Ⅰ	実技検査		37.5	○			
		面接		(25)		○	(25)	
		ポートフォリオ 調査書 推薦書	(37.5)	(37.5)	(37.5)	(37.5)	(37.5)	(37.5)
	総合型選抜Ⅰ (美術・工芸分野)	適性検査		○	25			
		面接		(37.5)		○	(37.5)	
		ポートフォリオ 志願理由書 調査書	(37.5)	(37.5)	(37.5)	(37.5)	(37.5)	(37.5)
	総合型選抜Ⅰ (有田セラミック 分野)	適性検査		○	50			
		面接		(25)		○	(25)	
		ポートフォリオ 志願理由書 調査書	(25)	(25)	(25)	(25)	(25)	(25)

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）

ii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

■地域デザインコース

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 専門分野の内容を学習するために必要な読解力、論理的思考力、分析力、考察力
- ④ 地域社会が抱える問題に関心があり、芸術を通じて地域社会を機能的に繋げていける企画力、発想力、表現力
- ⑤ 主体的にものごとに取り組むことができる積極的な行動力
- ⑥ 継続的に地域の文化芸術活動に参画する意欲と態度
- ⑦ 高等学校入学以降あるいは中学校卒業以降の主体的な実績・活動
- ⑧ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
学力 3 要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」			
選抜 方法	前期日程	共通テスト	64							
		個別テスト等		36						
		特色加点								☆
	後期日程	共通テスト	67							
		個別テスト等		11	22					
		特色加点								☆
	総合型選抜Ⅰ	適性検査	○		50					
		小論文	○		30					
		面接					20			
		志願理由書					◎			
		調査書	◎				◎			
		活動実績報告書（加点式）				☆	☆		☆	

- i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）
ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（可否、ABC など）
iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの
iv. ☆は、加点評価

経済学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

社会課題の解決に向け、データサイエンスを駆使し、戦略・政策を立案・実行できるプロジェクトマネジメントが必要になっています。経済学部では、課題発見・仮説設定・データ分析の枠組の構築ができるプロジェクトマネジメント能力を涵養します。そのために、経済学・経営学・法学の社会科学の理論、知識、教養からなる基礎学力とデータサイエンス基礎力を授け、社会課題に解像度高く複眼的に対応できる人材を育成することを教育の目的とします。その目的を達するためのカリキュラム編成、並びにそのために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	文化・自然、現代社会と生活だけでなく、社会科学系以外の分野に関する幅広い知識を修得するために、高等学校で履修する幅広い教科や科目の知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	大学での「学び」と現代社会との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に進めていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部専門科目	経済学・経営学・法学の分野を総合的に学ぶとともに、データサイエンス基礎力に裏打ちされたプロジェクトマネジメント能力によって、社会課題を発見し、入学後に選択する各ユニットに関する必要な専門知識・技能を習得・活用し、各自が設定した社会課題に解像度高く複眼的に対応できる能力を修得するために、高等学校で履修する国語、数学、英語、理科、社会（地理、歴史、公民）、情報といった幅広い教科・科目の基礎的理解だけでなく、資料、情報、データを読み解く力、自分の考えを論理的に展開し表現する力が不可欠です。また、専門分野での情報収集・データ分析・コミュニケーション能力を高めるための外国語科目を配置しているため、英文の資料を理解するための基本的な英語の学習力が必要です。さらに、少人数による演習を1年次から行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることも重要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取組〉

経済や社会で生起している問題を理解するためには幅広い基礎知識が必要です。さまざまな知識や情報をもとに自分なりの考えをまとめるためには、文章の読解力だけでなく、論理的に展開し記述する国語力が求められます。経済学や統計学、会計学を含むデータ分析には、数学的・統計学的な思考が必要な分野も含まれます。したがって、高等学校の教科書レベルの数学や情報学、理科の知識を十分に習得していることが重要です。専門高等学校から進学する場合には、普通科の科目だけでなく、商業科目等の基本的な知識と技能を習得しておくことが求められます。国際性が求められる現代においては、英語を中心とした外国語だけでなく、地理や歴史などの幅広い知識が国際経済や国際政治などの理解を深めるために必要です。社会問題への関心と情報収集能力も必要です。経済や経営、法律に関連する社会現象に目を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは、入学後の学修にとって有益です。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し、公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして、以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し、合格者を決定します。

本学部で実施する選抜方法の目的と概要は以下のとおりです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「学校推薦型選抜Ⅰ」「総合型選抜Ⅱ」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 専門分野の内容を学習するために必要な読解力、論理的思考力、分析力、考察力
- ④ 経済学部で学ぶために必要な基礎的な学力・学習力
- ⑤ 社会科学の思考プロセスをもとに、データサイエンスを駆使しながら、入学後に選択する各ユニットに関する専門科目に関心があり、主体的に学び続けようとする意欲と態度
- ⑥ 高等学校入学以降の主体的な実績・活動
- ⑦ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」		
選抜方法	前期日程	共通テスト	67						
		個別テスト等	○	33					
		特色加点							☆
	後期日程	共通テスト	88						
		個別テスト等	○		12				
		特色加点							☆
	学校推薦型選抜Ⅰ	小論文	○		83				
		面接					◎		
		志望理由書					◎		
		推薦書	○				◎		
		調査書	○						
		基礎学力・学習力テスト				17			
		活動実績報告書（加点式）						☆	
	総合型選抜Ⅱ	共通テスト	96						
		活動実績報告書						4	
		調査書	○						

- i 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）
 ii ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（可否、ABC など）
 iii ○は、間接的に評価、又は内容を確認するもの
 iv ☆は、加点評価

医学部

求める学生像

医学科

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

革新の系譜を継ぎ、医学・医療の未来を拓く

佐賀大学医学部医学科は、日本の医療の近代化をリードした佐賀藩、医学教育の刷新の旗手であった佐賀医科大学の革新の精神を継承し、多様化する社会の要請に応える優れた医療人と研究者を育成することによって、医療の質向上と医学の発展を先導することを目指しています。

そのために、以下に示すような資質を持つ学生を求めています。

- ① 医療や研究を通じて社会に貢献し、医学の発展に寄与する志
- ② 病む人に寄り添い、傾聴し共感する姿勢
- ③ 倫理観と責任感を基盤とした論理的な判断力と行動力
- ④ 専門分野の学修に不可欠な幅広い基礎学力
- ⑤ 主体的かつ協働的に学びを深める姿勢
- ⑥ 自らの考えを的確に表現し、助言や批判を柔軟に受け入れる姿勢
- ⑦ 医療や研究の国際的な動向を踏まえて学びを更新し続ける姿勢

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み】

医学は生命科学を中心に、自然科学の諸分野と人文・社会科学が密接に関わる学問です。そのため、高等学校では科目を偏ることなく幅広く履修し、基礎学力をしっかりと身につけてください。生物・化学・物理・数学の基本事項を十分に理解し、それに基づいて論理的に考える力を養うことが重要です。また、医師の社会的役割を自覚し、病む人の立場に立って考えるためには、国語や社会の力が不可欠です。世界の最新の医療情報を学び、情報を発信するためには、英語の学習は必須です。

本学科は、基礎知識の学習を、事例検討、基礎実験、臨床技能訓練、臨床実習と連動させたアクティブラーニング形式で行っています。このような学習を効果的に行うためには、コミュニケーション能力と協調性が求められます。

また、医療や医学を取り巻く社会に関心を持ち、読書やボランティア活動、医療現場に関わる先輩との交流などを通じて、自らの果たすべき役割を主体的に考える姿勢を持つことが望まれます。加えて、技術の向上や未知の問題解決には継続的な努力が不可欠です。日々の生活はもちろん、部活動や課題研究に積極的に取り組み、試行錯誤を重ねる経験を通じて、自らを見つめ、成長しようとする姿勢を身につけてください。

本学は、このような資質を備えた学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し、公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして、以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し、合格者を決定します。本学部で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」により、入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「学校推薦型選抜」、「佐賀県推薦」、「帰国生徒」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

- ① 幅広い基礎学力
- ② 論理的思考力
- ③ 表現力とコミュニケーション力
- ④ 主体性と協働性
- ⑤ 倫理観
- ⑥ 省察と改善を重ねる姿勢
- ⑦ 医学・医療への志

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」			「主体性等」			
選 抜 方 法	前期日程	共通テスト（68％）	○	○					
		個別テスト（26％）	○	○	○				
		面接（6％）			○	○	○	○	○
		調査書	○			○	○	○	○
	学校推薦型選抜Ⅱ	共通テスト（75％）	○	○					
		小論文（16％）		○	○		○		○
		面接（9％）			○	○	○	○	○
		調査書・推薦書	○			○	○	○	○
		自己推薦書			○	○			○
		志願理由書（佐賀県枠のみ）			○	○			○
	佐賀県推薦	共通テスト（75％）	○	○					
		小論文（16％）		○	○		○		○
		面接（9％）			○	○	○	○	○
		所信書				○			○
		調査書	○			○	○	○	○
	帰国生徒	学力検査（67％）	○	○	○				
		面接（33％）			○	○	○	○	○
		提出書類	○			○	○	○	○

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）

求める学生像

看護学科

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

高い倫理観に基づき健康についての問題を包括的にとらえ、柔軟に解決する実践能力を持った看護職者を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 人間に関心を持ち、人々の健康と福祉に貢献したいと願う人
- ② 豊かな感性と表現力を身につけている人
- ③ 相手の立場に立って、柔軟に物事を考えられる人
- ④ 看護職に夢を持ち、理想とする看護職者を目指そうとする人
- ⑤ 幅広い基礎学力と論理的な思考力を備えている人
- ⑥ 生涯を通して、看護学や医療について勉学する意欲のある人

看護学科のカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門基礎科目	看護学に必要な基礎的な知識として人体の構造と機能及び病態・疾病と治療を学ぶ授業科目と、関連領域の基礎的理解（看護倫理、栄養学など）や看護の道を進むための基本となる姿勢や学習方法を学ぶ授業科目（キャリアデザイン）で構成されるため、高等学校で履修する数学、理科に関する基礎的理解と応用力に加え、他の教科・科目に関する幅広い知識と技能が不可欠です。
看護専門科目	看護についての専門的な知識・技能に関する総合的な内容を系統的に学修する授業科目で構成し、知識の修得とともに、自己学習の習慣を身につけ、科学的論理的思考に基づいた問題解決に努めることを目標として実践演習型学習や少人数グループ学習を取り入れ実施するため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることが不可欠です。
臨地実習	看護学の知識・技術ならびに看護職者としての実践能力を修得するとともに、地域社会に要請されている医療における看護の意義を理解し、看護職者の責務への自覚を培うキャリア教育の場として、チーム医療の一員として他者と共感して良い人間関係を作る実践の場として、医学部附属病院と地域の医療機関との連携の下に実施するため、学んだことを実践に生かす能力や姿勢とともに、協調性やコミュニケーションを通じてチーム医療の一員として学習できる態度、姿勢および行動力を持っていることが必要です。

【入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み】

看護学は、健康な人から病をもつ人まで様々な健康レベルの人々を対象とした実践科学です。人間は身体的・精神的・社会的存在で、環境と相互作用しながら健康を維持しています。健康には、自然・人文・社会科学的要素が深く関わっているため、看護学の学習のためには、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく、幅広く習得しておく必要があります。看護実践の基礎となる、看護の知識と専門的技術の修得には、特に、生物・化学・物理・数学の基本的事項を理解し、論理的な思考ができるようにしておく必要があります。また、看護は人間関係を通して実施されるため、文章による意思の疎通に必要な国語力や自己・他者間の理解を共有するためのコミュニケーション能力を獲得していることも重要です。大学での学習は、看護の生涯学習の基盤となるため、国内外の社会に目を向け、読書やボランティア活動などの自己啓発の取り組みを通じて、自ら考える積極的な姿勢が望まれます。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し、公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして、以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し、合格者を決定します。

本学部で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「学校推薦型選抜」、「社会人」の入試区分により、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、専門分野を理解するために必要な基本的な思考力・判断力・表現力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 資料等の理解力、科学的かつ論理的な思考力及び医療人としての人間性
- ④ 人間に関心を持ち、人々の健康と福祉に貢献しようという意欲と態度
- ⑤ 生命や医療に対する倫理観、コミュニケーション能力、チーム医療の一員となる上で不可欠な協調性
- ⑥ 看護学・医療について学ぼうとする意欲や物事に積極的に取り組む態度
- ⑦ 看護職に夢を持ち、理想とする看護職者を目指す意思

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」			「主体性等」			
選 抜 方 法	前期日程	共通テスト	81	○					
		小論文	12		○				
		面接			○		7		
		調査書	○	○			○		
	後期日程	共通テスト	83	○					
		面接			○		17		
		調査書	○	○			○		
	学校推薦型選抜Ⅰ	小論文	○	○	64				
		面接					36		
		調査書・推薦書	○				○		
		自己推薦書					○		
社会人		小論文	○	○	77				
		面接			○		23		

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）

ii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

理工学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

理工学部は、幅広い教養と理工学基礎力を土台として、多面的視点をもって社会の広い分野で活躍できる科学・技術の専門的素養を持つ人材を育成することを目的とします。以下に、理工学科のカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みを示します。

理工学科

理工学科では、基礎科目から専門科目までを段階的に学んでいくことで、理工系の学問領域の幅広い基礎的知識と各学問分野での専門知識を身につけ、複眼的視点を持って広く社会で活躍できる人材を育成することを目的としています。そのため専門教育は、基礎学力や理工系分野のリテラシーを修得するための学部共通科目と各専門のコースで個別に開講される専門科目に大別されます。教養教育も含めたカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部共通科目	理工系人材に要求される基本的なリテラシーを修得するために、基本的な知識に加えて倫理観や自立した責任感ある行動力が求められます。また学習を通して課題解決能力や複眼的視点を修得するために、共同して学ぶ姿勢や主体的な学習態度が必要です。
学部共通専門科目	理工学部としての共通の基礎学力を修得するために、高等学校で履修する数学、物理、化学、情報を中心とした理数系科目に関する基本的理解と、理学や工学の分野に対する興味・関心を有していることが必要です。
専門科目（コース別）	コース別の専門科目カリキュラム編成等を参照
卒業研究（コース別）	コース別の専門科目カリキュラム編成等を参照

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

理工学分野で学習する概念や法則、その応用や技術革新を理解するためには、まず理工学分野の基礎となる数学・物理・化学・情報を土台とした基礎学力、そしてこれらを専門分野において活用できる能力が求められます。そのためには、高等学校で履修する数学の基礎的理解が不可欠です。さらに、自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な自然観を養っておくことは、学びの視野を広げることに繋がります。そのため、高等学校で学ぶ数学・理科・情報については教科書レベルの知識を有していることが望まれます。一方、専門科目に限らず、大学では多くのレポートを書くことが一般的です。レポート作成には、文章の読解力と記述力さらには社会的な常識が必要となります。したがって、高等学校で学ぶ国語や社会の基礎的な学力は必要です。さらに、日本語文献だけでなく英語文献などもセミナー形式で学習しますので、英文の基礎的な読解力だけでなく、自分で辞書等を調べて英文を読みこなす習慣をつけておく必要があります。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

各コース別の専門教育のカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

数理サイエンスコース（数理分野）

数学を中心とする理学の領域で専門的知識を身につけ、広く社会で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目	数学の基本的な考え方及び論理的厳密性を修得するために、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、総合的な学習を通して課題解決能力を身に付けるために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

数学の概念や論理的厳密性を修得するためには、微分積分、線形代数、集合・位相といった数学の基本的な考え方や手法を身につける必要があります。そのためには、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。さらに、自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な自然観を養っておくことは、学びの視野を広げることに繋がります。そのため、高等学校で学ぶ理科についても教科書レベルの知識を有していることが望まれます。一方、専門科目に限らず、大学では多くのレポートを書くことが一般的です。レポート作成には、文章の読解力と記述力さらには社会的な常識が必要となります。したがって、高等学校で学ぶ国語や社会の基礎的な学力は必要です。さらに、日本語文献だけでなく英語文献などもセミナー形式で学習しますので、英文の基礎的な読解力だけでなく、自分で辞書等を調べて英文を読みこなす習慣をつけておく必要があります。課題発見・解決能力を養うために必要な基本的思考力・判断力・表現力も重要です。

データサイエンスコース・知能情報システムコース（情報分野）

情報分野を構成するデータサイエンスコースと知能情報システムコースでは、データサイエンス又は知能情報システムにおける専門知識・能力及び広い視野と判断力を持ち、他者と協力して、この社会（地域社会・国際社会・産業界等）で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 (データサイエンスコース)	データサイエンス分野の基礎的な知識と技能を修得するために、高等学校で履修する数学と情報の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、データサイエンス分野のプロフェッショナルとして問題を発見・解決する能力を修得するために演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 (知能情報システムコース)	知能情報システム分野の基礎的な知識と技能を修得するために、高等学校で履修する数学と情報の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、情報技術分野のプロフェッショナルとして問題を発見・解決する能力を修得するために演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、総合的な学習を通して課題解決能力を身に付けるために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

情報分野では、社会の第一線で活躍できるように、データサイエンス又は知能情報システムに関連した様々な専門科目を学びます。また、文書作成、口頭発表、技術英語を修得するとともに、実験科目や卒業研究を通してグループの中での協調性、自主的学習能力、情報収集能力なども育成します。そのためには、入学時点で、数学、情報、理科などの理数系科目の基礎学力をしっかりと身につけている必要があります。また、国語、英語、社会の基本的な知識を学んでいることも必要です。課題発見・解決能力を養うためには、必要な基本的思考力・判断力・表現力も重要です。そして、常日頃からデータサイエンス又は情報工学に関する出来事に興味を持ち、これらの分野へ取り組む意欲も欠かせません。高校等での学習においては、教科書レベルの問題を解く能力を求めます。また、情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得し、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解し、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を身に付けることも必要です。そして、高い学習意欲を持ち、知識の獲得に積極的な学生の入学を望みます。

化学コース（化学分野）

化学コースでは、化学を通して継続的に社会に貢献することのできる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目	基礎から応用にわたる化学の幅広い知識を体系的に身に付けていくために必要な専門科目の講義を、無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、化学工学の5つの分野で構成・配置し、理解と実践力を修得します。したがって、高等学校で履修する化学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、化学を通して社会に役立つ能力、及び課題解決につながる協調性と指導力を修得するために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、指導教員の下、総合的な学習を通して自ら仕事を計画・遂行していく能力を身に付けるために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

化学は、さまざまな物質や材料の構造や機能の関係性を明らかにするために、それらを詳細に調べ、新しい物質の合成や分析を行います。そのため、既存物質の特性を正確に把握し、必要な仮説と検証実験、そして得られた結果の論理的説明が求められます。このように化学を専門的に学ぶためには、高等学校で学習する化学の基本事項を十分に理解していることが必要です。また、実験等で取得したデータ解析には、計算能力や数学的思考力が求められ、物質の物理的性質や生化学的性質を理解するためには物理学や生物学の知識が必要となります。したがって、高等学校で学習する数学、物理及び生物の基礎学力は、化学を専門的に理解するためには欠かせないものです。さらに、新しい知識や技術を身につけるためには、外国の文献等にも目を通す必要があり、基礎的な英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解及びレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

物理学コース（物理学分野）

物理学コースでは、物理学を中心とする理学の領域で専門的知識を身につけ、広く社会で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目（必修）	物理学の基本的な考え方及び論理的厳密性を修得するために、高等学校で履修する物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。実験・演習等の授業では、グループ学習や実験に関わる作業が中心となるため、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が求められます。
専門科目（選択）	物理学の思考力、表現力及び数学の各分野における論理を理解するために、高等学校で履修する物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。実験・演習等の授業では、グループ学習や実験に関わる作業が中心となるため、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が求められます。
卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、社会の中で直面する諸問題を正確に理解し対処する力を修得することになりますので、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

物理学における基本的な概念や法則を理解するためには、高等学校で履修する物理と数学の基本的事項の理解及び計算能力だけでなく、それらの知識に基づく論理的な思考力が求められます。また、実験や観測を通して法則を見出すための洞察力も必要です。さらに、専門的な知識や考え方を修得するためには、海外の文献にも目を通すことが必要であり、高等学校の教科書レベルの英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解及びレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

機械工学コース（機械工学分野）

機械工学コースでは、機械工学及びその関連の領域において、専門的な基礎知識及びその応用力並びにものづくりの素養を身に付けた技術者となる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目	機械工学に関する基礎的知識から総合的知識、技能を修得するために、高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、機械工学の観点からものづくりを実際に行うための課題発見・探求・解決能力を身につけるために、演習や実験などを含む体験型学習を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、指導教員の下で総合的な学習を通じた実社会における諸問題の課題発見・探究・解決能力を習得するため、3年次までの教育課程について十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

機械工学は、すべてのものづくりに欠かせない技術であり、今後も重要となる産業界の基となる学問です。修得するためには、高等学校で学ぶ数学、物理、化学の基本的事項を理解し、教科書レベルの基本問題を解く能力を十分身につけておく必要があります。また、機械工学に関した講義の理解、レポート作成、プレゼンテーションにおいて、読解力や記述力などの国語能力、世界情勢や歴史、文化など社会科で学ぶ一般的な知識も求められます。さらに様々な分野で将来的に活躍するためには、英文の読解や作成、コミュニケーションなど基礎的な英語力は欠かせないものです。機械工学によるものづくりを通じた社会への貢献に興味と熱意を持つことを期待します。

電気電子工学コース（電気電子工学分野）

電気電子工学コースでは、電気電子工学の専門知識・能力と広い視野と判断力を持ち、他者と協力して、地域社会・国際社会・産業界等で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムの適応に必要な能力や適性、さらに入学志願者に高等学校等の学習で取り組んでいただきたい内容を下記に示します。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目	電気電子工学コースでは、電磁気学、電気回路、電子回路などの電気電子工学の基礎的な専門知識と半導体、プログラミング、システム制御、パワーエレクトロニクスなどについて学修します。それらの基礎的な知識と技術を修得するために、数学と物理の理解力と応用力が必要です。また、電気電子工学分野のプロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力、及び課題解決につながる協調性と指導力を修得するために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、原則として学生それぞれが個別の研究テーマを担当し、研究計画の立案から実施・発表会での結果報告・卒業論文を一貫して行い、専門学修の総仕上げとします。そのためには、3年次までの教育課程の内容を十分に学修できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、積極的に学習・研究活動を進めていく能力や姿勢を持っていることは必要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

電気電子工学分野では、社会の第一線で活躍できるように、電気電子工学に関連した様々な専門科目を学びます。また、文書作成、口頭発表、技術英語を修得するとともに、実験科目や卒業研究を通してグループの中での協調性、自主的学習能力、情報収集能力なども育成します。そのためには、入学時点で、数学、理科（物理や化学）などの理数系科目の基礎学力をしっかりと身につけていることが必要で、教科書レベルの知識を有していることを求めます。また、国語、英語、社会の基本的な知識を学んでいることも必要です。課題発見・解決能力を養うために必要な基本的思考力・判断力・表現力も重要です。そして、常日頃から電気電子工学に関する出来事に興味を持ち、これらの分野へ取り組む意欲も欠かせません。

都市基盤工学コース・建築環境デザインコース（都市工学分野）

都市工学分野を構成する都市基盤工学コースと建築環境デザインコースでは、都市工学の領域における専門的知識・技能を身に付け、都市・地域の持続的発展に貢献できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
専門科目 (都市基盤工学コース)	社会基盤工学に関する基礎的知識、分析力、考察力だけでなく、安全・安心な都市・地域の環境基盤整備や都市・地域の環境基盤をより一層豊かにするための高度な知識・技能を修得するために、高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、社会基盤工学分野のプロフェッショナルとして課題発見能力及び課題解決能力を身に付けるために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 (建築環境デザインコース)	建築都市デザインに関する基礎的知識、分析力、考察力だけでなく、身の回りの居住環境・建築環境の快適性を最適に保つための知識・技能、現代社会に対応した建築・都市空間を計画・設計する能力を修得するために、高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、歴史や文化・伝統などに関する専門的観点から多様な価値観を理解する力、都市・地域の持続的発展に向けた建築・都市空間のあり方を提示する力を身に付ける必要がありますので、高等学校で履修する国語、地理、歴史といった幅広い教科や科目の基礎的理解が必要です。さらに、建築都市デザイン分野のプロフェッショナルとして課題発見能力及び課題解決能力を身に付けるために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、各コースの指導教員の下、総合的な学習を通して実社会における諸問題の発見・解決能力を習得するために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

都市における社会基盤・建築物等の整備と安全・安心の確保は非常に重要ですが、同時に自然環境や歴史、風土等との調和も必要です。都市工学分野では、都市や地域に関する理解、形態や空間を扱うデザインも学問対象としていますので、様々な社会的事象及び文化や歴史についても関心を持つことが求められます。したがって、高校で学ぶ数学・物理など自然科学の基礎力、論理的思考を支える国語力、英語で書かれた文献の理解のための英語力、さらに地域の文化や歴史に目を向け得るための社会的な基礎知識などを学習することを期待します。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し、公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして、以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し、合格者を決定します。

本学部で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、志望分野への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」、「帰国生徒選抜」の入試区分により、入学者を選考します。また、理工学分野への女性の参加を奨励するため、「学校推薦型選抜Ⅰ」と「総合型選抜Ⅱ」の入試区分において「女子枠」(注)を設け、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。
3年次編入学試験	短期大学、専修学校及び高等学校の専攻科の課程の卒業生で、さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

(注) 女子枠では、様々な学習活動(グループ活動、実験、演習、卒業研究等)において自分の意見を積極的に述べたり、自分が持つ能力を発揮することで、学部の教育・研究活動を活性化できる女子学生を求めます。そして、専門分野に関する最先端の知識と技術を基盤に、多様な人材が活かされる場において臆することなく自分の考えやアイデアを発信し、革新的な発想やイノベーション創出に貢献できる人材として活躍することを期待しています。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 専門分野を理解するために必要な数学、理科に関する知識・技能と、これらを踏まえた数理的かつ科学的な思考力・判断力・表現力
- ③ 専門科目と特に関係の深い教科・科目に関する十分な知識・技能と、これらを踏まえた高度な思考力・判断力・表現力
- ④ 志望分野で学ぶために必要な基礎的な知識・技能
- ⑤ 専門分野に対する強い興味・関心
- ⑥ 主体的に学び続けようとする意欲と態度

- ⑦ 本学部で学びたいという強い意欲
 ⑧ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性
 ⑨ 従来の枠にとらわれない柔軟な発想を持ち、理工学分野で多様な人材が活躍する社会の実現に向けて行動しようとする意欲

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
学力 3 要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」				
選 抜 方 法	前期日程	共通テスト	60	○	○	○					
		個別テスト等	○	40	○	○					
		特色加点					☆	☆		☆	
	後期日程	共通テスト	60	○	○	○					
		個別テスト等	○	○	40	○					
		特色加点					☆	☆		☆	
	学校推薦型 選抜Ⅰ (専門系 高校対象)	基礎学力・学習力テスト				25					
		小論文				25					
		面接				○	(25)	(25)	(25)	(25)	
		活動実績報告書					(25)	(25)		(25)	
		推薦書	○				○	○	○	○	
		調査書	○				○	○		○	
	学校推薦型 選抜Ⅰ (普通系 高校対象) [一般枠]	基礎学力・学習力テスト				25					
		小論文				25					
		面接				○	(25)	(25)	(25)	(25)	
		活動実績報告書					(25)	(25)		(25)	
		推薦書	○				○	○	○	○	
		調査書	○				○	○		○	
	学校推薦型 選抜Ⅰ (普通系 高校対象) [女子枠]	基礎学力・学習力テスト				25					
		小論文				25					
		面接				○	(25)	(25)	(25)	(25)	(25)
		活動実績報告書					(25)	(25)		(25)	
		推薦書	○				○	○	○	○	
		調査書	○				○	○		○	
	総合型選抜Ⅰ (全科対象)	適性検査	○	33							
		面接	○			○	(33)	(33)	○		
		活動実績報告書					(33)	(33)		(33)	
		志望理由書					○	○	(33)	○	
		調査書	○				○	○		○	
	総合型選抜Ⅱ (全科対象) [一般枠]	共通テスト	91	○	○	○					
		志望理由書							(9)		
		活動実績報告書					(9)	(9)		(9)	
		調査書					(9)	(9)		(9)	
	総合型選抜Ⅱ (全科対象) [女子枠]	共通テスト	91	○	○	○					
		志望理由書							(9)		
		活動実績報告書					(9)	(9)		(9)	
		調査書					(9)	(9)		(9)	
		学修計画書					◎	◎		◎	◎
	帰国生徒	小論文	○	○			(50)	(50)			
		面接		○			(50)	(50)	(50)		
		提出書類	◎								

- i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）
 ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（合否、ABC など）
 iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの
 iv. ☆は、加点評価

農学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

農学部では、農学及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえうる深い専門性と幅広い素養を身に付け、国内外での農業及び関連産業の発展に貢献する人材を養成することを目的とします。農学部のカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	文化・自然、現代社会と生活に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科と科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門教育科目	農学分野の基礎的な知識・技術とともに、課題発見と解決能力を修得するために、高等学校で履修する理科、数学を中心とした基礎的理解と応用力に加え、資料や情報を読み解くための国語力と英語力、その他幅広い教科・科目に関する知識を有することが不可欠です。また、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	高学年次での各研究室における卒業研究では、専門的な研究環境で専門知識と先端技術を修得することになります。そのため、低学年次における教育課程で十分に学習できていることが前提となります。また、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

生物資源科学科

農業に関わる学問に対する興味があり、生物の機能や自然環境について学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。講義を理解してレポート等を作成・発表するためには、様々な文章を読む・文書を作成するという国語力、社会の仕組みや地理・歴史といった一般常識も必要です。専門的な知識や技術を得るためには、海外の文献にも目を通す必要があることから、専門についての英語を学習する為に高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。

農学において、実験や調査活動を自主的・継続的かつグローバルに行なうことは重要です。そのためには自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持ち、教員、先輩、友人、留学生など周囲の人々とコミュニケーションを持つ積極性が大事です。自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ意志」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し、公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして、以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し、合格者を決定します。

本学部で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、志望コースへの志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」、「帰国生徒選抜」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。
3年次編入学試験	短期大学、専修学校及び高等学校の専攻科の課程の卒業生で、さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

生物資源科学科

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 専門分野を理解するために必要な数学に関する知識・技能と、これらを踏まえた数理的な思考力・判断力・表現力
- ③ 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ④ 志望コースで学ぶために必要な基礎的な知識・技能
- ⑤ 専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度
- ⑥ 本学部で学びたいという強い意欲
- ⑦ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性

全コース共通

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」		
選 抜 方 法	前期日程	共通テスト	60	○	○	○			
		個別テスト等	○	20	20	○			
		特色加点					☆		☆
	後期日程	共通テスト	73	○	○	○			
		個別テスト等	○	27		○			
		特色加点					☆		☆

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）

ii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

iii. ☆は、加点評価

生物科学コース

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」		
選 抜 方 法	学校推薦型 選抜Ⅰ (専門系 高校対象)	基礎学力・学習力テスト				40			
		小論文				20			
		面接					20		
		活動実績報告書					(20)		
		推薦書							
		調査書	(20)						
	総合型選抜Ⅱ (全科対象)	共通テスト	82						
		志望理由書						(18)	
		活動実績報告書					(18)		(18)
		調査書	(18)						
	帰国生徒	小論文				40			
		面接					40		
		提出書類	20						

数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）

食資源環境科学コース

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」		
選 抜 方 法	学校推薦型 選抜Ⅰ (専門系 高校対象)	基礎学力・学習力テスト				17			
		小論文				33			
		面接					33		
		活動実績報告書					(17)		
		推薦書							
		調査書	(17)						

選 抜 方 法	総合型選抜Ⅱ (全科対象)	共通テスト	90						
		志望理由書						(10)	
		活動実績報告書					(10)		(10)
		調査書	(10)						
	帰国生徒	小論文	(40)	(40)			(40)		
		面接		(40)			(40)	(40)	
		提出書類	20						

数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）

生命機能科学コース

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」		
選 抜 方 法	学校推薦型 選抜Ⅰ (専門系 高校対象)	基礎学力・学習力テスト				8			
		小論文				33			
		面接					33		
		活動実績報告書					(25)		
		推薦書							
		調査書	(25)						
	総合型選抜Ⅱ (全科対象)	共通テスト	84						
		志望理由書						(16)	
		活動実績報告書					(16)		(16)
		調査書	(16)						
	帰国生徒	小論文	(40)	(40)			(40)		
		面接		(40)			(40)	(40)	
		提出書類	20						

数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）

国際・地域マネジメントコース

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」		
選 抜 方 法	総合型選抜Ⅱ (全科対象)	共通テスト	82						
		志望理由書						(18)	
		活動実績報告書					(18)		(18)
		調査書	(18)						
	帰国生徒	小論文	(40)	(40)			(40)		
		面接		(40)			(40)	(40)	
		提出書類	20						

数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおよその各配点のウエイト [%]）

コスメティックサイエンス学環

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

コスメティックサイエンス学環では、コスメティックサイエンス及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえる深い専門性と幅広い素養を身に付け、国内外での化粧品及び関連産業の発展に貢献する人材を養成することを目的とします。コスメティックサイエンス学環のカリキュラム編成と本カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目（インターフェース科目を除く。）	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
教養教育科目（インターフェース科目）	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
基礎科目	理数系の基礎学力を修得するために、高等学校で履修する数学、物理、化学、生物の基本的理解と、理学分野に対する興味・関心を有していることが必要です。
専門科目（理学系・農学系）	コスメティックサイエンスの知識の習得に必要な、化学と生物の基礎的な分野の理解と実践力を養います。そのため、高等学校で履修する化学及び生物の基礎的理解と応用力が不可欠です。
コア科目（基盤融合科目・実践研究科目）	有機化学と生化学を基礎として、コスメティックサイエンスの視点から物質の安全性、開発過程、製造工程などを通して体系的に理解します。それまでに学んだ他の専門科目の内容を十分に習得しておくことが必要です。また、コスメティックサイエンスのプロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力、及び課題解決につながる協調性と指導力を修得するために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
学環周辺科目	コスメティックサイエンス分野と社会との接続を学んでいくためには、倫理観や責任感、未知なるものへの探究心や想像力、積極的な行動力や発信力が求められます。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、指導教員の下、総合的な学習を通して自ら研究を計画・遂行していく能力を身に付けるために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

（入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み）

コスメティックサイエンスは、化粧品の原料を主とするさまざまな物質や材料の構造や機能の関係性・安全性を明らかにするために、それらを詳細に調べ、新しい物質の合成や分析を行います。そのため、既存物質の特性を正確に把握し、必要な仮説と検証実験、そして得られた結果の論理的説明が求められます。このようにコスメティックサイエンスを専門的に学ぶためには、高等学校で学習する化学の基本事項を十分に理解していることが必要です。また、実験等で取得したデータ解析には、計算能力や数学的思考力が求められ、物質の生化学的性質を理解するためには生物学の知識が必要となります。したがって、高等学校で学習する数学、生物の基礎学力は、コスメティックサイエンスを専門的に理解するためには欠かせないものです。さらに、新しい知識や技術を身につけるためには、外国の文献等にも目を通す必要があり、基礎的な英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解及びレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

上記のことに加え、学環の特徴を生かし、様々な学問分野の専門知識を身につけ、複眼的視点から本学環の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」をもった学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

入学志願者の基本的人権を尊重し、公正かつ妥当な方法により多様な選抜を実施します。そして、以下に示す大学入学後の学習に必要な能力や適性等を多面的・総合的に判定し、合格者を決定します。

本学環で実施する選抜方法の目的と概要は以下の通りです。

選抜方法	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学環への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「総合型選抜」の入試区分により、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 専門分野を理解するために必要な数学、理科に関する知識・技能と、これらを踏まえた数理的かつ科学的な思考力・判断力・表現力
- ③ コスメティックサイエンスの専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度
- ④ 自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学環の教育・研究活動を活性化できる可能性

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④
学力３要素との対応			「知能・技能」「思考力等」		「主体性等」	
選 抜 方 法	前期日程	共通テスト	74	○		
		個別テスト等	○	26		
		特色加点			☆	☆
	後期日程	共通テスト	70	○		
		個別テスト等	○	30		
		特色加点			☆	☆
	総合型選抜Ⅱ	共通テスト	95	○		
		志望理由書			(5)	(5)
		活動実績報告書				
		調査書	○			

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対するおおその各配点のウエイト [%]）

ii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

iii. ☆は、加点評価

IV 募集人員

募集人員等 学部・学環、学科・課程等名				入学 定員	募 集 人 員								備 考
					一般選抜		特 別 選 抜						
					前期 日程	後期 日程	学校推薦型 選抜Ⅰ (大学入学共 通テストを 課さない)	学校推薦型 選抜Ⅱ (大学入学 共通テスト を課す)	総合型選抜Ⅰ (大学入学共 通テストを 課さない)	総合型選抜Ⅱ (大学入学 共通テスト を課す)	佐賀県 推薦入学	帰国 生徒	社会人
教育学部	共同教員養成課程	小中連携 教育コース	小学校教育主免専攻	70	38	10	10	10	2				○小学校教育主免専攻の学 校推薦型選抜における募 集人員10人は、佐賀県枠 で募集します。 ○教育支援探究コース（学 校推薦型選抜は除きま す。）は、入学後それぞ れの専攻に分かれます。
			中学校教育主免専攻	25	10	5	－	8	2				
		教育支援 探究コース	発 達 支 援 専 攻	25	15	5	－	－	－	－	－	－	
			特別支援教育専攻				5	－	－				
	小	計	120	63	20	15	18	4					
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科	芸術表現 コ ー ス	美術・工芸分野	55	27	8	－	10	－				○芸術表現コース（一般選 抜）及び地域デザイン コースは、2年次にそれ ぞれの分野に分かれます ○芸術表現コース（特別選 抜）は、2年次に出願時 に選択した分野に分かれ ます。
			有田セラミック分野				3	7	－				
		地 域 デザイン コ ー ス	地域コンテンツデザイン分野	55	25	15	－	15	－	－	－	－	
			キュレーション分野										
	小	計	110	52	23	3	32	－					
経済学部	経 済 学 科	230	110	25	70	－	－	25	－	－	－	○学校推薦型選抜Ⅰの募集 人員は各募集枠の人数を 合わせた数です。詳細は 38ページをご確認ください。	
医学部	医 学 科	101 *1	51	－	－	40 *2	－	－	10	若干人	－	○医学部の学校推薦型選抜 における募集人員40人は 一般枠18人、佐賀県枠22 人となります。*2	
	看 護 学 科	60	35	5	20	－			－	若干人			
	小	計	161	86	5	20			40	10	－		－
理工学部	理工学科	数理分野	数理サイエンスコース	500	(15)	(5)	－	2	2	－	若干人	－	○1年後期にそれぞれの コースに分かれます。特 定の分野で合格した学生 は、合格した分野内の コースに配属されます。 学科一括枠で合格した学 生は、本人の希望と1年 前期の成績により配属さ れます。*3 ○一般選抜は、7分野及び 学科一括枠から順位を付 けて第3志望まで志望で きます。ただし、学科一 括枠は第1志望でのみ選 択可能とします。 ○学校推薦型選抜Ⅰと総 合型選抜Ⅱの募集人員の 内訳については、42,52 ページをご確認ください。 ○前期日程及び後期日程 における分野及び学科一 括枠の募集人員は目安人 数です。定員充足について は、学科単位で行います。
			情報分野		データサイエンスコース	(61)	(24)	8	11				
		化学分野	化 学 コ ー ス		(35)	(16)	2	5	15				
			物理学分野		物 理 学 コ ー ス	(13)	(4)	－	7				
		機械工学分野	機 械 工 学 コ ー ス		(39)	(10)	4	5	12				
		電気電子工学分野	電気電子工学コース		(32)	(10)	4	4	14				
		都市工学分野	都市基盤工学コース		(42)	(18)	3	4	8				
			建築環境デザインコース										
		学 科 一 括 枠			(44) *3	(6) *3	－	－	－				
	小	計	500	281	93	21	38	67					
農学部	生物資源科学科	生 物 科 学 コ ー ス	155	82	36	3	11	－	若干人	－			
		食 資 源 環 境 科 学 コ ー ス				2	5						
		生 命 機 能 科 学 コ ー ス				1	10						
		国際・地域マネジメントコース				－	5						
	小		計	155	82	36	6	31					
	コスメティックサイエンス学環		30	18	5	－	－	－	7				
合 計		1,306	692	207	135	40	88	134	10				

（備考）後期日程の募集人員には、帰国生徒選抜及び社会人選抜の募集人員（若干人）を含みます。（医学部医学科は、一般選抜前期日程の募集人員に含む。）

- *1 医学科の入学定員101名は、文部科学省等に申請予定である地域の医師確保のための入学定員増が認可された場合の人数（3人）を含むものであり、現時点において確定した人数ではありません。確定次第、ホームページ等でお知らせします。
- *2 地域の医師確保のための臨時定員増において増員数（3人）が削減あるいは廃止となった場合、学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）の入学定員数（18人）を削減し、他の選抜の入学定員数を確保する場合があります。
- *3 学科一括枠から各分野への目安配属数は、数理分野：数理サイエンスコース（1人）、情報分野：データサイエンスコース・知能情報システムコース合わせて（7人）、化学分野：化学コース（2人）、物理学分野：物理学コース（5人）、機械工学分野：機械工学コース（13人）、電気電子工学分野：電気電子工学コース（16人）、都市工学分野：都市基盤工学コース・建築環境デザインコース合わせて（6人）。

V 出願資格

1 一般選抜

志望する学部・学環，学科・課程・コース・専攻（以下「学部・学科等」といいます。）が指定する令和9年度大学入学共通テストの所定の教科・科目を受験し，かつ，次のいずれかに該当する者としします。

- ① 高等学校若しくは中等教育学校（以下「高等学校」といいます。）を卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び2027年3月修了見込みの者
- ③ 学校教育法施行規則第150条の規定により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び2027年3月31日までにこれに該当する見込みの者

学校教育法施行規則

第150条 学校教育法第90条第1項の規定により，大学入学に関し，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 1 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- 2 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 3 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- 4 文部科学大臣の指定した者
- 5 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定（以下「旧検定」という。）に合格した者を含む。）
- 5の2 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって，高等学校卒業程度認定審査規則（令和4年文部科学省令第18号）による高等学校卒業程度認定審査に合格した者
- 6 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって，当該者をその後に入学させる大学において，大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- 7 大学において，個別の入学資格審査により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，18歳に達したもの

（注）同条第7号により出願を希望する者は，事前に入学資格認定の審査を行います。

※申請期間及び申請書類の送付先等

本学の個別の入学資格審査により，入学資格の認定を受けようとする者は，2026年8月21日（金）までに申請するものとしします。

ただし，他大学において入学資格の認定を受け，令和9年度大学入学共通テストに出願し，受理された者については，2027年1月15日（金）までに申請するものとしします。

申請書類を郵送する場合は必ず書留郵便とし，封筒表面に「大学入学資格認定書交付申請」と朱書きの上，学務部入試課に送付してください。

2 特別選抜及び私費外国人留学生入試

38ページから58ページを参照してください。

3 一般選抜及び特別選抜における共通事項

大学入学共通テストを課す選抜において，学部・学科等が指定した大学入学共通テストの教科・科目を1つでも受験しなかった者は，無資格者としします。

また，佐賀大学が課す個別テスト等において，学部・学科等が指定した教科・科目等を1つでも受験しなかった者は，失格としします。

VI 選抜方法

入学者の選抜は、一般選抜及び特別選抜並びに私費外国人留学生入試により行います。
本学では、大学入学共通テストの過年度成績は利用しません。

一般選抜

- (1) 大学入学共通テスト及び教科・科目に係る個別テスト（以下「個別テスト」という。）等の成績、調査書の内容を総合的に判断し、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。
大学入学共通テスト及び個別テスト等において、受験が必要な教科・科目は30、31ページに記載しています。
医学部医学科（前期日程）においては、入学志願者が、募集人員を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合（募集人員の約5倍）に、2段階選抜を実施します。
- (2) 採点・評価基準、合否判定基準は、募集要項に掲載します。
- (3) 後期日程入学手続締切期日（2027年3月27日(土)）までに入学手続完了者が入学定員に満たない場合は、原則として追加合格者を決定し補充しますが、欠員補充第2次募集を行うこともあります。
- (4) 追加合格者の決定は2027年3月28日(日)から開始し、実施の有無については、3月28日(日)に本学ホームページでお知らせします。
- (5) 追加合格者には、電話連絡により入学の意志を確認し、3月31日(水)を入学手続締切日とします。

定員補充について

- (1) 特別選抜（総合型選抜、学校推薦型選抜等）の合格者数（入学手続者）が募集人員に満たなかった場合は、以下の入試で不足分の合格者を補充します。

○教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部、医学部、コスメティックサイエンス学環
特別選抜 → 一般選抜（前期日程）

○理工学部
学校推薦型選抜Ⅰ及び総合型選抜Ⅰ → 総合型選抜Ⅱ
総合型選抜Ⅱ → 一般選抜（前期日程）

○農学部
学校推薦型選抜Ⅰ → 総合型選抜Ⅱ
総合型選抜Ⅱ → 一般選抜（前期日程）
- (2) 一般選抜（前期日程）の合格者（入学手続者）が募集人員に満たなかった場合は、一般選抜の後期日程で不足分の合格者を補充します。（医学部医学科を除く）

特別選抜及び私費外国人留学生入試

38ページから58ページを参照してください。

一 般 選 拔

1 2027年度一般選抜実施教科・科目

日程	学部、学科等				募集人員	大学入学共通テスト																						備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
						外国語					国語	数学			地理歴史、公民					理科					情報	教科・科目数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
						英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語	科目数	国語	数学Ⅰ	数学ⅡA	数学ⅡBC	科目数	地理総合 地理探究	歴史総合 日本史探究	歴史総合 世界史探究	公共・倫理	公共・政治・経済	地理総合 歴史総合 公共	科目数	生物基礎 化学基礎 物理基礎 地学基礎	物理	化学	生物		地学	科目数	情報Ⅰ	満点																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
						リーディング	リスニング																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														

【注意事項】

- ◎は必須教科の必須科目、○は必須教科の選択科目、◇は選択教科、△は複数教科受験可能で、高得点採用の科目、☆は任意の申請。
- 配点に()を付している場合は選択教科。配点比率は大学入学共通テストと個別テスト等の配点比率を表示。
- 大学入学共通テストでは「地理総合／歴史総合／公共」は必ず2出題範囲の選択が必要。この場合、2つの出題範囲を合わせて「1科目」として扱う。
- 大学入学共通テストでは「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」は必ず2出題範囲の選択が必要。この場合、2つの出題範囲を合わせて「1科目」として扱う。
- 大学入学共通テスト外国語の英語はリーディングとリスニングの受験が必須。それぞれの配点については、36ページに記載。
- 面接は、評価が低い場合は不合格とすることがある。

日程	学科・課程等			個別テスト等																特色 加点	配 点 比 率	備考										
				外国語				国語	数学					理科				総合 問題	小 論文				実 技	面接	その他	満 点	教科 数					
				英 コミュ ニ ティ	英 コミュ ニ ティ	英 コミュ ニ ティ	論 理・表 現Ⅰ	論 理・表 現Ⅱ	論 理・表 現Ⅲ	現代の国 語	言語文化	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅲ	数学A	数学B	数学C											物理基礎・物理	化学基礎・化学	生物基礎・生物	地学基礎・地学	
前期	小中連携教育コース	小学校教育主免専攻	地歴・公民 2科目型	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△											400	2	☆	93:40	「英語」必須。 「国語」、「数学」は1科目又は2科目選択可。 「国語」と「数学」の2科目を受験した場合は 高得点科目を採用	
				200				(200)		(200)														400	2	☆	93:40					
		理科 2科目型	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△		△	△	△											400	2	☆	93:40		
				200				(200)		(200)															400	2	☆	93:40				
		中学校教育主免専攻	地歴・公民 2科目型	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△		△	△	△											400	2	☆		93:40
				200				(200)		(200)															400	2	☆	93:40				
		理科 2科目型	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△		△	△	△												400	2	☆		93:40
				200				(200)		(200)															400	2	☆	93:40				
		教育支援探究コース		○	○	○	○	○	○	△	△	△	△		△	△	△											400	2	☆		93:40
				200				(200)		(200)															400	2	☆	93:40				
	芸術表現コース	3科目型																						◎			500			5:5	実技検査は描写表現3つから選択 (35ページ参照)	
																								◎			500			6:4	実技検査は発想表現必須 (35ページ参照)	
	4科目型																						◎			400						
																								◎			400					
	地域デザインコース																						◎			400	☆ 15		7:4	総合問題については35ページ		
	経済学科			○	○	○	○	○	○																	200	1	☆ 15	4:2			
	医学科			○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○					◎		300	3		64:30		
	看護学科																						◎	◎		160			66:16			
	理工学科										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							600	2	☆ 30	93:60		
生物資源科学科			○	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○										400	2	☆ 50	63:40			
コスメティックサイエンス学環																		○								200	1	☆ 25	575:200			
後期	共同教員養成課程 小中連携教育コース 小学校教育主免専攻		○	○	○	○	○	○															◎			400	1	☆ 20	103:40			
			200																			200										
			○	○	○	○	○	○																◎		400	1	☆ 20	103:40			
	共同教員養成課程 小中連携教育コース 中学校教育主免専攻		200																				200									
			○	○	○	○	○	○																◎		400	1	☆ 20	103:40			
	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース																							◎		300			5:3	実技は描写・発想表現から1 (35ページ参照)		
			○	○	○	○	○	○																	◎	300	1	☆ 15	6:3	その他は問題解決・提案カテスト (35ページ参照)		
	経済学科																							◎		100	☆ 15		73:10			
	看護学科																								◎		120			60:12		
	理工学科											△	△	△	△	△	△	△	△	△							400	1	☆ 30	62:40	「数学」、「物理」、「化学」から1科目又は2科目 選択。2科目受験した場合は高得点科目を採用。 ただし「物理」と「化学」の2科目選択は不可。	
生物資源科学科										○	○		○	○	○											200	1	☆ 50	58:20			
コスメティックサイエンス学環										△	△		△	△	△	△	△									200	1	☆ 30	47:20	「数学」、「化学」から1科目又は2科目選択。 2科目受験した場合は高得点科目を採用。		

☆「特色加点」の内容については34ページを参照

2 英語外部検定試験の一般選抜での利用について

積極的に英語の技能を活用し、主体的に考えを表現することができる学生を求めるとともに、英語のコミュニケーション能力を適切に評価するため、英語外部検定試験の結果を一般選抜（前期日程及び後期日程）に利用できます。

(1) 利用できる検定試験（4技能受検が必須）

- ① 実用英語技能検定（2級以上（英検 CSE スコア2.0, 英検 S-CBT, 英検 S-Interview, 英検（従来型）全て含む））
- ② TEAP（4技能）
- ③ GTEC（4技能） Advanced, Basic, CBT タイプ（オフィシャルスコアに限る。）
- ④ TOEFL iBT

(2) 利用方法

- 検定試験の成績を換算表に基づき、大学入学共通テスト（英語）の得点に換算し、大学入学共通テスト（英語）の成績とみなして合否判定に利用します。
- 検定試験の換算点が、大学入学共通テスト（英語）の得点より高い場合に、検定試験の換算点を採用します。
- 大学入学共通テストの英語の「リーディング」（100点満点）と「リスニング」（100点満点）の合計点が100点を下回る場合には、換算表の基準を満たしていても検定試験の換算は行いません。

※聴覚障害等により「リスニング」を免除された者は、「リーディング」（100点満点）が50点を下回る場合には、換算表の基準を満たしていても検定試験の換算を行いません。

(3) 換算表

実用英語技能検定	TEAP	GTEC(4技能)	TOEFL iBT*	共通テスト(英語)得点率
2,250以上	270以上	1,100以上	61以上	90%
2,150～2,249	235～269	1,000～1,099	52～60	80%
2,050～2,149	220～234	900～999	45～51	70%
2,049以下	219以下	899以下	44以下	対象外

※2026年1月21日以降に受検した場合においても、0～120スコアスケールで換算します。

(4) 申請方法

- インターネット出願登録時に検定試験の種別及び受検情報を登録してください。
- 申請できる検定試験の成績は1件です。また、有効となる検定試験は、2025年4月1日以降に受検した検定試験に限ります。
- インターネット出願登録時に検定試験の登録がない場合や出願期間内に成績証明書（写しを含む）が提出されなかった場合は利用できません。
- インターネット出願登録時に誤った情報を登録した場合には利用できないことがあります。
- インターネット出願時の入力及び提出書類

① 実用英語技能検定

インターネット出願登録時に実用英語技能検定の受検情報【個人番号、年度、受検回、試験成績】を入力してください。また、合格証明書（写し可）、CSE スコア証明書（写し可）、個人成績表（写し可）又はデジタル証明書のプレビュー画面（「合格証明書」並

びに「デジタル証明書に記載の内容」の部分を含めて印刷したもの）を提出してください。なお、1級・準1級・2級のうちいずれかの英検級の受検により発行されたCSEスコアのみ受け付けます。受検した級が不合格の場合でもCSEスコアが2,050点以上の得点があれば利用できます。

証明書サンプル

https://www.eiken.or.jp/eiken/result/img_sample_01.html

https://www.eiken.or.jp/eiken/result/img_sample_03.html

<https://www.eiken.or.jp/eiken/digital-certificate/sample/>

② TEAP（4技能）

インターネット出願登録時にTEAPの受検情報【Registration ID, 受検年度, TEAPスコア】を入力してください。また、成績証明書（写し可）を提出してください。

証明書サンプル

<https://www.eiken.or.jp/teap/result/>

③ GTEC（Advanced, Basic タイプ）

インターネット出願時にGTEC（Advanced, Basic タイプ）の受検情報【成績番号※, GTECスコア】を入力してください。ベネッセコーポレーションのマナビジョン（URL：<https://manabi.benesse.ne.jp/>）又は「大学入試成績連携システム」専用サイト（URL：<https://benesse-exam.benesse.ne.jp/exam/login/>）から受検したGTECの「成績番号」を請求してください。付与された「成績番号」をインターネット出願登録画面の【個人番号】欄に入力してください。また、成績証明書裏面の成績番号貼付欄に「成績番号」を貼付し、成績証明書（写し可）を提出してください。（写しを提出する場合には必ず両面印刷して提出してください。）

※スコアレポートに表示している「EA」から始まる9桁の英数字です。

証明書サンプル

<https://www.benesse.co.jp/gtec/fs/schoolofficials/officialscore.html>

成績番号の請求方法

<https://www.benesse.co.jp/gtec/fs/gradenumber/>

④ GTEC（CBT タイプ）

インターネット出願時にGTEC（CBT タイプ）の受検情報【Test ID※, GTECスコア】を入力してください。また、成績証明書（写し可）を提出してください。

※スコアレポートに表示している「GT」から始まる9桁の英数字です。

証明書サンプル

<https://www.benesse.co.jp/gtec/fs/schoolofficials/officialscore.html>

⑤ TOEFL iBT

インターネット出願時にTOEFL iBTの受検情報【スコア】を入力してください。また、Test Taker Score Report（PDF）を提出してください。さらに、必ずTOEFLを実施しているETSの個人アカウントにログイン後、送信を希望するスコアの試験を選択し、本学が指定するDIコードを選択のうえ、スコアの直送手続きを行ってください。

※手続き方法（https://www.toefl-ibt.jp/test_takers/toefl_ibt/scores.html）

※受検日の前日午後10時までにスコア送信手続きを行うことで、最大4機関まで無料でスコアを送付することが可能です。その場合は、アカウント左側の『My Tests』より受検予定の試験を選択し、本学指定のDIコード【8267】を利用して、送信先の設定を行ってください。

(5) 大学入学共通テストの受験について

英語外部検定試験の利用を申請した場合においても、大学入学共通テストの英語（リスニングを含む）を受験しなかった場合は失格となります。

3 特色加点制度について

「特色加点」とは、一般選抜における任意提出の書類審査です。大学入学共通テスト、個別テスト等の合計点（以下、「当初配点」という。）とは別に、加点枠を設けます。志願者本人が記載することを原則とします。申請がなければ当初配点のみで合否判定を行います。

志願者が取り組んできた活動を中心に、そこで培ったスキルや経験等が、大学入学後の学習や活動にどのように生かせるかを申請してください。申請する活動や実績は、主体的に取り組んだものであれば分野等は問いません。

評価については、「全国大会△位入賞は〇点」といった採点ではなく、アドミSSION・ポリシーの観点から定性的かつ総合的に評価します。したがって、志望学部の学びを理解し、入学後の学習や活動に何を生かせるかをしっかり考えてアピールしてください。アドミSSION・ポリシーや入学後の学習との繋がりがまったく見えない申請内容は、加点の対象になりません。また、申請内容を補完する根拠となる資料等も重要です。

取組の具体例として、研究活動（探究型学習、課題研究、各種教育プログラムなど）、課外活動（部活動や生徒会活動など）、社会活動（ボランティア、地域活動など）、資格・検定取得、コンテスト等の実績、海外留学経験、その他主体的な活動などが考えられます。

「特色加点」として申請できる取組の内容は、高等学校入学以降（あるいは中学校卒業以降）のものとし、過年度卒業者は卒業後の取組でも申請可能です。

【合否判定について】

大学入学共通テスト及び個別テスト等の成績、並びに「特色加点」により、アドミSSION・ポリシーに基づき合格者を決定します。合否判定は以下の手順で実施します。

(1) 芸術地域デザイン学部（地域デザインコース）、経済学部、コスメティックサイエンス学環の取扱い

- ① 大学入学共通テスト得点と個別テスト等の得点を合計した成績上位者において、「特色加点」の配点により合格の可能性が生じる受験者までを「1次選考適格者」とします。
- ② 「2次選考」は、1次選考適格者に対し、大学入学共通テスト得点と個別テスト等の得点の合計点に、「特色加点」内容の採点結果を加えた総合得点にて合否判定を行います。その際、「特色加点」分を加えなくても合格基準点を上回る受験者に対しては「2次選考」を免除し、合格者とし、
- ③ 「特色加点」を申請しなかった場合は、「特色加点」分は0点として扱います。
※合否結果の通知は最終結果のみとし、1次選考・2次選考別には行いません。

(2) 教育学部、理工学部、農学部の取扱い

- ① 個別テスト等を受験した申請者全員を採点し、合否判定を行います。
- ② 「特色加点」を申請しなかった場合は、「特色加点」分は0点として扱います。

4 2027年度個別テスト等の出題範囲及び試験方法について

(1) 数学

数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲは全範囲から出題とします。

数学Aは「図形の性質」「場合の数と確率」「数学と人間の活動（整数の性質に関する部分）」

数学Bは「数列」

数学Cは「ベクトル」「平面上の曲線と複素数平面」

ただし、教育学部（前期日程）、農学部（前期日程、後期日程）、コスメティックサイエンス学

環（後期日程）においては、数学Ⅲ及び数学Cの「平面上の曲線と複素数平面」を出題範囲としません。

(2) 総合問題

文章（英文を含む）や資料（図表、写真、絵、地図など）を題材に、読解力、論理的思考力、分析力、考察力を問います。

(3) 問題解決・提案力テスト

地域や社会に関する課題や事象に対する解決策や提案を、文章や図表、絵などにより、解答用紙に簡潔にまとめたものについて、企画力、発想力、表現力等を含む問題解決能力及び提案力を総合的に評価します。

筆記用具については学生募集要項に掲載します。

5 芸術地域デザイン学部芸術表現コース実技検査の選択方法について

(1) 前期日程

出願時に「3科目型」を選択した受験者には実技検査（描写表現）、「4科目型」を選択した受験者には実技検査（発想表現）を課します。実技検査（描写表現）では、1)～3)のいずれかを出願時に選択します。出願後の変更はできません。

実技検査（描写表現）

1) 木炭による素描 2) 鉛筆による素描 3) 水彩による静物着彩

実技検査（発想表現）

プレゼンテーションボードの作成

持参道具については、学生募集要項に掲載します。

(2) 後期日程

出願時に1)～4)のいずれかを選択します。出願後の変更はできません。

実技検査（描写表現）

1) 木炭による素描 2) 鉛筆による素描 3) 水彩による静物着彩

実技検査（発想表現）

4) プレゼンテーションボードの作成

持参道具については、学生募集要項に掲載します。

6 2027年度大学入学共通テストの科目選択及び得点の取扱い等について

(1) 地歴・公民

1) 学部・学科等が受験科目を1科目と指定している場合に2科目受験した場合の取扱いについては、「第1解答科目」の得点を採用します。

2) 学部・学科等が受験科目を2科目と指定している際に、大学入試センターにおいて選択不可とされた科目の組合せで受験した場合は、無資格として取扱い、検定料の一部を返還します。

(2) 理科

1) 2科目を指定する学部・学科等においては、同一名称を付した科目及び出題範囲を選択することはできません。

例：『物理』と『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』（物理基礎と化学基礎の出題範囲を選択）などは不可。下線部が同一名称。

同一名称を付した科目及び出題範囲を選択した場合は、無資格として取扱い、検定料の一部を返還します。

2) 学部・学科等が受験科目を1科目と指定している場合に2科目受験した場合の取扱いについては、「第1解答科目」の得点を採用します。

(3) 数学

学部・学科等が受験科目を1科目と指定している場合に2科目受験した場合は、高得点の科目を採用します。

(4) 複数教科・科目間の選択にかかる得点の取扱いについて（指定科目数を超えて受験している場合）

複数教科間の科目採用については、高得点順とします。ただし、地歴・公民及び理科においては、「第1解答科目」を優先します。

(5) 外国語

外国語において英語を選択した者については、リスニングが必須となり、欠席した場合は、失格となります。ただし、大学入試センターからリスニングを免除された者については、リーディング（100点満点）の得点を合計欄の点数に換算し利用します。

各学部の配点は、下表のとおりです。

学 部 等		日 程	リーディング	リスニング	合 計
教育学部		前 期 後 期	150点	50点	200点
		総合型選抜Ⅱ	75点	25点	100点
芸術地域デザイン学部		前 期 後 期	150点	50点	200点
経済学部		前 期	75点	25点	100点
		後 期	150点	50点	200点
		総合型選抜Ⅱ			
医学部		前 期 後 期	105点	35点	140点
		学校推薦型選抜Ⅱ	120点	40点	160点
		佐賀県推薦			
理工学部		前 期	150点	50点	200点
		後 期	112.5点	37.5点	150点
		総合型選抜Ⅱ	187.5点	62.5点	250点
農学部		前 期 後 期	75点	25点	100点
	生物科学コース 食資源環境科学コース 生命機能科学コース	総合型選抜Ⅱ	150点	50点	200点
	国際・地域マネジメントコース		100点	100点	200点
コスメティックサイエンス学環		前 期	75点	25点	100点
		後 期			
		総合型選抜Ⅱ			

特 別 選 抜

1 2027年度学校推薦型選抜Ⅰ出願資格・選抜方法〔教育，芸術，経済〕

出願資格・出願要件（全学部）											
(1) 高等学校若しくは中等教育学校を2027年3月卒業見込みの者 (2) 特別支援学校の高等部を2027年3月卒業見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2027年3月修了見込みの者 (4) 高等学校長（※）が責任をもって推薦できる者で、合格した場合は確実に入学できる者 ※ 高等学校長とは上記(1)～(3)の学校長を示す											
学部	学科・コース等	方式	募集人員	共テ	出願要件	提出書類	段階	試験			
								試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
教育学部	小学校教育主専攻 小中連携教育コース 共同教員養成課程	学校推薦型選抜Ⅰ 〔佐賀県枠〕	10	×	(1) 佐賀県内の高等学校を2027年3月に卒業見込みの者 (2) 将来、佐賀県下の小学校教員として活躍を期待するに十分な意欲、資質、適性等を有する者 (3) 高等学校の調査書における学習成績の状況が4.3以上の者	調査書、推薦書、志望理由書	1次	佐賀県教育委員会による書類審査	11/1～11/6	—	11/18頃
							2次	基礎学力試験（外国語、数学）、小論文、面接		11/28	12/7
	特別支援教育専攻 教育支援探究コース 共同教員養成課程	学校推薦型選抜Ⅰ	5	×	(1) 将来、特別支援学校や小・中学校等で特別支援教育の仕事に携わる教員になることを強く志望する者 (2) 高等学校の調査書における学習成績の状況が3.8以上の者	調査書、推薦書		基礎学力試験（外国語）、小論文、面接		11/28	12/7
芸術地域デザイン学部	有田セラミック分野 芸術表現コース 芸術地域デザイン学科	学校推薦型選抜Ⅰ	3	×	学業成績、人物ともに特に優れ、芸術表現や当該分野に関して興味関心がある者、又は優れた経験・知識・技術・実績及び熱意がある者	調査書、推薦書、ポートフォリオ		面接（口頭試問を含む）、実技検査	11/1～11/6	11/28	12/7
経済学部	経済学科	学校推薦型選抜Ⅰ 〔商業系〕	35	×	(1) 全体の学習成績の状況が4.3以上の者で、人物、学力について優れる者 (2) 2026年度中に高等学校の卒業を認められた者を含む	調査書、推薦書、志望理由書、活動実績報告書(加点式)（任意）		基礎学力・学習力テスト(英語)、小論文、面接（口頭試問を含む）	11/1～11/6	11/27	12/7
		学校推薦型選抜Ⅰ 〔普通系〕	35	×	(1) 社会科学にとりわけ関心があり、かつ、人物について優れた全体の学習成績の状況が4.0以上の者 ただし、次のうちいずれかの要件を満たす者 ①成績優秀な者（外国語については学習成績の状況4.3以上） ②社会事象についての分析や、社会的活動等において優れた実績があり、それを裏付ける資料のある者 ③個性的で積極性に富み、高等学校長が、大学生活においてその能力を十分に発揮できると評価し、推薦に価すると思われる者 (2) 2026年度中に高等学校の卒業を認められた者を含む		基礎学力・学習力テスト(数学)、小論文、面接(口頭試問を含む)				

* 出願要件の「高等学校」とは出願資格・出願要件（全学部）に記載した学校及び施設を示す。
 * 「共テ」とは大学入学共通テストを示す。

評価基準	その他要件等
(1) 調査書等の評価基準 学業成績が優秀かどうか、教職を目指す強い意志を持ち、教員になるための基礎的な資質、能力を兼ね備えているかを、調査書、推薦書、志望理由書等により評価します。 (2) 小論文の評価基準 資料を提示してそれについて論述式の試験を行うことにより、文章理解力、資料の内容に関する知識、論理的な思考力、文章構成力、表現力を評価します。 (3) 面接の評価基準 志望動機、学習意欲、積極性、コミュニケーション能力について評価し、将来小学校教員になるための適性を備えているかを判断します。 (4) 基礎学力試験の評価基準 高等学校の教科書程度の内容が十分理解できているかを評価します。 (5) 合否判定基準 基礎学力試験の成績、小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書、志願者の志望理由書を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。 佐賀県教育委員会による第1次選考（書類審査）を行い、その選考結果は、2026年11月18日(木)頃通知します。 第2次選考については、第1次選考合格者に対して小論文、面接及び基礎学力試験を行い、各成績評価と書類審査の評価を総合して合格者を決定します。	・外国語は英コミュⅠ、英コミュⅡ、英コミュⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ ・数学は数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Aの全範囲、数学Bは数列、数学Cはベクトルから出題
(1) 調査書・推薦書の評価基準 学業成績、修学状況、部活動、社会活動等を見ます。 (2) 小論文の評価基準 出題されたテーマに対して、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力を見ます。 (3) 基礎学力試験の評価基準 高等学校の教科書程度の内容が十分理解できているかを評価します。 (4) 面接の評価基準 勉学意欲、特別支援教育への興味・関心等を見ます。 (5) 合否判定基準 書類（調査書及び推薦書）、小論文、基礎学力試験、面接の各成績評価を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・外国語は英コミュⅠ、英コミュⅡ、英コミュⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ
(1) 調査書、推薦書、ポートフォリオ（※）の採点・評価基準 調査書では「各教科、科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。また、推薦書とポートフォリオでは、活動実績と芸術表現に対する意欲を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。 ※ポートフォリオは活動実績や作品などをA4用紙で5ページ以内のファイルにまとめて提出してください。 (2) 面接の採点・評価基準 芸術表現を通して地域社会を考え、発想力、コミュニケーション能力等を有しているかを採点・評価基準とします。加えて、当該分野に関する口頭試問によって基礎的知識や制作活動の経験を把握し、当該分野に関する意欲の高さを評価します。 (3) 実技検査の採点・評価基準 自らの手による表現力、発想力など芸術表現に関わる基本的な能力を有しているかを採点・評価基準とします。 静物着彩では、基礎的な造形力に加え水彩絵具による表現力なども総合的に評価します。粘土による造形表現では、基礎的な造形力と表現力などを総合的に評価します。 (4) 合否判定基準 書類（調査書、推薦書及びポートフォリオ）、面接及び実技検査の各成績評価を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・実技検査 静物着彩・粘土による造形表現から1 粘土による造形表現は、試験時に手びねり又はロクロ成形を選択 ・入学志願者が募集人員の約4倍を超えた場合は、書類（調査書、推薦書及びポートフォリオ）による第1次選考を行う場合がある
(1) 調査書等の採点・評価基準 学習状況、クラブ活動等を見ます。 (2) 活動実績報告書（加点式）の採点・評価基準（申請者のみ） アドミッション・ポリシーに応じて、これまでの活動・実績を評価します。 (3) 小論文の採点・評価基準 資料を提示の上、それについての読解力、着眼力、思考力、文章表現力等を基準として評価します。 (4) 基礎学力・学習力テスト 志望学科に必要な基礎学力・学習力を評価します。 (5) 面接の採点・評価基準 口頭試問により社会への関心及び将来の学習意欲や高校生活の活動状況等について、アドミッション・ポリシーの観点から総合的に評価します。 (6) 合否判定基準 書類（調査書、推薦書等）、小論文及び面接等の各成績評価を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・商業系（商業高等学校の全科を含む）・情報系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・活動実績報告書（加点式）について「簿記」「情報」「英語」「商業経済」の4分野に関する資格・検定について、その難易度に応じて評価します。 ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います ・普通科又はこれに準ずると本学部が認める科 ・出願要件の②については証明する資料を添付 ・活動実績報告書（加点式）について 校内外を問わず、高等学校在学中に主体的に取り組んだ活動や実績について申請してください。校内活動としては、体育系・文化系の部活動、生徒会活動、課題研究（探究型学習）など、校外活動としては、社会活動（ボランティア、地域活動）、海外留学、スポーツ活動、文化・芸術活動、検定・資格取得、課題研究（探究型学習）などが該当します。なお、「課題研究（探究型学習）」に関する活動とは、校内外を問わず、高等学校在学中に取り組んだ課題研究（探究型学習）に関する活動です。高等学校の総合的な探究の時間等での課題研究（探究型学習）といった校内活動、大学（本学又は他大学）による高校生対象の課題研究（探究型学習）や、国・地方公共団体・企業・大学等が実施する課題研究型コンテストへの出場（ビジネスプランコンテスト、まちづくりプランコンテスト、社会科学系論文コンテスト等）といった校外活動が該当します。 申請がなければ当初配点で合否判定を行います。 ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います

2027年度学校推薦型選抜Ⅰ出願資格・選抜方法〔医，農〕

出願資格・出願要件（全学部）											
(1) 高等学校若しくは中等教育学校を2027年3月卒業見込みの者 (2) 特別支援学校の高等部を2027年3月卒業見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2027年3月修了見込みの者 (4) 高等学校長（※）が責任をもって推薦できる者で、合格した場合は確実に入学できる者 ※ 高等学校長とは上記(1)～(3)の学校長を示す											
学部	学科・コース等		方式	募集人員	共テ	出願要件	提出書類	試験			
								試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
医学部	看護学科		学校推薦型選抜Ⅰ	20	×	(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 将来、病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた看護職者あるいは看護学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者 (3) 2026年4月以降に高等学校卒業を認められた者を含む	調査書、推薦書、自己推薦書	小論文、面接	11/1～11/6	11/28	12/7
農学部	生物科学コース			3	×	(1) 専門系の科及び総合学科を卒業見込みの者で学習成績、人物について優れ、自然科学に対する熱意と能力があると評価される者 (2) 全体の学習成績の状況が4.3以上の者	調査書、推薦書、活動実績報告書	基礎学力・学習力テスト(化学・生物)、小論文、面接	11/1～11/6	11/27	12/7
	食資源環境科学コース			2				基礎学力・学習力テスト(数学・英語)、小論文、面接（口頭試問を含む。）			
	生命機能科学コース			1				基礎学力・学習力テスト（化学）、小論文、面接（口頭試問を含む。）			

* 出願要件の「高等学校」とは出願資格・出願要件（全学部）に記載した学校及び施設を示す。

* 「共テ」とは大学入学共通テストを示す。

評価基準	その他要件等
(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。 (2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優れた看護職者になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。 (3) 調査書等の評価基準 単に学業成績優秀というのみでなく、規則的な生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富んでいるかを高等学校3年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書により評価します。志願者本人による自己推薦書も同様に取り扱います。 (4) 合否判定基準 小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書等を総合してアドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。 なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。	・推薦人数は各高校2人以内
(1) 書類審査の採点・評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件及び生物資源科学科の「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。活動実績報告書では、申請された活動実績の内容について、「専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度」、「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」の観点から評価します。 (2) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力を見ます。 (3) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望コースに対する意欲等について、評価します。 (4) 合否判定基準 書類（調査書、推薦書、活動実績報告書等）、小論文及び面接等の各成績評価を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・農業系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・推薦人数は各高校の各課程から2人以内 ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います ・農業系の科、工業系の科及び総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・推薦人数は各高校の各課程から2人以内 ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います ・農業系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・推薦人数は各高校の各課程から1人 ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います

2027年度学校推薦型選抜Ⅰ出願資格・選抜方法〔理工〕

出願資格・出願要件（全学部）											
(1) 高等学校若しくは中等教育学校を2027年3月卒業見込みの者 (2) 特別支援学校の高等部を2027年3月卒業見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2027年3月修了見込みの者 (4) 高等学校長（※）が責任をもって推薦できる者で、合格した場合は確実に入学できる者 ※ 高等学校長とは上記(1)～(3)の学校長を示す											
学部	学科・コース等		方式	募集人員	共テ	出願要件	提出書類	試験			
								試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
理工学部	理工学科	情報分野 データサイエンスコース 知能情報システムコース	学校推薦型選抜Ⅰ〔専門系〕	2		専門系の科及び総合学科を卒業見込みの者で学習成績、人物ともに優れ、科学技術に対する熱意と能力があると評価される者	調査書、推薦書、活動実績報告書	基礎学力・学習力テスト（数学）、小論文、面接（口頭試問を含む。）			
		化学分野 化学コース		2				基礎学力・学習力テスト（数学・化学）、小論文、面接（口頭試問を含む。）			
		機械工学分野 機械工学コース		4				基礎学力・学習力テスト（数学・物理）、小論文、面接（口頭試問を含む。）			
		電気電子工学分野 電気電子工学コース		4							
		都市基盤工学分野 都市基盤工学コース 建築環境デザインコース		3							
	理工学科	情報分野 データサイエンスコース 知能情報システムコース	学校推薦型選抜Ⅰ〔普通系一般枠〕	3	×	・普通科、理数科又はこれに準ずると本学部が認める科を卒業見込みの者で学習成績、人物ともに優れ、科学技術に対する熱意と能力があると評価される者 ※女子は、学校推薦型選抜Ⅰ〔普通系女子枠〕との併願可	調査書、推薦書、活動実績報告書	基礎学力・学習力テスト（数学）、小論文、面接（口頭試問を含む。）	11/1 ～11/6	11/27	12/7
理工学科	情報分野 データサイエンスコース 知能情報システムコース	学校推薦型選抜Ⅰ〔普通系女子枠〕	3		・普通科、理数科又はこれに準ずると本学部が認める科を卒業見込みの女子で学習成績、人物ともに優れ、科学技術に対する熱意と能力があると評価される者 ※学校推薦型選抜Ⅰ〔普通系一般枠〕との併願可	調査書、推薦書、活動実績報告書	基礎学力・学習力テスト（数学）、小論文、面接（口頭試問を含む。）				

* 出願要件の「高等学校」とは出願資格・出願要件（全学部）に記載した学校及び施設を示す。
 * 「共テ」とは大学入学共通テストを示す。

評価基準	その他要件等
(1) 書類審査（調査書）の採点・評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願資格及び理工学科の「求める学生像」から逸脱していないかを確認します。	・専門系の科、総合学科の情報分野に関係する専門教育に関する科目の単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
(2) 書類審査（活動実績報告書）の採点・評価基準 活動実績報告書では、志望分野に関係するこれまでの活動の実績（例えば、研究レポートや研究ノートなどの探究学習の記録、校内外のイベント等での発表、回路・模型・プログラムなどの作成物、関連する資格への応募状況や取得状況、知識や技術の習得に向けた勉学の記録等）を評価します。これらの活動実績は、「専門分野に対する強い興味・関心」、「主体的に学び続けようとする意欲と態度」、「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部教育・研究活動を活性化できる可能性」の3つの観点から総合的に評価します。活動実績報告書の記載内容は、面接時の口頭試問で確認しますので、根拠資料は公的な証書に限らず、個人的に記録した文書のコピーや個人的に撮影した写真を含めてもかまいません。	・工業系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
(3) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力を見ます。	・機械系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
(4) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望分野に対する意欲等について評価します。また、口頭試問によって志望分野での学びに必要な基礎的知識、及び活動実績報告書の内容等について評価します。	・電気・電子・情報系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
(5) 合否判定基準 書類（調査書、推薦書、活動実績報告書等）、小論文及び面接等の各成績評価を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・土木・建築系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
(1) 書類審査（調査書）の採点・評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願資格及び理工学科の「求める学生像」から逸脱していないかを確認します。	
(2) 書類審査（活動実績報告書）の採点・評価基準 活動実績報告書では、志望分野に関係するこれまでの活動の実績（例えば、研究レポートや研究ノートなどの探究学習の記録、校内外のイベント等での発表、回路・模型・プログラムなどの作成物、関連する資格への応募状況や取得状況、知識や技術の習得に向けた勉学の記録等）を評価します。これらの活動実績は、「専門分野に対する強い興味・関心」、「主体的に学び続けようとする意欲と態度」、「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部教育・研究活動を活性化できる可能性」の3つの観点から総合的に評価します。活動実績報告書の記載内容は、面接時の口頭試問で確認しますので、根拠資料は公的な証書に限らず、個人的に記録した文書のコピーや個人的に撮影した写真を含めてもかまいません。	
(3) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力を見ます。	
(4) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望分野に対する意欲等について評価します。また、口頭試問によって志望分野での学びに必要な基礎的知識、及び活動実績報告書の内容等について評価します。	
(5) 合否判定基準 書類（調査書、推薦書、活動実績報告書等）、小論文及び面接等の各成績評価を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	
(1) 書類審査（調査書）の採点・評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願資格及び理工学科の「求める学生像」から逸脱していないかを確認します。	・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
(2) 書類審査（活動実績報告書）の採点・評価基準 活動実績報告書では、志望分野に関係するこれまでの活動の実績（例えば、研究レポートや研究ノートなどの探究学習の記録、校内外のイベント等での発表、回路・模型・プログラムなどの作成物、関連する資格への応募状況や取得状況、知識や技術の習得に向けた勉学の記録等）を評価します。これらの活動実績は、「専門分野に対する強い興味・関心」、「主体的に学び続けようとする意欲と態度」、「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部教育・研究活動を活性化できる可能性」の3つの観点から総合的に評価します。活動実績報告書の記載内容は、面接時の口頭試問で確認しますので、根拠資料は公的な証書に限らず、個人的に記録した文書のコピーや個人的に撮影した写真を含めてもかまいません。	
(3) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力を見ます。	
(4) 面接の採点・評価基準 志望分野において卒業後のキャリアやそれを実現するために在学中に取り組みたいこと等について確認するとともに、自己の目標や志望分野に対する意欲等について評価します。また、口頭試問によって志望分野での学びに必要な基礎的知識、及び活動実績報告書の内容等について評価します。	
(5) 合否判定基準 書類（調査書、推薦書、活動実績報告書等）、小論文及び面接等の各成績評価を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	

2 2027年度学校推薦型選抜Ⅱ出願資格・選抜方法〔医〕

出願資格・出願要件（全学部）											
(1) 高等学校若しくは中等教育学校を2027年3月卒業見込みの者 (2) 特別支援学校の高等部を2027年3月卒業見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2027年3月修了見込みの者 (4) 高等学校長（※）が責任をもって推薦できる者で、合格した場合は確実に入学できる者 ※ 高等学校長とは上記(1)～(3)の学校長を示す											
学部・学科等	方式	募集人員	出願資格及び出願要件	提出書類	評価基準	外国語					
						英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語	科目数
						リスニング リーディング	リスニング				
	一般枠	18 (注)	(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 将来、病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた医師あるいは医学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者 (3) 2025年4月以降に高等学校の卒業を認められた者を含む	調査書、推薦書、自己推薦書	(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。 (2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。 (3) 調査書等の評価基準 単に学業成績優秀というのみでなく、規則的な生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富んでいるかを高等学校3年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書により評価します。志願者本人による自己推薦書も同様に取り扱います。 (4) 合否判定基準 大学入学共通テストの成績、小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書等を総合してアドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。 なお、大学入学共通テストの成績が本学部の基準を満たしていない場合、あるいは面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。	◎					1
医学部医学科	佐賀県枠	22	(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、佐賀県内の医療活動に貢献したいという強い意思を有する者 (3) 高等学校を2027年3月に卒業見込みの者又は2025年4月以降に卒業を認められた者で、次のいずれかに該当する者 ①佐賀県内の高等学校を卒業又は卒業見込みの者 ②佐賀県外の高等学校を卒業又は卒業見込みの者のうち、佐賀県内の小学校、中学校のいずれかを卒業し、保護者が佐賀県内に2026年10月1日現在で3年以上継続して在住している者（出願手続時に住民票あるいは戸籍の附票で確認） (4) 大学卒業後は、佐賀県内において3年間の勤務（原則として2年の初期臨床研修を含む連続した3年間）に従事することを確約できる者	調査書、推薦書、自己推薦書、志願理由書、確約書			160				一般枠と同じ

【注意事項】
① ◎は必須教科の必須科目、○は必須教科の選択科目。
② 大学入学共通テストでは『地理総合／歴史総合／公共』は必ず2出題範囲の選択が必要。この場合、2つの出題範囲を合わせて「1科目」として扱う。
③ 大学入学共通テスト外国語の英語はリーディングとリスニングの受験が必須。それぞれの配点については、36ページに記載。
④ 大学入学共通テストにおいて、必要な教科・科目のうち一つでも受験しなかった者は無資格となる。
(注) 地域の医師確保のための臨時定員増において増員数（3人）が削減あるいは廃止となった場合、学校推薦型選抜Ⅱ（一般枠）の入学定員数（18人）を削減し、他の選抜の入学定員数を確保する場合があります。

3 2027年度佐賀県推薦入学特別選抜出願資格・選抜方法〔医〕

試験方法：大学入学共通テスト、小論文、面接					出 願 期 間：（1次）2026年10月13日～10月23日、（2次）2026年11月11日～11月16日							
試 験 日：（1次）2026年11月7日、8日、（2次）2026年11月28日					合格者発表日：（1次）2026年11月10日、（2次）2027年2月9日							
学部・学科等	募集人員	出願資格及び出願要件	段階	提出書類	評価基準	外国語						
						英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語		科目数
						リーディング	リスニング					
医学部医学科	10	(1) 佐賀県が責任をもって推薦できる者（佐賀県による第一次選考合格者） (2) 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、佐賀県内での医療活動に従事し、県民の健康と福祉の増進に寄与する医師となることを目指す者 (3) 高等学校を2027年3月に卒業見込みの者若しくは2024年4月以降に卒業を認められた者、又は、高等専門学校第3学年を2027年3月修了見込みの者若しくは2024年4月以降に修了した者で、いずれも高等学校等における調査書の学習成績概評がA段階に属する者（高等学校には、中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む） (4) 最終合格者は、必ず佐賀大学医学部に入学し、入学後は、「佐賀県医師修学資金」の貸与を6年間受けること及びキャリア形成プログラム（佐賀県が策定した医療法（昭和23年法律第205号）第30条の23第2項第1号に規定する計画）に同意することを確約できる者 (5) 大学卒業後は、キャリア形成卒前支援プラン及びキャリア形成プログラムに基づき、①高度急性期機能の需要増加に対処するための医師（内科、小児科、外科、産婦人科、脳神経外科、麻酔科及び救急科）、②総合的な診療能力を有する医師（総合内科及び総合診療科）等として佐賀県が指定する佐賀県内の医療機関で診療に従事することを確約できる者	1次 調査書、所信書、課題論文、確約書	(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。 (2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。また、将来、佐賀県内での医療活動に従事し県民の健康と福祉の増進に寄与する医師となることを目指す意思の有無も評価の基準とします。 (3) 佐賀県からの推薦書等 単に学業成績優秀というのみでなく、規則的な生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富んでいるかを、佐賀県からの推薦書及び添付書類を参考に評価します。 (4) 合否判定基準 佐賀県からの推薦書等、小論文、面接、大学入学共通テストの成績を総合的に判断して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。 なお、大学入学共通テストの成績が本学部の基準を満たしていない場合、あるいは面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。	◎					1		
		2次 佐賀県からの推薦書							160			

【注意事項】
① ◎は必須教科の必須科目、○は必須教科の選択科目。
② 大学入学共通テストでは『地理総合／歴史総合／公共』は必ず2出題範囲の選択が必要。この場合、2つの出題範囲を合わせて「1科目」として扱う。
③ 大学入学共通テスト外国語の英語はリーディングとリスニングの受験が必須。それぞれの配点については、36ページに記載。
④ 大学入学共通テストにおいて、必要な教科・科目のうち一つでも受験しなかった者は無資格となる。

試験方法：大学入学共通テスト，小論文，面接 試験 日：2026年11月28日														出 願 期 間：2026年11月 1 日～6 日 合格者発表日：2027年 2 月 9 日									
大学入学共通テスト														小論文	面接	合計点	その他要件等						
国語	数学				地理歴史，公民					理科								情報	教科科目数				
国語	数学Ⅰ	数学ⅠA	数学ⅡBC	科目数	地理総合・地理探究	歴史総合・日本史探究	歴史総合・世界史探究	公共・倫理	公共・政治・経済	地理総合・歴史総合・公民	科目数	地学基礎 生物基礎 化学基礎 物理基礎	物理					化学	生物	地学	科目数	情報Ⅰ	満点
◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1			○	○	○		2	◎	6・8			
160	160				80						160					10	730	150	90	970	・推薦人数は各高校2人以内		
一般枠と同じ																			・保護者とは，子に対して親権を行う者，親権を行う者のないときは未成年者後見人をいう。（本学における保護者の定義＜学校教育法から引用＞）				

4 2027年度総合型選抜Ⅰ出願資格・選抜方法〔教育、芸術〕

学部	学科・コース等	方式	募集人員	共テ	出願資格及び出願要件	提出書類	試験			
							試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
教育学部	共同教員養成課程 小中連携教育コース 小学校教育主専攻	総合型選抜Ⅰ	10	×	(1) 次のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年4月以降に卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年4月以降に修了した者及び2027年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、2025年4月以降にこれに該当する者及び2027年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 英語、音楽、体育、家庭のいずれかの分野に関して特に意欲・関心が高く、その分野に関する知識と技能が特に優れている者 (3) 英語分野については実用英語技能検定（2級以上）（2050～）※1、TEAP（220～）、GTEC（4技能）（900～）、TOEFL iBT（45～）※2のいずれかの取得を出願要件とする。 有効となる検定試験は、2025年4月1日以降に受験した検定試験に限る。 (4) 入学後、初等教育を中心に学修を行う意欲を有し、将来、小学校等の教員になることを強く志望する者 (5) 合格した場合は、確実に入学できる者	調査書、 志願理由書、 活動実績報告書	小論文、面接（口頭試験を含む）、志望分野に関する適性検査	9/10 ～9/17	10/9 音楽分野、 体育分野は 10/9、10/10	11/2
	共同教員養成課程 小中連携教育コース 中学校教育主専攻		8	×	(1) 次のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年4月以降に卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年4月以降に修了した者及び2027年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、2025年4月以降にこれに該当する者及び2027年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 英語、音楽、保健体育、家庭、技術のいずれかの分野に関して特に意欲・関心が高く、その分野に関する知識と技能が特に優れている者 (3) 英語分野については実用英語技能検定（2級以上）（2050～）※1、TEAP（220～）、GTEC（4技能）（900～）、TOEFL iBT（45～）※2のいずれかの取得を出願要件とする。 有効となる検定試験は、2025年4月1日以降に受験した検定試験に限る。 (4) 入学後、中等教育を中心に学修を行う意欲を有し、将来、中学校等の教員になることを強く志望する者 (5) 合格した場合は、確実に入学できる者					
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 美術・工芸分野	総合型選抜Ⅰ	10	×	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2027年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2027年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、2026年4月以降にこれに該当する者及び2027年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 芸術表現コースでの勉学を強く希望する者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者	調査書、 志願理由書、 ポートフォリオ	志望分野に関する適性検査、面接	9/10 ～9/17	10/10	11/2
	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 有田セラミック分野		7	×	(2) 芸術表現コースでの勉学を強く希望する者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者				10/9	
			芸術地域デザイン学科 地域デザインコース		15	×	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び2027年3月修了見込の者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者及び2027年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 地域デザインコースでの勉学を強く希望する者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者	調査書、 志願理由書、 活動実績報告書(加点式)(任意)	小論文、適性検査、面接	

* 「共テ」とは大学入学共通テストを示す。

※1 実用英語技能検定は、1級・準1級・2級のうちいずれかの英検級の受験により発行されたCSEスコアのみ受け付け、受験した級が不合格の場合でもCSEスコアが2050点以上の得点があれば出願要件を満たすものとします。

※2 TOEFL iBTは、2026年1月21日以降に受験した場合においても、0～120スコアスケールを使用します。

評価基準	その他要件等
(1) 調査書・志願理由書の評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件及び本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志願理由書では、出願資格及び出願要件の(2)(3)及び本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。 (2) 活動実績報告書の評価基準 志望分野に関するこれまでの活動実績（研究活動等の実績、外部の英語検定試験の成績、留学経験、大会・コンクール等の実績）を評価します。 (3) 小論文の評価基準 学校教育に関する資料を提示してそれについて論述式の試験を行うことにより、文章理解力、資料の内容に関する知識、論理的な思考力、文章構成力、表現力を評価します。 (4) 面接の評価基準 志望動機、専門領域に関する知識や理解、修学意欲、積極性、コミュニケーション能力等を評価し、将来小学校等の教員になるための適性を備えているかを判断します。 (5) 適性検査の評価基準 志望する分野の適性及び基礎能力を評価します。 (6) 合否判定基準 書類（調査書、志願理由書）、小論文、面接及び適性検査（活動実績報告書の評価を含む）の各成績評価を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・適性検査内容 英語分野：タブレット端末を用いた試験により、スピーキングを含む英語コミュニケーション能力を総合的に評価します。 音楽分野：専攻楽器(又は声楽)の個別レッスン2回、ソルフェージュの個別レッスン1回 体育分野：器械運動（マット運動）、ダンス、ゴール型球技（バスケットボール）、ネット型球技（バレーボール）、ベースボール型球技（ソフトボール）、武道（柔道か剣道より選択）の6種目における技能 家庭分野：与えられたテーマについてのプレゼンテーション資料の作成、個別発表及び質疑応答 ・入学志願者が多く、適性検査を適切に行うことが困難な場合は、書類（調査書、志願理由書及び活動実績報告書）により、第1次選考を行う
(1) 調査書・志願理由書の評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件及び本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志願理由書では、出願資格及び出願要件の(2)(3)及び本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。 (2) 活動実績報告書の評価基準 志望分野に関するこれまでの活動実績（研究活動等の実績、外部の英語検定試験の成績、留学経験、大会・コンクール等の実績）を評価します。 (3) 小論文の評価基準 学校教育に関する資料を提示してそれについて論述式の試験を行うことにより、文章理解力、資料の内容に関する知識、論理的な思考力、文章構成力、表現力を評価します。 (4) 面接の評価基準 志望動機、専門領域に関する知識や理解、修学意欲、積極性、コミュニケーション能力等を評価し、将来中学校等の教員になるための適性を備えているかを判断します。 (5) 適性検査の評価基準 志望する分野の適性及び基礎能力を評価します。 (6) 合否判定基準 書類（調査書、志願理由書）、小論文、面接及び適性検査（活動実績報告書の評価を含む）の各成績評価を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・適性検査内容 英語分野：タブレット端末を用いた試験により、スピーキングを含む英語コミュニケーション能力を総合的に評価します。 音楽分野：専攻楽器(又は声楽)の個別レッスン2回、ソルフェージュの個別レッスン1回 保健体育分野：器械運動（マット運動）、ダンス、ゴール型球技（バスケットボール）、ネット型球技（バレーボール）、ベースボール型球技（ソフトボール）、武道（柔道か剣道より選択）の6種目における技能 家庭分野：与えられたテーマについてのプレゼンテーション資料の作成、個別発表及び質疑応答 技術分野：与えられたテーマについてレゴブロックを用いて作品をつくり、プレゼンテーション及び質疑応答 ・入学志願者が多く、適性検査を適切に行うことが困難な場合は、書類（調査書、志願理由書及び活動実績報告書）により、第1次選考を行う
(1) 調査書、志願理由書、ポートフォリオ（※）の採点・評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。また、志願理由書とポートフォリオでは、活動実績と芸術表現に対する意欲を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。 ※ポートフォリオは活動実績や作品などをA4用紙で5ページ以内のファイルにまとめて提出してください。 (2) 面接の評価基準 熱意、修学意欲、積極性、主体性、発想力等を総合的に評価します。 (3) 適性検査の採点・評価基準 教科・科目から判断される基礎学力とは異なる主体性や分析力、行動力及び考察力を重視した多面的・総合的な採点、評価を行います。 (4) 合否判定基準 書類（調査書、志願理由書及びポートフォリオ）、適性検査及び面接の各成績評価を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・適性検査内容 模擬授業を受講後に作品制作を行います。 ・入学志願者が募集人員の約5倍を超えた場合は、書類（調査書、志願理由書及びポートフォリオ）による第1次選考を行う場合がある
(1) 調査書・志願理由書の評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件及び本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志願理由書では、本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。 (2) 活動実績報告書（加点的）の採点・評価基準（申請者のみ） 本コースのアドミッション・ポリシーに応じて、これまでの活動・実績を評価します。 (3) 面接の評価基準 熱意、修学意欲、積極性、主体性等を総合的に評価します。 (4) 小論文の採点基準 読解力、論理的思考力、分析力、考察力、企画力、発想力、表現力等を総合的に判断します。 (5) 適性検査の採点・評価基準 コミュニケーション能力、論理性、表現力等を総合的に評価します。 (6) 合否判定基準 書類（調査書、志願理由書、活動実績報告書（加点的）〈申請者のみ〉）、小論文、適性検査及び面接の各成績評価を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・適性検査内容 与えられたテーマについてのプレゼンテーション資料の作成、個別発表及び質疑応答 ・活動実績報告書（加点的）について 申請する活動・実績は、高等学校入学以降に取り組んだ主体的な活動や実績であれば何でも構いません。地域デザインコースの学びを理解し、入学後に何を生かせるかなどをしっかりと考えた上で積極的にアピールしてください。申請内容を補完する根拠となる資料等も重要です。アドミッション・ポリシーで示す「地域社会が抱える問題に関心があり、芸術を通じて地域社会を機能的に繋げていける企画力、発想力、表現力」、「主体的にものごとに取り組むことができる積極的な行動力」、「高等学校入学以降の主体的な実績・活動」について総合的に評価します。活動・実績の具体例として、地域創生などに関わる主体的な活動、課外活動（部活動や生徒会活動など）における実績や取り組み、研究活動（高大連携活動〈SSH、SGH等を含む〉、総合的な探究の時間等での活動実績）、資格・検定試験など外部試験等の実績、海外留学経験、その他主体的な活動などが考えられます。 ・入学志願者が募集人員の約5倍を超えた場合は、書類（調査書、志願理由書及び活動実績報告書（加点的）〈申請者のみ〉）による第1次選考を行う場合があります。 申請がなければ当初配点で合否判定を行います。

2027年度総合型選抜Ⅰ出願資格・選抜方法〔理工〕

学部	学科	コース等		方式	募集人員	共テ	出願資格及び出願要件	提出書類	試験			
									試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
理工学部	理工学科	数理分野	数理サイエンスコース	総合型選抜Ⅰ	2	×	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年4月以降に卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年4月以降に修了した者及び2027年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、2025年4月以降にこれに該当する者及び2027年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 志望分野への志望動機が明確で入学後も学習に対し意欲的に取り組む者 (3) 以下に指定している科目を履修している者 数理分野・・・数学Ⅲ 情報分野・・・数学Ⅲ 化学分野・・・数学Ⅲ，化学 その他の分野・・・数学Ⅲ，物理 (4) 合格した場合は、確実に入学できる者	調査書， 志望理由書， 活動実績報告書	適性検査， 面接（口頭 試問を含む）	11/1 ～11/6	11/28	12/7
		情報分野	データサイエンスコース 知能情報システムコース		11							
		化学分野	化学コース		5							
		物理学分野	物理学コース		7							
		機械工学分野	機械工学コース		5							
		電気電子工学専攻	電気電子工学コース		4							
		都市工学分野	都市基盤工学コース 建築環境デザインコース		4							

* 「共テ」とは大学入学共通テストを示す。

評価基準	その他要件等
(1) 書類審査（志望理由書、調査書）の採点・評価基準 志望理由書では、「本分野で学びたいという強い意欲」について評価します。調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願資格及び理工学科の「求める学生像」から逸脱していないかを確認します。	・適性検査の内容 数学の知識を活用した問題を出題することにより、知識のみならず論理プロセスも重視した数学に対する適性を評価します（ペーパーテストで実施）。出題範囲は、数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学Ⅲ、数学Cとします。 ・入学志願者が募集人員の約5倍を超えた場合は、書類（調査書、志望理由書、活動実績報告書）による第1次選考を行う場合があります。
(2) 書類審査（活動実績報告書）の採点・評価基準 活動実績報告書では、志望分野に関係するこれまでの活動の実績（例えば、研究レポートや研究ノートなどの探究学習の記録、校内外のイベント等での発表、回路・模型・プログラムなどの作成物、関連する資格への応募状況や取得状況、知識や技術の習得に向けた勉学の記録等）を評価します。これらの活動実績は、「専門分野に対する強い興味・関心」、「主体的に学び続けようとする意欲と態度」、「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」の3つの観点から総合的に評価します。活動実績報告書の記載内容は、面接時の口頭試問で確認しますので、根拠資料は公的な証書に限らず、個人的に記録した文書のコピーや個人的に撮影した写真を含めてもかまいません。	・適性検査の内容 問題文や資料等から処理手順を読み取り、そのアルゴリズムに関する論理的思考力を評価します。また、数学の知識を活用した問題を出題することにより、数学に対する適性を評価し、資料等を正しく読み解き、論理的に説明する能力も併せて評価します。出題範囲は、情報Ⅰ、数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学Ⅲ、数学C（「ベクトル」「平面上の曲線と複素数平面」）とします（出題する内容に応じて、ペーパーテスト又は口頭試問により実施）。 ・入学志願者が募集人員の約2.5倍を超えた場合は、書類（調査書、志望理由書、活動実績報告書）による第1次選考を行う場合があります。
(3) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望分野に対する意欲等について評価します。また、口頭試問によって志望分野での学びに必要な基礎的知識、及び活動実績報告書の内容等について評価します。	・適性検査の内容 化学実験などに関する資料（動画や写真、図表など）を題材に、知識のみならず論理プロセスも重視した化学や科学的思考力に対する適性を評価します（タブレット端末で問題を提示し、解答用紙に解答）。
(4) 適性検査の採点・評価基準 志望する分野の適性及び基礎能力を評価します。	・適性検査の内容 物理や数学の知識を活用した問題を出題することにより、知識のみならず論理プロセスも重視した物理に対する適性を評価します（ペーパーテストで実施）。
(5) 合否判定基準 書類（調査書、志望理由書及び活動実績報告書等）、面接及び適性検査の各成績評価を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。	・適性検査の内容 機械工学に関連した事項を題材とした問題を出題することにより、高等学校で学ぶ知識のみならず問題解決能力や論理的思考力を重視した機械工学に対する適性を評価します（ペーパーテストで実施）。 ・適性検査の内容 電気及び力学に関する物理の問題を出題することにより、知識のみならず論理的思考力も重視した上で、電気電子工学に対する適性を評価します（ペーパーテストで実施）。 ・適性検査の内容 数学（数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学Ⅲ、数学C）と物理（力学・熱力学・エネルギー・波動）に関する融合問題により、知識のみならず論理的思考も重視した数学と物理の素養を評価します（ペーパーテストで実施）。

5 2027年度総合型選抜Ⅱ出願資格・選抜方法〔教育、経済、農、コスメ〕

試験方法：大学入学共通テストの成績、書類審査 試験 日：佐賀大学における小論文や面接等の試験は行いません。		出 願 期 間：2027年1月18日～1月28日 合格者発表日：2027年2月9日			
学部・学科等	方式	募集人員	出願資格及び出願要件	提出書類	評価基準
教育学部	共同教員養成課程 小中連携教育コース 小学校教育主免許専攻 理数分野	2	(1) 次のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年4月以降に卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年4月以降に修了した者及び2027年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、2025年4月以降にこれに該当する者及び2027年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 理数分野に関して特に意欲・関心が高く、その分野に関する知識と技能が特に優れている者 (3) 入学後、初等教育を中心に学修を行う意欲を有し、将来、小学校（理科、数学の専科）等の教員になることを強く志望する者 (4) 合格した場合は、確実に入學できる者	調査書、 志望理由書、 活動実績報告書	(1) 調査書の評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件及び本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 (2) 志望理由書・活動実績報告書の評価基準 志望理由書では、出願資格及び出願要件の(2)(3)及び本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。 活動実績報告書では、志望分野に関するこれまでの活動実績（研究活動等の実績、留学経験、大会・コンクール等の実績）を評価します。 (3) 合否判定基準 大学入学共通テストの成績及び書類（調査書、志望理由書及び活動実績報告書）を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。
	共同教員養成課程 小中連携教育コース 中学校教育主免許専攻 理数分野	2	(1) 次のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年4月以降に卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年4月以降に修了した者及び2027年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、2025年4月以降にこれに該当する者及び2027年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 理数分野に関して特に意欲・関心が高く、その分野に関する知識と技能が特に優れている者 (3) 入学後、中等教育を中心に学修を行う意欲を有し、将来、中学校（理科、数学）等の教員になることを強く志望する者 (4) 合格した場合は、確実に入學できる者	調査書、 活動実績報告書	(1) 調査書の評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件及び本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 (2) 志望理由書・活動実績報告書の評価基準 志望理由書では、出願資格及び出願要件の(2)(3)及び本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。 活動実績報告書では、志望分野に関するこれまでの活動実績（研究活動等の実績、留学経験、大会・コンクール等の実績）を評価します。 (3) 合否判定基準 大学入学共通テストの成績及び書類（調査書、志望理由書及び活動実績報告書）を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。
経済学部	経済学科	25	(1) 次のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年4月以降に卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年4月以降に修了した者及び2027年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、2025年4月以降にこれに該当する者及び2027年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 本学部での勉学を強く希望する者 (3) 合格した場合は、確実に入學できる者	調査書、 活動実績報告書	(1) 書類審査の採点・評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件及び本学部の「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 活動実績報告書では、申請された活動実績の内容について、アドミッションポリシーに基づき評価します。 (2) 合否判定基準 大学入学共通テストの成績及び書類（調査書、活動実績報告書）を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。
農学部 生物資源科学科	生物科学コース	11	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年4月以降に卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年4月以降に修了した者及び2027年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、2025年4月以降にこれに該当する者及び2027年3月31日までにこれに該当する見込みの者	調査書、 志望理由書、 活動実績報告書	(1) 書類審査の採点・評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件及び生物資源科学科の「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志望理由書では、「本コースで学びたいという強い意欲」について評価します。 活動実績報告書では、申請された活動実績の内容について、「専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度」、「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」の観点から評価します。 調査書、志望理由書及び活動実績報告書のそれぞれの評価を考慮しながら、総合的に評価したものを書類審査の得点とします。 (2) 合否判定基準 大学入学共通テストの成績及び書類（調査書、志望理由書及び活動実績報告書等）を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。
	食資源環境科学コース	5	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年4月以降に卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年4月以降に修了した者及び2027年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、2025年4月以降にこれに該当する者及び2027年3月31日までにこれに該当する見込みの者		
	生命機能科学コース	10	(2) 各コースでの勉学を強く希望する者 (3) 合格した場合は、確実に入學できる者		
	国際・地域マネジメントコース	5			
コスメティックサイエンス学環		7	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年4月以降に卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年4月以降に修了した者及び2027年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、2025年4月以降にこれに該当する者及び2027年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 志望動機が明確で入学後も学習に対し意欲的に取り組む者 (3) 合格した場合は、確実に入學できる者	調査書、 志望理由書、 活動実績報告書	(1) 書類審査の採点・評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件及びコスメティックサイエンス学環の「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志望理由書では、「本学環で学びたいという強い意欲」について評価します。 活動実績報告書では、申請された活動実績の内容について、「専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度」、「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学の教育・研究活動を活性化できる可能性」の観点から評価します。 調査書、志望理由書及び活動実績報告書のそれぞれの評価を考慮しながら、総合的に評価したものを書類審査の得点とします。 (3) 合否判定基準 大学入学共通テストの成績及び書類（調査書、志望理由書及び活動実績報告書）を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。

【注意事項】

- ◎は必須教科の必須科目、○は必須教科の選択科目、◇は選択教科。
- 配点に（ ）を付している教科は、高得点の科目を採用する。ただし、「地理歴史、公民」及び「理科」において2科目受験した場合の高得点採用には、「第1解答科目」の得点を採用する。
- 大学入学共通テストでは『地理総合／歴史総合／公共』は必ず2出題範囲セットでの選択が必要。この場合、2つの出題範囲を合わせて「1科目」として扱う。
- 大学入学共通テストでは『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は必ず2出題範囲セットでの選択が必要。この場合、2つの出題範囲を合わせて「1科目」として扱う。

分野等	大学入学共通テスト																							書類審査	合計点						
	外国語						国語	数学				地理歴史、公民						理科								情報	教科 科目数				
	英語		ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語	科目数	国語	数学Ⅰ	数学ⅡA	数学ⅡB・C	科目数	地理総合・地理探究	歴史総合・日本史探究	歴史総合・世界史探究	公民・倫理	公民・政治・経済	地理総合・歴史総合・公民	科目数	地学基礎 生物学基礎	物理基礎 化学基礎	物理	化学			生物	地学	科目数	情報Ⅰ	満点	
	リーディング	リスニング																													
小学校教育主免専攻	○		○	○	○	○	1	◎	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	1			○	○	○	○	2	◎	6・8	◎	880
	100						100	250				100						250						30	830	50					
中学校教育主免専攻	○		○	○	○	○	1	◎	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	1			○	○	○	○	2	◎	6・8	◎	1180	
	100						100	400				100						400						30	1130	50					
－	○		○	○	○	○	1	◎	○	○	○	2	◇	◇	◇	◇	◇	◇	1		◇	◇	◇	◇	◇	1	◇	4・5	◎	730	
	200						200	200				(100)						(100)						(100)	700	30					
生物科学コース	○		○	○			1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○	○	○	2	◎	6・8	◎	1150	
	200						200	200				100						200						50	950	200					
食資源環境科学コース	○		○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○	○	○	2	◎	6・8	◎	1050	
	200						200	200				100						200						50	950	100					
生命機能科学コース	○		○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○	○	○	2	◎	6・8	◎	1000	
	200						100	200				100						200						50	850	150					
国際・地域マネジメントコース	○		○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○	○	○	2	◎	6・8	◎	1150	
	200						200	200				100						200						50	950	200					
－	○		○	○	○	○	1	◎		◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	1		○	○	○	○	○	2	◎	6・8	◎	500	
	100						100	100				50						100						25	475	25					

- ⑤ 大学入学共通テスト外国語の英語はリーディングとリスニングの受験が必須。それぞれの配点については、36ページに記載。
- ⑥ 理科2科目を指定する学部・学科等においては、同一名称を付した科目及び出題範囲を選択することはできません。
例：『物理』と『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』（物理基礎と化学基礎の出題範囲を選択）などは不可。下線部が同一名称。
- ⑦ 大学入学共通テストにおいて、必要な教科・科目のうち一つでも受験しなかった者は無資格となる。

2027年度総合型選抜Ⅱ出願資格・選抜方法〔理工〕

試験方法：大学入学共通テストの成績、書類審査 試験 日：佐賀大学における小論文や面接等の試験は行いません。			出 願 期 間：2027年1月18日～1月28日 合格者発表日：2027年2月9日				
学部・学科等			方式	募集人員	出願資格及び出願要件	提出書類	評価基準
理工学部 理工学科	数理分野	数理サイエンスコース	総合型選抜Ⅱ〔一般枠〕	2	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年4月以降に卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年4月以降に修了した者及び2027年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、2025年4月以降にこれに該当する者及び2027年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 志望分野への志望動機が明確で入学後も学習に対し意欲的に取り組む者 (3) 以下に指定している科目を履修している者 数理分野……数学Ⅲ 情報分野……数学Ⅲ 化学分野……数学Ⅲ、化学 その他の分野……数学Ⅲ、物理 (4) 合格した場合は、確実に入学できる者 ※女子は、同分野に限り、総合型選抜Ⅱ〔女子枠〕との併願可	調査書、 志望理由書、 活動実績報告書	(1) 書類審査（志望理由書、調査書）の採点・評価基準 志望理由書では、「本分野で学びたいという強い意欲」について評価します。調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願資格及び理工学科の「求める学生像」から逸脱していないかを確認します。 (2) 書類審査（活動実績報告書）の採点・評価基準 活動実績報告書では、志望分野に関係するこれまでの活動の実績（例えば、研究レポートや研究ノートなどの探究学習の記録、校内外のイベント等での発表、回路・模型・プログラムなどの作成物、関連する資格への応募状況や取得状況、知識や技術の習得に向けた勉学の記録等）を評価します。これらの活動実績は、「専門分野に対する強い興味・関心」、「主体的に学び続けようとする意欲と態度」、「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」の3つの観点から総合的に評価します。 (3) 合否判定基準 大学入学共通テストの成績及び書類（調査書、志望理由書及び活動実績報告書等）を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。
	情報分野	データサイエンスコース 知能情報システムコース		9			
	化学分野	化学コース		13			
	物理学分野	物理学コース		3			
	機械工学分野	機械工学コース		10			
	電気電子工学分野	電気電子工学コース		12			
	都市工学分野	都市基盤工学コース 建築環境デザインコース		6			
	情報分野	データサイエンスコース 知能情報システムコース	総合型選抜Ⅱ〔女子枠〕	2	(1) 次の各号のいずれかに該当する女子 ①高等学校若しくは中等教育学校を2025年4月以降に卒業した者及び2027年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を2025年4月以降に修了した者及び2027年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、2025年4月以降にこれに該当する者及び2027年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 志望分野への志望動機が明確で入学後も学習に対し意欲的に取り組む者 (3) 以下に指定している科目を履修している者 情報分野……数学Ⅲ 化学分野……数学Ⅲ、化学 その他の分野……数学Ⅲ、物理 (4) 合格した場合は、確実に入学できる者 ※同分野に限り、総合型選抜Ⅱ〔一般枠〕との併願可	調査書、 志望理由書、 活動実績報告書、 学修計画書	(1) 書類審査（志望理由書、調査書）の採点・評価基準 志望理由書では、「本分野で学びたいという強い意欲」について評価します。調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「学習成績の状況」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願資格及び理工学科の「求める学生像」から逸脱していないかを確認します。 (2) 書類審査（活動実績報告書）の採点・評価基準 活動実績報告書では、志望分野に関係するこれまでの活動の実績（例えば、研究レポートや研究ノートなどの探究学習の記録、校内外のイベント等での発表、回路・模型・プログラムなどの作成物、関連する資格への応募状況や取得状況、知識や技術の習得に向けた勉学の記録等）を評価します。これらの活動実績は、「専門分野に対する強い興味・関心」、「主体的に学び続けようとする意欲と態度」、「自ら学びを深めようとする行動や姿勢を通して、本学部の教育・研究活動を活性化できる可能性」の3つの観点から総合的に評価します。 (3) 書類審査（学修計画書）の採点・評価基準 学修計画書では、理工学分野において女性として活躍するために考えていること（例えば、卒業後の将来像（目標や目指すキャリア等）やその将来像を実現するために在学中に身に着けたいことや取り組みたいこと等）について確認します。 (4) 合否判定基準 大学入学共通テストの成績及び書類（調査書、志望理由書、活動実績報告書、学修計画書等）を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。
	化学分野	化学コース		2			
	物理学分野	物理学コース		2			
	機械工学分野	機械工学コース		2			
	電気電子工学分野	電気電子工学コース		2			
	都市工学分野	都市基盤工学コース 建築環境デザインコース		2			

【注意事項】

- ① ◎は必須教科の必須科目、○は必須教科の選択科目。
- ② 大学入学共通テストでは『地理総合／歴史総合／公共』は必ず2出題範囲の選択が必要。この場合、2つの出題範囲を合わせて「1科目」として扱う。

分野等	大学入学共通テスト																				書類審査		合計点									
	外国語						国語	数学			地理歴史、公民						理科					情報		教科 科目数	調査書、 志望理由書、 活動実績報告書	学修計画書						
	英語 リーディング	リスニング	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語	科目数	国語	数学Ⅰ	数学ⅠA	数学ⅡBC	科目数	地理総合、地理探究	歴史総合、日本史探究	歴史総合、世界史探究	公共・倫理	公共、政治・経済	地理総合、歴史総合、公共	科目数	地学基礎 生物基礎 化学基礎 物理基礎	物理	化学		生物			地学	科目数	情報Ⅰ	満点		
																															情報Ⅰ	満点
数理分野	○		○		○		1	◎			◎	◎	2	○	○			○	○		1				○		2	◎	6・8	◎		1150
	250						100	450			100						100					50	1050	100								
情報分野	○		○		○		1	◎			◎	◎	2	○	○			○	○		1				○		2	◎	6・8	◎		1300
	250						100	300			100						250					200	1200	100								
化学分野	○		○		○		1	◎			◎	◎	2	○	○			○	○		1				○		2	◎	6・8	◎		1300
	250						100	300			100						400					50	1200	100								
物理学分野	○		○		○		1	◎			◎	◎	2	○	○			○	○		1				○		2	◎	6・8	◎		1150
	250						100	300			100						250					50	1050	100								
機械工学分野	〔一般枠〕物理学分野と同じ																															
電気電子工学分野	○		○		○		1	◎			◎	◎	2	○	○			○	○		1				○		2	◎	6・8	◎		1150
	250						100	300			100						250					50	1050	100								
都市工学分野	〔一般枠〕物理学分野と同じ																															
情報分野	○		○		○		1	◎			◎	◎	2	○	○			○	○		1				○		2	◎	6・8	◎	◎	1300
	250						100	300			100						250					200	1200	100	2段階評価							
化学分野	○		○		○		1	◎			◎	◎	2	○	○			○	○		1				○		2	◎	6・8	◎	◎	1300
	250						100	300			100						400					50	1200	100	2段階評価							
物理学分野	○		○		○		1	◎			◎	◎	2	○	○			○	○		1				○		2	◎	6・8	◎	◎	1150
	250						100	300			100						250					50	1050	100	2段階評価							
機械工学分野	〔女子枠〕物理学分野と同じ																															
電気電子工学分野	○		○		○		1	◎			◎	◎	2	○	○			○	○		1				○		2	◎	6・8	◎	◎	1150
	250						100	300			100						250					50	1050	100	2段階評価							
都市工学分野	〔女子枠〕物理学分野と同じ																															

【注意事項】

- ③ 大学入学共通テスト外国語の英語はリーディングとリスニングの受験が必須。それぞれの配点については、36ページに記載。
- ④ 大学入学共通テストにおいて、必要な教科・科目のうち一つでも受験しなかった者は無資格となる。

6 2027年度帰国生徒選抜，社会人選抜出願資格・選抜方法〔医，理工，農〕

学部	学科	方式	募集人員	共テ	出願資格及び出願要件	提出書類	試験			
							試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
医学部	医学科	帰国生徒	若干人	×	日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者であって、外国の学校教育を受けた者のうち、保護者とともに2年以上継続して外国に在留し、次のいずれかに該当する者とします。 ただし、2025年3月31日以前に帰国（一時的な短期の帰国を除く）した者及び保護者が帰国した後、本人が帰国するまでの期間が2年以上経過した者は、出願を認めません。 (1) 学校教育における12年の課程を2025年4月1日から2027年3月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で、原則として、外国において最終学年を含め、2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者 ただし、外国に設置された学校等であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を行っている学校に在学して教育を受けた期間は、「2年以上」という期間には算入しません。 (2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を2025年又は2026年に授与された者。 (3) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を2025年又は2026年に授与された者。 (4) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を2025年又は2026年に授与された者。 (5) 英国において大学入学資格として認められている GCEA レベル資格及び国際 A レベル資格を取得した者。 (6) 欧州連合加盟国において大学入学資格として認められている欧州バカロレア資格を取得した者 (7) 国際的な評価団体（WASC, CIS, ACSI, NEASC, Cognia）から認定を受けた外国に所在する教育施設において、12年の課程を修了した者。	証明書類	学力検査（数学・理科・外国語）、面接	11/1 ～11/6	2/25 ～2/26	3/8
	理工学科		若干人		日本国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者であって、外国の学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当する者とします。 (1) 学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む）を外国又は日本において、2025年4月1日から2027年3月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で、卒業（修了）時点から起算して過去4年間の内、外国において2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者 ただし、外国に設置された学校等であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学して教育を受けた期間は、「2年以上」という期間には算入しません。 (2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を2025年又は2026年に授与された者。 (3) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を2025年又は2026年に授与された者。 (4) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を2025年又は2026年に授与された者。 (5) 英国において大学入学資格として認められている GCEA レベル資格及び国際 A レベル資格を取得した者。 (6) 欧州連合加盟国において大学入学資格として認められている欧州バカロレア資格を取得した者 (7) 国際的な評価団体（WASC, CIS, ACSI, NEASC, Cognia）から認定を受けた外国に所在する教育施設において、12年の課程を修了した者。		小論文、面接（口頭試問を含む）	11/27	12/7	
	農学部		生物資源科学科	若干人		(1) 学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む）を外国又は日本において、2025年4月1日から2027年3月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で、卒業（修了）時点から起算して過去4年間の内、外国において2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者 ただし、外国に設置された学校等であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学して教育を受けた期間は、「2年以上」という期間には算入しません。 (2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を2025年又は2026年に授与された者。 (3) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を2025年又は2026年に授与された者。 (4) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を2025年又は2026年に授与された者。 (5) 英国において大学入学資格として認められている GCEA レベル資格及び国際 A レベル資格を取得した者。 (6) 欧州連合加盟国において大学入学資格として認められている欧州バカロレア資格を取得した者 (7) 国際的な評価団体（WASC, CIS, ACSI, NEASC, Cognia）から認定を受けた外国に所在する教育施設において、12年の課程を修了した者。				
医学部	看護学科	社会人	若干人	×	2027年4月1日現在、年齢が満21歳以上であり、社会人として3年以上の経験を有し、看護学を修め、卒業後看護の分野で就業する意思のある者で、次のいずれかに該当する者とします。 (1) 高等学校若しくは中等教育学校（以下「高等学校」と言う）を卒業した者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者 (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者 注) 社会人の期間には、パートやアルバイトの就業期間及び学校等（予備校、大学、専修学校高等課程・専門課程）の在学期間は含まない	調査書等、成績証明書、志願理由書	小論文、面接	11/1 ～11/6	11/28	12/7

* 「共テ」とは大学入学共通テストを示す。

評価基準	その他要件等
(1) 学力検査の教科名・科目名等 数学 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C（注） 理科 物基・物、化基・化 外国語 英コミュⅠ、英コミュⅡ、英コミュⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲ （注）数学は、数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲは全範囲から出題します。数学Aは「図形の性質」「場合の数と確率」「数学と人間の活動（整数の性質に関する部分）」、数学Bは「数列」、数学Cは「ベクトル」「平面上の曲線と複素数平面」を出題範囲とします。 (2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。 (3) 合否判定基準 学力検査、面接、提出書類を総合してアドミッション・ポリシーに基づき最終的な合格者を決定します。 学力検査及び面接の配点 ・数学 80点 ・理科 80点 ・外国語 80点 ・面接 120点（総合得点360点） なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。	
(1) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、解釈力、論理的思考力、表現力及び記述力等を見ます。 (2) 面接の採点・評価基準 必要な基礎知識、自己の目標、志望学科に対する意欲を問います。 (3) 合否判定基準 書類（成績証明書等）、小論文及び面接等の結果を資料として判定の上、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。 書類審査、小論文及び面接の配点 書類審査2段階評価（適・否）、小論文100点、面接100点（総合得点200点）	
(1) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、解釈力、論理的思考力、表現力及び記述力等を見ます。 (2) 面接の採点・評価基準 必要な基礎知識、自己の目標、志望学科に対する意欲を問います。 (3) 合否判定基準 書類（成績証明書等）、小論文及び面接等の結果を資料として判定の上、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。 書類審査並びに小論文及び面接の配点 書類審査100点、小論文200点、面接200点（総合得点500点）	
(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。 (2) 面接の採点・評価基準 これまでの社会人としての経験を生かした、看護学科志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通じて評価し、将来優れた看護職者になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。 なお、志願理由書及び調査書は面接にあたって参考にします。 (3) 合否判定基準 小論文及び面接の結果を総合して、アドミッション・ポリシーに基づき合格者を決定します。 小論文及び面接の配点 小論文200点、面接60点（総合得点260点） なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。	

7 2027年度学校推薦型選抜Ⅰ，総合型選抜Ⅰの配点について

学校推薦型選抜Ⅰ

学区 学部、学科・課程等名			書類審査 (注1)	小論文	面接	実技検査	その他	大学入学 共通テスト	総合得点 (総合評価)	活動実績 報告書 (加点式)
教育学部	共同教養課程	小中連携教育コース 小学校教育主免専攻[佐賀県枠]	50	100	150		200 (注2)		500	
		教育支援探究コース 特別支援教育専攻	50	150	150		50 (注2)		400	
芸術学部		芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 有田セラミック分野	300		200	300			800	
経済学部	経済学科	商業系の科・情報系の科・ 総合学科推薦	2段階 評価 (合、否)	100	2段階 評価 (合・否)		20 (注3)		2段階 評価 (合、否) (注4)	40
		普通科又はこれに準ずると 本学部が認める科推薦								20
医学部	看護学			320	180				500	
理工学部	理工学科	データサイエンスコース	100	100	100		100 (注3)		400	
		知能情報システムコース								
		化学コース								
		機械工学コース								
		電気電子工学コース								
		都市基盤工学コース								
		建築環境デザインコース								
データサイエンスコース	[普通系 一般枠]									
知能情報システムコース	[普通系 女子枠]									
農学部	生物資源科学科	生物科学コース	100	100	100		200 (注3)		500	
		食資源環境科学コース	100	200	200		100 (注3)		600	
		生命機能科学コース	150	200	200		50 (注3)		600	

(注1) 調査書、推薦書等

(注3) 基礎学力・学習力テスト

(注2) 基礎学力試験

(注4) 活動実績報告書(加点式)の得点を加味して評価します。

総合型選抜Ⅰ

学区 学部、学科・課程等名			書類審査 (注1)	小論文	面接	適性検査	大学入学 共通テスト	総合得点 (総合評価)	活動実績 報告書 (加点式)
教育学部	共同教養課程	小中連携 教育コース	100	100	150	200 (注2)		550	
		小学校教育主免専攻 中学校教育主免専攻							
芸術学部	芸術地域デザイン学科	芸術表現 コース	300		300 (注3)	200		800	
		有田セラミック分野	200		200 (注3)	400		800	
		地域デザインコース	2段階評価 (合、否)	300	200	500 (注4)		1000	100
理工学部	理工学科	数理サイエンスコース	100		100	100		300	
		データサイエンスコース 知能情報システムコース							
		化学コース							
		物理学コース							
		機械工学コース							
		電気電子工学コース 都市基盤工学コース 建築環境デザインコース							

(注1) 調査書、志願理由書等

(注2) 適性検査の評価に活動実績報告書の評価も含みます。

(注3) 面接は適性検査に関する質疑応答を含みます。

(注4) プレゼンテーション資料作成の評価を300点、プレゼンテーション及び質疑応答の評価を200点とします。

VII 私費外国人留学生入試

本学では、私費外国人留学生のために特別の学力検査等を実施します。

1 出願資格

日本の国籍を有しない（日本国の永住許可を得ていない）者で、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」（2026年6月又は2026年11月実施のいずれか）を受験し、TOEFLを受験済みの者（経済学部を除く。）で、次に掲げるいずれかの入学資格を有する者

- (1) 日本国外において、学校教育による12年の課程を修了した者及び2027年3月までに修了見込みの者
- (2) 上記(1)に準ずる者で、文部科学大臣の指定する者

2 募集人員

各学部（教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部、医学部(医学科)、理工学部、農学部）とも若干人

3 入学者選抜方法

- (1) 教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部、理工学部、農学部

入学者の選抜は、次頁のとおり独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の成績及びTOEFLの成績（経済学部を除く。）並びに本学が行う学力検査・面接等の成績を総合的に判断し、アドミッション・ポリシーに基づき最終的な合格者を決定します。

- (2) 医学部（医学科）

入学者の選抜は、次頁のとおり独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の成績及びTOEFLの成績並びに本学が行う学力検査・面接を総合的に判断し、アドミッション・ポリシーに基づき最終的な合格者を決定します。

※学力検査の教科・科目名等

数 学 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C（注）

理 科 物基・物、化基・化

外国語 英コミュⅠ、英コミュⅡ、英コミュⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、
論理・表現Ⅲ

（注）数学は、数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲは全範囲から出題します。数Aは「図形の性質」「場合の数と確率」「数学と人間の活動（整数の性質に関する部分）」、数Bは「数列」、数Cは「ベクトル」「平面上の曲線と複素数平面」を出題範囲とします。

事 項		教育学部		芸術地域 デザイン学部		経済学部	医学部	理工学部	農学部	
				芸術表現コース	地域デザインコース					
日 本 留 学 試 験	利用する回の指定	6 月、11月のいずれか								
	出 題 言 語 の 指 定	日本語		日本語		日本語	日本語	日本語又 は英語	日本語	
	文 系 と 理 系 の 別	文系	理系	文系		文系	理系	理系	理系	
	目 科	日 本 語	○	○	○		○	○	○	○
		理 科	/		/		/		/	
		数学(コース1)	△	△	△		○	○	○	○
		数学(コース2)	△	△	△		○		○	○
		総 合 科 目	○	/		○		○	○	○
	目	理科の選択科目	/		/		/		「物理」, 「化学」, 「生物」から 2 科目選択	「物理」, 「化学」, 「生物」から 2 科目選択
			「物理」, 「化学」, 「生物」から 2 科目選択		/		/		「物理」, 「化学」, 「生物」から 2 科目選択	「物理」, 「化学」, 「生物」から 2 科目選択
TOEFL (注4)		○		○		○		○	○	
学力検査等		面接、日本語 (作文)		面接、 実技検査	面接、 日本語(作文)	面接、 日本語	面接、 学力検査	面接 (口頭試問を含む)	面接	
特記事項、備考		面接を通じて、教育学部の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。		鉛筆による デッサン (実技道具は大学で準備します。)		日本語は、 読解及び作文とします。	面接を通じて、志望学科の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。	面接を通じて、志望学科の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。	面接を通じて、志望学科の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。	

(注1) ○印は、必ず受験しておくことを示します。

(注2) △印は、数学のコース1又はコース2から1つを受験しておくことを示します。

(注3) 各学部第1志望のみ。

(注4) インターネット出願時にTOEFL iBTの受験情報【スコア】を入力してください。また、Test Taker Score Report (PDF)を提出してください。さらに、必ずTOEFLを実施しているETSの個人アカウントにログイン後、送信を希望するスコアの試験を選択し、本学が指定するDIコードを選択のうえ、スコアの直送手続きを行ってください。

※手続き方法 (https://www.toefl-ibt.jp/test_takers/toefl-ibt/scores.html)

※受験日の前日午後10時までにスコア送信手続きを行うことで、最大4機関まで無料でスコアを送付することが可能です。その場合は、アカウント左側の『My Tests』より受験予定の試験を選択し、本学指定のDIコード【8267】を利用して、送信先の設定を行ってください。

日本留学試験、TOEFL、学力検査等の配点等

事 項		教育学部		芸術地域 デザイン学部		経済学部	医学部	理工学部	農学部
				芸術表現コース	地域デザインコース				
日本留学試験	文 系 と 理 系 の 別	文系	理系	文系		文系	理系	理系	理系
	日 本 語	450	450	450		325	450	450	450
	理 科		200				200	200	200
	数 学	200	200	200		100	200	200	200
	総 合 科 目	200		200		100			
TOEFL		300		300			300	300	300
面 接		400	400	500	400	合、否	60	850	850
日 本 語		500	500		500	300			
学 力 検 査							240		
実 技 検 査				400					
総 合 評 価 等		2,050		2,050		合、否	1,450	2,000	2,000

4 入試日程

学 部	出願期間	試 験 日	合格者発表日
教育学部、芸術地域デザイン学部、 経済学部、理工学部、農学部	2026年11月11日(水) }	2027年2月26日(金)	2027年3月8日(月)
医学部(医学科)	2026年11月18日(水)	2027年2月25日(木)	
		2027年2月26日(金)	

VIII 合格者を対象とした入学前教育の実施について

佐賀大学では合格者を対象とした入学前教育を行います。入学前教育の詳細は合格者に送付する合格通知書に同封します。

IX 障がい等のある志願者との事前相談について

障がい等のある志願者で、受験上及び修学上の配慮を必要とする方は、本学ホームページから「障がい等のある志願者による事前相談申請書」をダウンロードし、必要事項を記入の上、必要書類を添えて学務部入試課に送付し相談してください。

なお、本学では、ウェルビーイング創造センター 学修支援部門を設置して、障がい等のある学生及び障がい等のある入学志願者への支援を行っています。

* 必要書類

医師の診断書

大学入学共通テスト受験上の配慮事項決定通知書（写）（大学入試センターに申請し通知書が手元にある者）

相談の期限

申請される場合は、所定の出願開始日の1週間前までに申請書を提出してください。

なお、相談の内容によっては、本学の試験までに対応できず、配慮を希望される措置が講じられない場合がありますので、可能な限り早めに相談してください。

また、期限後に不慮の事故等により受験上及び修学上の配慮を希望する場合は、その時点で速やかに相談してください。

受験上の配慮の一例

- | | |
|--------------------------|------------------|
| ・ 試験時間の延長 | ・ 車椅子の持参使用 |
| ・ 1階又はエレベーターが利用可能な試験室で受験 | ・ 杖の持参使用 |
| ・ 多目的トイレに近い試験室で受験 | ・ 拡大文字問題冊子の配付 |
| ・ 座席を最前列／最後列／出入口付近等に指定 | ・ 注意事項等の文書による伝達 |
| ・ 別室の設定 | ・ 試験場への乗用車での入構 |
| ・ 補聴器又は人工内耳の装用 | ・ 試験室入口までの付添者の同伴 |
| ・ 特製机・椅子の持参使用 | |

X インターネット出願について

佐賀大学では、パソコン、スマートフォン等を利用したインターネットによる出願受付を行っており、各学生募集要項や出願に必要な書類はホームページでご確認いただいております。

・出願から受験までの流れ

出願登録サイトにて「インターネット事前登録開始日」から出願情報の登録はできますが、出願書類提出期間内に各種出願書類を提出する必要がありますので、それに間に合うように出願登録・検定料の支払いを行ってください。

なお、学部によっては、特色加点申請書、活動実績報告書、志望理由書などをインターネット出願システムと連動したJ-Bridge System（書類申請システム）から登録する必要があります。



佐賀大学 学務部 入試課

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1番地

TEL 0952-28-8178

ホームページ <https://www.saga-u.ac.jp/>

e - m a i l contact@mail.admin.saga-u.ac.jp



佐賀大学教授会規則

(平成16年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人佐賀大学基本規則（平成16年4月1日制定）第41条第2項の規定に基づき、佐賀大学の各学部及び学環（以下「学部等」という。）に置かれる教授会に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 教授会は、当該学部等の専任の教授をもって組織する。

2 前項に定める者のほか、特任教授（時間雇用職員を除く。以下同じ。）を構成員に加えることができる。

3 前2項の規定にかかわらず、教育学部教授会にあつては、教育学部及び学校教育学研究科の専任の教授をもって組織する。ただし、教育学部教授会の定めるところにより、特任教授を構成員に加えることができる。

4 特任教授については、次条第1項第1号及び第2号に定める事項の審議には加わることができない。

(審議事項)

第3条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、当該事項を審議し、意見を述べるものとする。

(1) 学部等の長候補者の選考に関する事項

(2) 教員（非常勤講師を含む。）の配置要望に関する事項

(3) 教育課程の編成に関する事項

(4) 学生の入学、卒業及び課程の修了並びに学位の授与に関する事項

(5) 学生の転学部等、転学科及び転課程に関する事項

(6) 学生の懲戒に関する事項

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部等の長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べるができる。

(議長)

第4条 教授会に議長を置き、学部等の長をもって充てる。

2 議長は、教授会を主宰する。

3 議長に事故があるときは、あらかじめ議長が指名した教授が、その職務を代行する。

(審議事項等の通知)

第5条 教授会の審議事項等は、あらかじめ通知するものとする。ただし、緊急の場合は、この限りでない。

(議事)

第6条 教授会は、半数以上であつて当該学部等が定める割合以上の構成員が出席しなければ、議事を開き、議決をすることができない。

2 教授会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

ただし、当該教授会が特に必要があると認めた事項については、3分の2以上の多数をもって議決しなければならない。

(代議員会等)

第7条 教授会は、その定めるところにより、教授会を構成する教員のうちの一部の者をもって構成される代議員会、専門委員会等（次項において「代議員会等」という。）を置くことができる。

2 教授会は、その定めるところにより、代議員会等の議決をもって、教授会の議決とすることができる。

(教授会規程)

第8条 学部等は、この規則に基づき、当該学部等の教授会規程を定めるものとする。

附 則

この通則は、平成１６年４月１日から施行する。

附 則（平成１９年３月２２日改正）

この通則は、平成１９年４月１日から施行する。

附 則（平成２１年５月２２日改正）

この通則は、平成２１年５月２２日から施行する。

附 則（平成２２年３月２５日改正）

この通則は、平成２２年４月１日から施行する。

附 則（平成２２年１１月２４日改正）

この通則は、平成２２年１１月２４日から施行する。

附 則（平成２７年３月２６日改正）

この規則は、平成２７年４月１日から施行する。

附 則（平成２８年２月２４日改正）

１ この規則は、平成２８年４月１日から施行する。

２ 文化教育学部教授会は、改正後の第２条の規定にかかわらず、文化教育学部が存続する間、同条の規定中「専任」とあるのは、「併任」と読み替えて、この規則を適用する。

附 則（平成３０年２月２８日改正）

この規則は、平成３０年４月１日から施行する。

附 則（平成３０年５月２３日改正）

この規則は、平成３０年５月２３日から施行する。

附 則（令和７年３月２７日改正）

この規則は、令和７年４月１日から施行する。

附 則（令和８年１月２８日改正）

この規則は、令和８年４月１日から施行する。

佐賀大学経済学部教授会規程

(平成16年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 佐賀大学教授会規則(平成16年4月1日制定)第8条の規定による佐賀大学経済学部教授会(以下「教授会」という。)の組織、権限、運営等については、この規程の定めるところによる。

(組織)

第2条 教授会は、専任の教授をもって組織する。

(審議事項)

第3条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、当該事項を審議し、意見を述べるものとする。

- (1) 学部長及び副学部長候補者の選考に関する事項
- (2) 教員(非常勤講師を含む。)の配置要望に関する事項
- (3) 教育課程の編成に関する事項
- (4) 学生の入学、卒業及び課程の修了並びに学位の授与に関する事項
- (5) 学生の転学部、転学科に関する事項
- (6) 学生の懲戒に関する事項

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長(以下「学長等」という。)がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(議長)

第4条 教授会に議長を置き、学部長をもって充てる。

- 2 議長は、教授会を主宰する。
- 3 議長に事故があるときは、学部長があらかじめ指名した教授が、その職務を代行する。

(審議事項等の通知)

第5条 教授会の審議事項等はあらかじめ通知するものとし、通知しなかった議事を日程に加えるときは、あらかじめ教授会の承認を得なければならない。

- 2 議長は、教育研究評議会その他諸般の事項を教授会に報告するものとする。
- 3 各種の委員は、委員会その他の関連事項を教授会に報告するものとする。

(議事)

第6条 教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決をすることができない。

- 2 議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、第3条第1号及び第2号並びに教授会が特に必要があると認めた事項については、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(議事録)

第7条 議事その他必要な事項は、議事録に記載し、次回以降の教授会において、その内容を確認するものとする。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、教授会に関し、必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月20日改正)

この規程は、平成１９年４月１日から施行する。

附 則（平成２２年１１月２４日改正）

この規程は、平成２２年１１月２４日から施行する。

附 則（平成２７年５月１３日改正）

この規程は、平成２７年５月１３日から施行し、平成２７年４月１日から適用する。

附 則（平成３０年３月２０日改正）

この規程は、平成３０年４月１日から施行する。

附 則（平成３０年６月６日改正）

この規程は、平成３０年６月７日から施行する。

国立大学法人佐賀大学教員会議規程

(令和6年3月1日制定)

目 次

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人佐賀大学基本規則（平成16年4月1日制定）第42条第2項の規定に基づき、佐賀大学の各学部及び学環（以下「学部等」という。）に置かれる教育課程の編成に係る会議（以下「教員会議」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 学部等に、教員会議を置く。

2 教員会議は、当該学部等の教育に携わる次に掲げる教員をもって組織する。

(1) 国立大学法人佐賀大学職員人事規程（平成16年4月1日制定）別表に規定する大学教員（助手を除く。）

(2) 国立大学法人佐賀大学契約職員人事規程（平成21年3月11日制定）別表に規定する教育職員のうち、当該学部等の教育課程に係る主要授業科目を担当し、又は一の年度（4月1日から翌年の3月31日までをいう。）につき8単位以上の当該学部等の教育課程に係る授業科目を担当する特定教育職員、特任教員及び寄附講座等教員（寄附講座助手及び寄附研究部門助手を除く。）

(審議事項)

第3条 教員会議は、次に掲げる事項について審議する。

(1) 学部等の教育課程の編成に係る事項

(2) その他議長が必要と認める事項

(議長)

第4条 教員会議に議長を置き、学部等の長又は学部等の長が指名する者をもって充てる。

2 議長は、教員会議を主宰する。

3 議長に事故があるときは、あらかじめ議長が指名した教員が、その職務を代行する。

(議事)

第5条 教員会議は、半数以上の構成員が出席しなければ、議事を開き、議決をすることができない。

2 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、当該教員会議が特に必要があると認めた事項については、3分の2以上の多数をもって議決することができる。

(事務)

第6条 教員会議の事務は、当該学部等の事務部が行う。

2 当該学部等の事務部は、教員会議開催に関する議事録等の作成及び保存等を適切に行わなければならない。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、教員会議の実施に関し必要な事項については、学部等が別に定める。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

附 則（令和6年4月25日改正）

この規程は、令和6年5月1日から施行する。

附 則（令和7年3月18日改正）

この規程は、令和7年3月18日から施行する。

附 則（令和 7 年 3 月 2 7 日改正）

この規程は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和 8 年 3 月 2 5 日改正）

この規程は、令和 8 年 4 月 1 日から施行する。

佐賀大学教育委員会運営内規

(平成18年4月24日制定)

目 次

(趣旨)

第1条 この内規は、佐賀大学教育委員会規則（平成16年4月1日制定。以下「規則」という。）第9条の規定に基づき、佐賀大学教育委員会（以下「委員会」という。）の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(副委員長)

第2条 委員会に、副委員長を置く。

2 副委員長は、規則第4条第3項の規定により、委員長が指名した委員をもって充てる。

(専門委員会)

第3条 委員会に、次に掲げる専門委員会を置く。

(1) 教務専門委員会

(2) 教育質保証専門委員会

2 各専門委員会の専門委員長は、委員会の議に基づき、委員長が指名する。

(専門委員会の活動)

第4条 専門委員会は、それぞれ次に掲げる活動を行う。

(1) 教務専門委員会

ア 学部、研究科及び教養教育センターの協議を要する事項

イ ラーニング・ポートフォリオ等の学習支援に関する事項

ウ 分野横断教育プログラムに関する事項

エ 情報通信技術活用教育に関する事項

オ その他学生の学修に関する事項

(2) 教育質保証専門委員会

ア 教育の質保証の実施に関する事項

イ 教員の資質の向上及び能力の開発に関する事項

ウ ティーチング・ポートフォリオ及び情報通信技術活用教育等の教育支援に関する事項

エ その他委員長が特に指示する事項

(提案)

第5条 専門委員会委員長は、専門委員会の議に基づき、委員会に必要な提案を行うものとする。

(委員以外の出席)

第6条 専門委員会が必要と認めたときは、専門委員会委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、委員会の運営に関し、必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この内規は、平成18年4月24日から施行する。

附 則

この内規は、平成21年1月29日から施行する。

附 則

この内規は、平成２２年４月１日から施行する。

附 則

この内規は、平成２２年７月６日から施行する。

附 則

この内規は、平成２４年４月１日から施行する。

附 則

この内規は、平成２５年４月１日から施行する。

附 則（平成２６年４月２５日改正）

この内規は、平成２６年４月２５日から施行し、平成２６年４月１日から適用する。

附 則（令和７年３月２７日改正）

この内規は、令和７年４月１日から施行する。

佐賀大学学士課程における教育の質保証に関する方針

(平成25年3月15日制定)

目 次

佐賀大学（以下「大学」という。）は、佐賀大学学則（平成16年4月1日制定）第2条に規定する大学の目的に即して、以下の方針に基づき、組織的・計画的に教育課程を編成・実施し、その結果を検証して改善することで、学士課程における教育の質保証を推進する。

1 大学に関わる方針

大学は、教員への教育活動支援、学生への学修・生活支援を実施し、教育情報等を収集、公表するとともに、学部等の教育実施状況及び成果の分析結果に基づき自己点検・評価を行い、学士課程教育の質の維持又は向上に必要な措置を講じる。

2 学部等に関わる方針

- (1) (1) 学部等（学部、学環及び教養教育センターをいう。以下同じ。）は、各教育課程について一貫した入学者受入れの方針、教育課程編成・実施の方針及び学位授与の方針（教養教育センターにあっては教育課程編成・実施の方針）を定める。
- (2) 学部及び学環は、入学者受入れの方針に基づき、適切かつ公正な学生の受入れを実施し、求める学生像に沿った入学者の確保に努める。
- (3) 学部等は、教育課程編成・実施の方針に基づき、組織的・計画的に教育課程を編成・実施する。
- (4) 学部等は、教員への教育活動支援、学生への学修・生活支援を実施し、教育・学修の質の向上を推進する。
- (5) 学部及び学環は、学位授与の方針に基づき、学修成果を勘案し、学位を授与する。
- (6) 学部等は、教育の実施結果について、自己点検・評価に関する組織を整備し、教育課程の編成及び教育の質の維持又は向上に必要な手順を定め実行する。

3 教員に関わる方針

- (1) 教員（学部等の教育研究組織の教員をいう。以下同じ。）は、学部等が定める教育課程編成・実施の方針に基づき、担当する授業等を計画・実施し、学生の学修に必要な指導を行うとともに、厳格かつ適正な成績評価を実施する。
- (2) 教員は、授業等の実施結果を自己点検・評価し、必要な改善を図る。
- (3) 教員は、必要に応じて教育活動の計画、実施、点検及び改善について、学科・課程・部会等の教員と連携して取り組む。
- (4) 教員は、学生の学修活動を支援するとともに、自らの教育力向上に積極的に取り組む。

附 則

この方針は、平成25年3月15日から実施する。

附 則（令和2年1月22日改正）

この方針は、令和2年1月22日から実施する。

附 則（令和7年3月27日改正）

この方針は、令和7年4月1日から実施する。

附 則（令和８年３月２５日改正）

この方針は、令和８年４月１日から実施する。

佐賀大学学士課程における教育の質保証の推進に係るガイドライン

(平成25年3月15日制定)

目次

1 趣旨

このガイドラインは、「佐賀大学学士課程における教育の質保証に関する方針（平成25年3月15日制定）」に基づく教育の質保証の推進に関し佐賀大学等が取り組むべき事項を示すものである。

2 実施事項

(1) 大学において実施する事項

大学は、次に掲げる事項等を計画・実施・点検・改善する体制を構築し、教育の質保証を推進・支援する。

- 1) 大学は、教員の教育活動を活性化するため、新任教員研修、各種講演会・研修会等を実施する。
- 2) 大学は、学部及び学環学生（以下「学生」という。）の学修活動を活性化するため、次に掲げる学修支援を行う。
 - ア 各種アドバイザーによる学修相談
 - イ 情報通信技術（ICT）等を活用した自学自習システムの整備
 - ウ ノートテイカー、手話通訳等の配置
 - エ 学生の海外派遣、留学生の受入れ
- 3) 大学は、学生の学生生活を支援するため、次に掲げる生活支援を行う。
 - ア 学生カウンセラー、ソーシャルワーカー等による学生の生活相談への対応
 - イ 各種奨学金の給付
- 4) 大学は、社会への説明責任を果たすため、学内構成員や学外関係者から聴取した教育情報及び教育活動に関する意見を収集、管理し、これを適切に分析した結果を公表する。
- 5) 大学は、教育情報等の分析結果を活用して点検・評価を行い、その結果に基づき、次に掲げる取組を行う。
 - ア 学生による優れた学修活動への学生表彰等の実施
 - イ 教員による優れた教育活動への教育功績等表彰の実施
 - ウ 教育に関し改善を要する事項への適切な措置の実行

(2) 学部、学環及び教養教育センター（以下「学部等」という。）において実施する事項

- 1) 学部等は、別表に掲げる事項等を計画・実施・点検・改善する体制を構築し、教育の質保証を推進する。
- 2) 学部等は、教育の質の維持又は向上にあたって、自律的な自己点検・評価の実施及び点検・評価結果を活用したマネジメントサイクルに関する方針（平成23年2月9日学長決定）に規定する外部評価等の結果を活用するものとする。

(3) 教員において実施する事項

教員は、次に掲げる事項等を実施し、組織的な教育の質保証の推進に寄与する。

- 1) 教員は、教育課程編成・実施の方針に基づき、シラバスを作成し、授業計画を立て、必要に応じて研究活動を反映した授業を実施する。
- 2) 教員は、学生の学修活動を活性化するため、次に掲げる学修支援を行う。
 - ア ティーチング・アシスタントの事前研修及び指導
 - イ 予習・復習等の学修課題の提示

ウ 必要に応じた補習等の実施

エ オフィスアワー等による学生からの学修相談への対応及び指導・助言

オ ラーニング・ポートフォリオ等による学生の学修状況の把握、学修相談への対応及び指導・助言

3) 教員は、成績評価を厳格かつ適正に実施するため、次に掲げる取組を行う。

ア 成績評価基準の公表

イ 模範解答例等の開示

ウ 成績評価に関する質問又は異議への対応

4) 教員は、成績評価結果や学生による授業評価に基づき、授業点検・評価を行い、次年度の授業改善目標を作成・公表し、これに基づき授業を改善する。

5) 教員は、学内外で開催される各種講演会やティーチング・ポートフォリオ・ワークショップなどの研修会に積極的に参加し、担当する授業科目の内容や方法等の改善を図る。

附 則

このガイドラインは、平成25年12月25日から実施する。

附 則（令和2年1月22日改正）

このガイドラインは、令和2年1月22日から実施する。

附 則（令和3年5月31日改正）

このガイドラインは、令和3年5月31日から実施する。

附 則（令和7年3月27日改正）

このガイドラインは、令和7年4月1日から実施する。

附 則（令和8年3月25日改正）

このガイドラインは、令和8年4月1日から実施する。

別表

別表（PDF）

ガイドライン別表

*は大学院課程のみ			
基準 番号	大項目	小項目	大学機関別認証評価において 想定する点検等に用いる資料の例
1	学位授与の方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に定める。		学位授与の方針
2	教育課程編成・実施の方針を学位授与の方針と整合的なものにする。	教育課程編成・実施の方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示する。	教育課程編成・実施の方針、学位授与の方針
		教育課程編成・実施の方針を、学位授与の方針と整合的にする。	教育課程編成・実施の方針、学位授与の方針
3	教育課程編成及び授業科目の内容が、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に即して体系的であり相応しい水準であるものにする。	体系的に教育課程を編成する。	カリキュラム・マップ、コースナンバリング、履修モデル等
		授業科目の内容を、授与する学位に相応しい水準とする。	シラバス点検
		他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規程を法令に従い規則等で定める。	認定に関する規程
		*大学院課程においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導する。	研究指導実施報告書、学位論文指導体制が確認できる規程
4	学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に即して、適切な授業形態、学習指導法を採用する。	1年間の授業を行う期間を原則として35週にわたるものとする。	学年暦
		各科目の授業期間を10週又は15週にわたるものにする。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果を上げるようにする。	学年暦、シラバス
		適切な授業形態、学習指導法を採用し、授業の方法及び内容を学生に対して明示する。	シラバス
		教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当する。	シラバス
		*専門職大学院は、履修登録の上限設定の制度（CAP制度）を適切に設ける。	CAP制に関する規程
		*大学院において教育方法の特例（大学院設置基準第14条）の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行う場合は、法令に即した実施方法とする。	大学院学則
		*教職大学院は、連携協力校を確保する。	連携協力校との連携状況が確認できる資料
5	学位授与の方針に即して適切な履修指導、支援を行う。	学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言を行う。	ラーニング・ポートフォリオ、ガイダンス、チューター制、能力別クラス分け、リメディアル教育
		学生のニーズに応え得る学習相談の体制を組織として整備し、指導、助言を行う。	ラーニング・ポートフォリオ、オフィスアワー
		社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施する。	キャリア関連科目、インターンシップ実施状況、ボランティア活動
		障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整える。	障害のある学生への支援状況（ノートテイク等）、留学生への支援状況（外国語による時間割・シラバス）、その他履修上特別な支援を要する学生への支援状況
6	教育課程編成・実施の方針に即して、公正な成績評価を厳格かつ客観的に実施する。	成績評価基準を学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に即して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定する。	成績評価基準
		成績評価基準を学生に周知する。	学生便覧、シラバス、履修の手引き、オリエンテーション
		成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認する。	成績評価の分布を確認している資料
		成績に対する異議申立制度を組織的に設ける。	成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知が明示されている資料、申立ての内容及びその対応、申立ての件数が分かる資料、成績評価の根拠となる資料（答案、レポート、出席記録等）を保存することを定めている規程類
7	大学等の目的及び学位授与の方針に即して、公正な卒業（修了）判定を実施する。	大学等の目的及び学位授与の方針に即して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定する。	卒業又は修了の要件を定めた規程、卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業判定の手順が確認できる資料。
		大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文審査基準」という。）を組織として策定する。	学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準、修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料
		策定した卒業（修了）要件（学位論文審査基準を含む）を学生に周知する。	履修の手引き、オリエンテーションの資料
		卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文審査基準を含む）に即して組織的に実施する。	教授会等での審議状況の資料、学位論文審査の審議状況の資料
8	大学等の目的及び学位授与の方針に即して、適切な学習成果を得る。	標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況を、大学等の目的及び学位授与の方針に即して適正なものとなるよう努める。	標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率
		就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学状況が、大学等の目的及び学位授与の方針に即して適正なものとなるよう努める。	就職率、進学率
		卒業（修了）生が大学等の目的及び学位授与の方針に即した学習成果を得ていることを卒業（修了）生への意見聴取の結果により確認する。	卒業予定者アンケート
		卒業（修了）後一定期間の就業体験等を経た者が大学等の目的及び学位授与の方針に即した学習成果を得ていることを卒業（修了）後一定期間の就業体験等を経た者への意見聴取の結果により確認する。	卒業（修了）後一定期間経過した者へのアンケート、インタビュー
		卒業（修了）生が大学等の目的及び学位授与の方針に即した学習成果を得ていることを就職先等への意見聴取の結果により確認する。	就職先アンケート